県営圃場整備事業(昭和55年度)
埋蔵文化財緊急発掘調査報告

高尾第1
本郷原林
田切平沢

1981

信州大学附属図書館
受付

長野県上伊那郡飯島町
南信土地改良事務所

序

飯島町においては，昭和48年から県営ほ場整備事業が実施され，今年度は飯島地区第26工区高尾地籍，七久保地区第26工区本郷原林地籍，田切地区第33工区平沢地籍が実施されています。

当地籍は，古くから集落が発達した地域であり，文化財保護の立場から，飯島町遺跡調査会に依頼し調査を行ないました。

幸いにも南信土地改良事務所の御配意と，県教育委員会文化課の御指導のもとで，優秀なる調査団の先生方により大きな成果をあげられたことは，感謝にたえません。

出土品については，飯島町陣嶺館に展示し一般の方々に見ていただく予定です。

調査報告書の刊行に当たって関係各位に対し心から感謝申し上げる次第であります。

昭和56年３月15日

飯島町教育委員会教育長

熊　崎　安　二

信州大学附属図書館
受　付

凡　　例

1. この調査は，県営ほ場整備事業に伴なう緊急発掘調査で，調査は南信土地改良事務所の委託により，飯島町が実施した。
2. 本調査は，昭和55年度中に業務を終了する義務があるため，報告書は図版を主体とし，文章記述はできるだけ簡略にし，資料の再検討は後日の機会にゆずることにした。
3. 本文の執筆は，友野良一，伊藤　修が行なった。
4. 本報告書の編集は，主として飯島町遺跡調査会があたった。

〔発掘参加者名簿〕

○高尾第１遺跡

北原健三，野村智利，中村ゆきゑ，中村恵子，熊崎静子，知久登美子，小林よし子，熊崎文恵，唐沢辰男，小林初子，木下みさお，小林一蔵，熊崎せき，小林広世，宮下貞夫，宮下高治，羽生ゆき，堀越としゑ，上山利男，田中直敏，堀越智，北原良子，高坂文四郎，北原甲子三，熊崎三郎，北原政子，富永芳一，中村正純

○本郷原林遺跡

桃沢匡行，中島淑雄，松下国夫，吉沢由子，星野泰志，田中正彦，高坂文四郎，堀越　智，林亀松，伊藤幸一，満沢　宏，米山宇一，中島少翁一，森谷慶福，矢沢亀五郎，新井　勝，田中直敏，宮下貞夫，唐木孝治，三松ますみ，山口藤子，山岸藤太郎，桃沢和子，小林広世，佐々木大治，米山千勢，織田正己，林　晴子，原ふみ子，宮下高治，米山正一，山口玲子，北原甲子三，富永芳一，

○田切平沢遺跡

小林嘉男，北原甲子三，平沢　孝，森谷八雄，小池篤人，小林一剰，小林栄子，森谷美枝，宮脇綾子，宮脇万枝，林かね子，松崎研定

高尾第１遺跡

目　　次

序
凡　例
目次，挿図目次，図版目次
第Ⅰ章　遺跡の概観 …… （ 1 ）
　第１節　位置 …… （ 1 ）
　第２節　地形・地質 …… （ 1 ）
第Ⅱ章　発掘調査の経過 …… （ 3 ）
　第１節　発掘調査に至るまで …… （ 3 ）
　第２節　調査日誌 …… （ 3 ）
第Ⅲ章　遺構 …… （ 6 ）
第Ⅳ章　遺物 …… （40）
第Ⅴ章　まとめ …… （54）

挿　図　目　次

第１図　位置図（１：100,000）
第２図　地形図（１：2,000）
第３図　遺構配置図（１：400）
第４図　第１号住居址（１：80）
第５図　第２号住居址（１：80）
第６図　第３号住居址（１：80）
第７図　第４号住居址（１：80）
第８図　第５号住居址（１：80）
第９図　第６号住居址（１：80）
第10図　第７号住居址（１：60）
第11図　第８号住居址（１：60）
第12図　第９号住居址（１：80）
第13図　第10号住居址（１：80）
第14図　第11号住居址（１：80）
第15図　第14号住居址（１：80）
第16図　第15号住居址（１：80）
第17図　第13号・第16号住居址（１：80）
第18図　第17号住居址（１：80）
第19図　第18号住居址（１：80）
第20図　第20号住居址（１：60）
第21図　第21号住居址（１：60）
第22図　第22号住居址（１：80）
第23図　第24号住居址（１：80）
第24図　第25号住居址（１：60）
第25図　第26号住居址（１：80）
第26図　第27号住居址（１：80）
第27図　第28号住居址（１：80）
第28図　第29号住居址（１：60）
第29図　第30号住居址（１：60）
第30図　第31号住居址（１：60）
第31図　第32号住居址（１：80）
第32図　第33号住居址（１：80）
第33図　第34号住居址（１：80）
第34図　第35号住居址（１：80）
第35図　第36号住居址（１：60）
第36図　第37号住居址（１：80）
第37図　第38号住居址（１：80）
第38図　第39号住居址（１：80）
第39図　第40号住居址（１：60）
第40図　第41号住居址（１：80）

第41図　第42号住居址（１：80）
第42図　第43号住居址（１：80）
第43図　第44号住居址（１：80）
第44図　第45号住居址（１：60）
第45図　第46号住居址（１：80）
第46図　第47号住居址（１：80）
第47図　第48号住居址（１：80）
第48図　第49号住居址（１：80）
第49図　第50号住居址（１：80）
第50図　第51号住居址（１：60）
第51図　土器実測図（１：４）
第52図　土器実測図（１：４）
第53図　土器実測図（１：４）
第54図　土器実測図（１：４）
第55図　土器実測図（１：４，１：２）
第56図　石器実測図（１：３）
第57図　石器・土製品実測図（１：３）
第58図　土偶実測図（１：２）
第59図　土偶実測図（１：２）

図　版　目　次

Ｐ１　遺跡航空写真（ラジコン飛行機）
Ｐ２　ラジコン飛行機による航空写真撮影
Ｐ３　航空写真撮影風景
Ｐ４　遺跡南全景
Ｐ５　第１号住居址
Ｐ６　第２号住居址
Ｐ７　第３号住居址
Ｐ８　第４号住居址
Ｐ９　第４号住居址
Ｐ10　第５号住居址
Ｐ11　第８号住居址
Ｐ12　第18号住居址
Ｐ13　第24号住居址
Ｐ14　第25号住居址
Ｐ15　第28，29号住居址
Ｐ16　第30号住居址
Ｐ17　第31号住居址
Ｐ18　第26号住居址
Ｐ19　第33号住居址
Ｐ20　第34号住居址
Ｐ21　第37号住居址
Ｐ22　第35号住居址
Ｐ23　第38号住居址
Ｐ24　第39号住居址
Ｐ25　第40号住居址
Ｐ26　第41号住居址
Ｐ27　第42号住居址
Ｐ28　第43号住居址
Ｐ29　第44号住居址
Ｐ30　第47号住居址
Ｐ31　第50号住居址
Ｐ32　炉
Ｐ33　炉
Ｐ34　炉
Ｐ35　炉
Ｐ36　炉
Ｐ37　土坑
Ｐ38　土器出土状況
Ｐ39　土器出土状況
Ｐ40　土器出土状況
Ｐ41　土器出土状況
Ｐ42　土器出土状況
Ｐ43　土器出土状況
Ｐ44　出土土器
Ｐ45　出土土器
Ｐ46　出土土器
Ｐ47　出土土器

P１　遺跡航空写真（ラジコン飛行機）

P２　ラジコン飛行機による航空写真撮影

P３　航空写真撮影風景

第Ⅰ章　遺跡の概観

第1節　位　　置

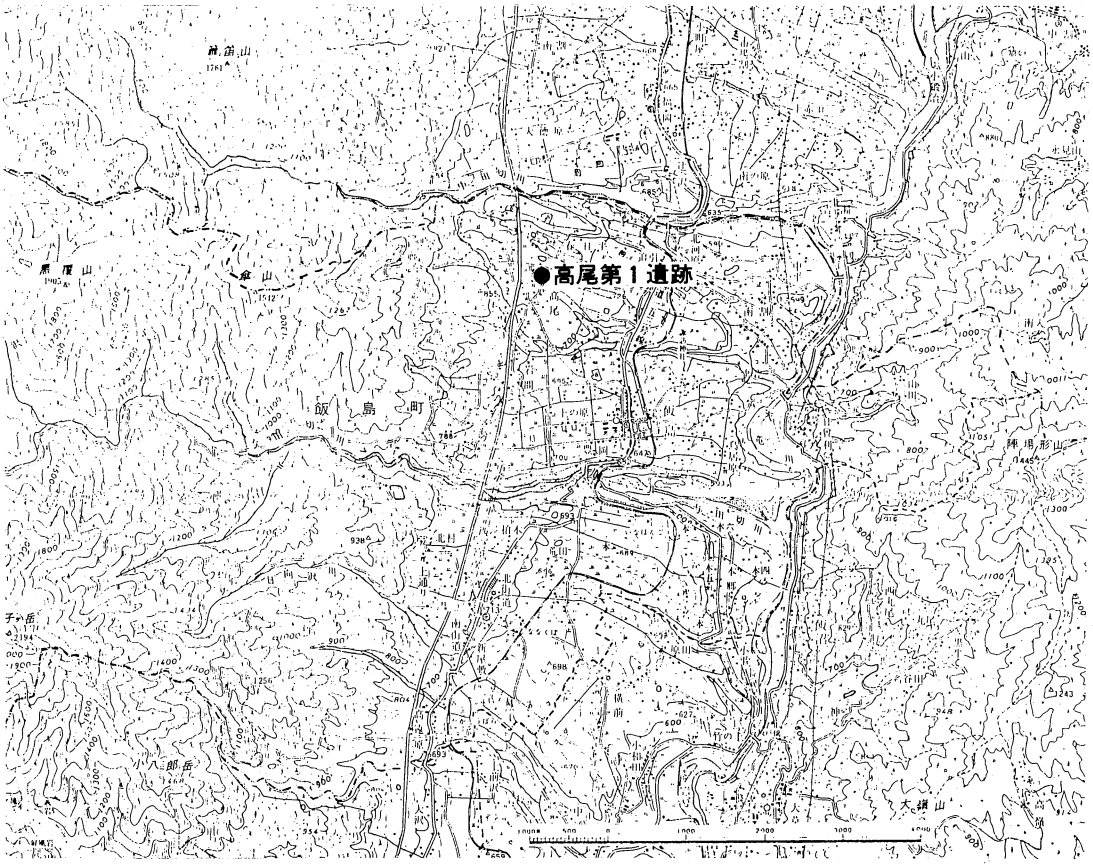
高尾第1遺跡は，長野県上伊那郡飯島町大字飯島1の55番地に所在する。

遺跡は，中央アルプス山麓の台地上に位置する。遺跡に至るには，国鉄飯田線飯島駅で下車し，北西へ約3kmほど歩いたところである。遺跡の中心で標高745mをはかる。

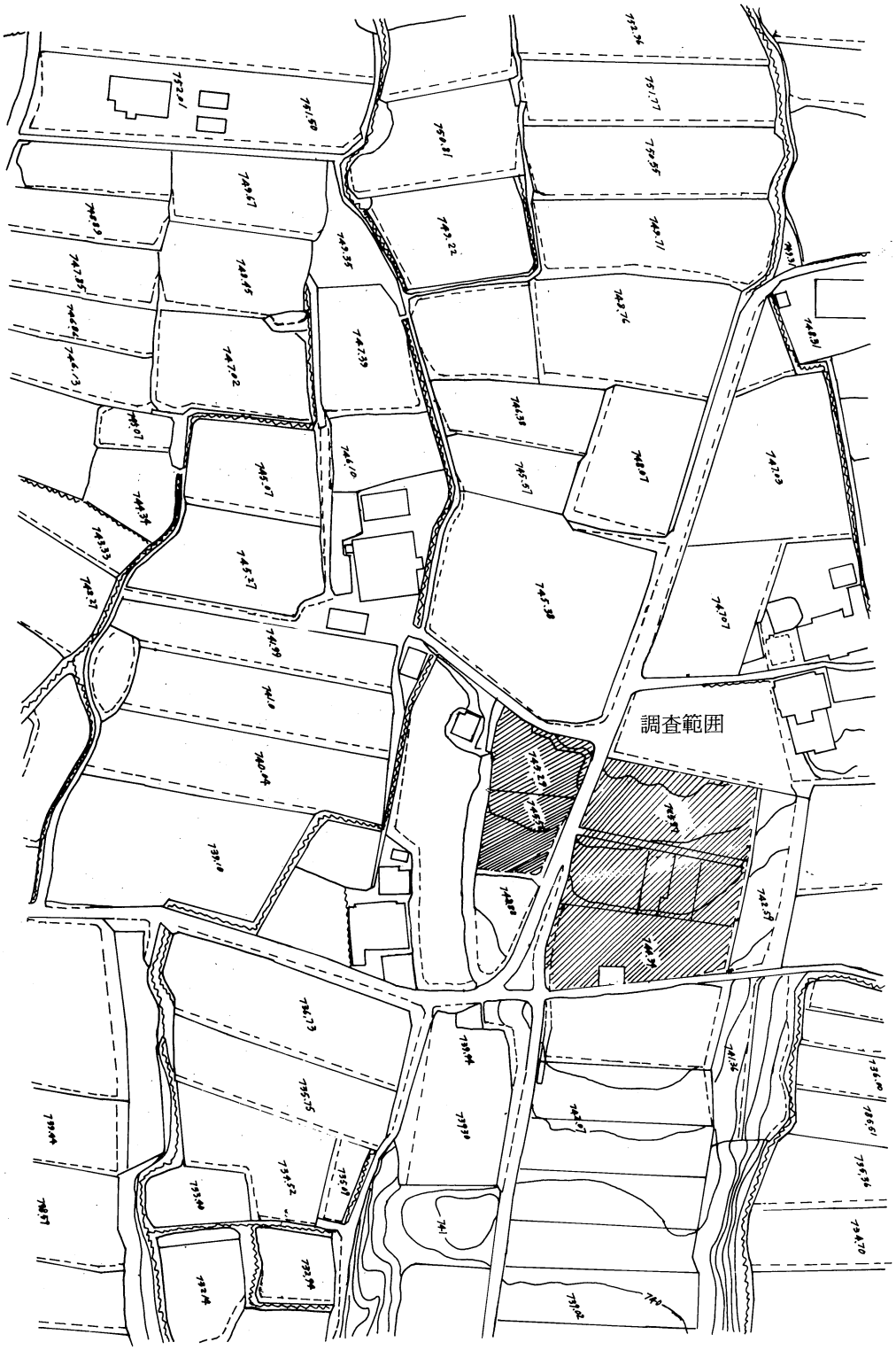
第2節　地形・地質

当遺跡は，中央アルプス南駒ケ岳山麓の台地に位置する。遺跡は，中田切川により形成された扇状地の扇頂部にあり，南・北側の沢により，舌状の台地となっている。

調査地区の土層については，水田，桑園，畑地で撹乱されており，礫層の基盤の上にローム層，黒褐色土層，耕作土層が堆積していたものと思われる。



第1図　位置図（1：100,000）



第２図　地形図（１：2000）

第Ⅱ章　発掘調査の経過

第１節　発掘調査に至るまで

県営ほ場整備事業飯島地区第26工区にある高尾第１遺跡の埋蔵文化財緊急発掘調査を飯島町では，飯島町遺跡調査会に委託し実施した。

〔飯島町遺跡調査会〕

会　長	熊崎安二	（教育長）
理　事	片桐　修	（飯島町文化財調査委員）
	宮下静男	（〃）
	北原健三	（〃）
	桃沢匡行	（〃）
	松崎研定	（〃）
	中島淑雄	（〃）
	片桐佳彦	（〃）
	小林嘉男	（〃）
監　事	池上　勇	（飯島町監査委員）
	中野武司	（〃）
幹　事	吉沢内次	（飯島町教育委員会教育次長）
	米沢長実	（〃　係長）
	伊藤　修	（〃　主事）
	宮下淑江	（〃　主事）

〔発掘調査団〕

団　長	友野良一	（日本考古学協会員）
調査員	伊藤　修	（飯島町教育委員会主事）
〃	和田武夫	（長野県考古学会員）
調査補助員	中村正純	（飯島町）

第２節　調査日誌

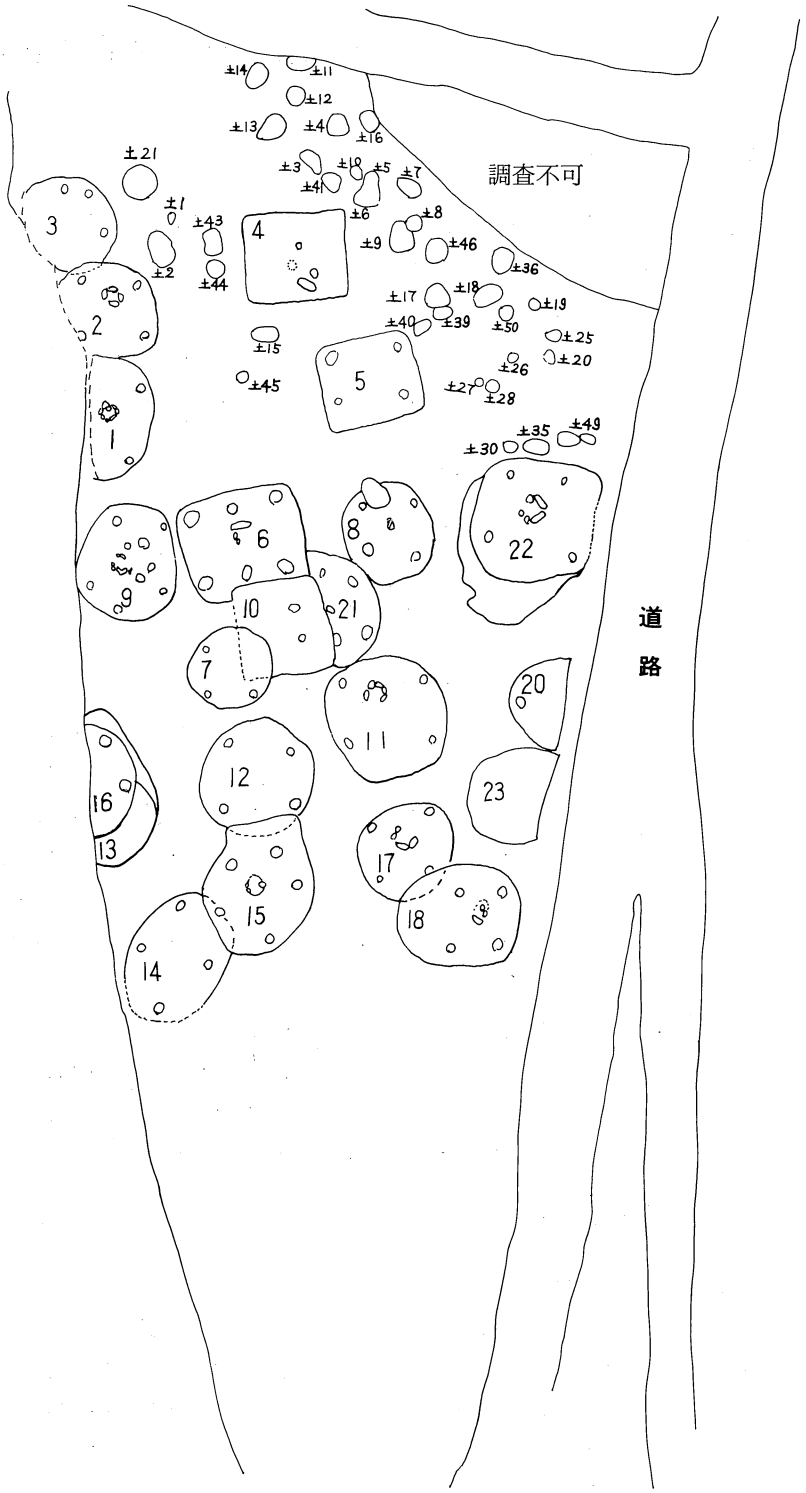
高尾第１遺跡の調査における主だった項目を拾ってみた。

○調査は，昭和55年４月24日より着手し，昭和56年３月20日に完了した。

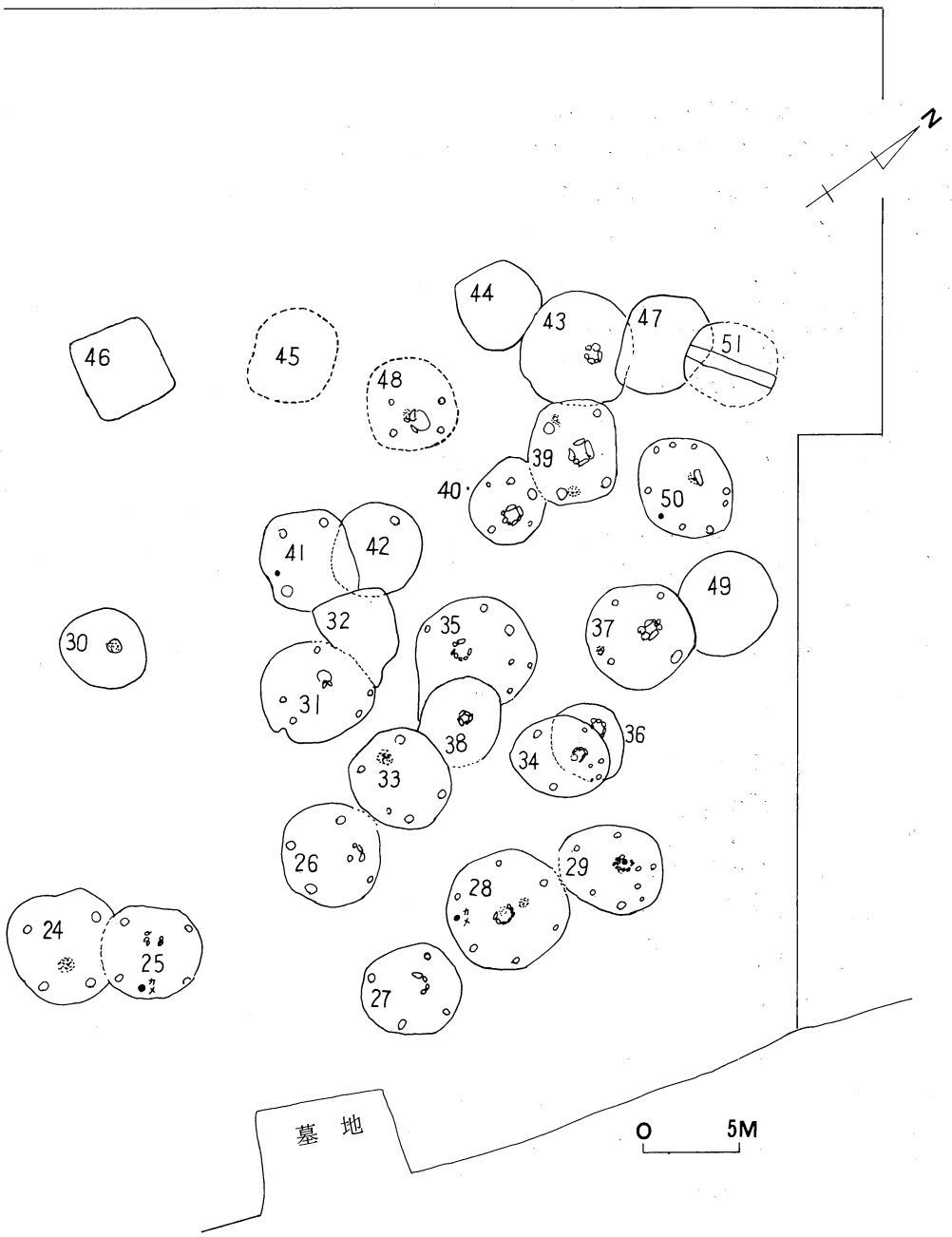
○調査は，調査地区全体に２ｍ四方のグリットを設定し行なった。

○遺物について，主要なものは平面図に出土点，出土高等を記録した。

○遺構については，平面図の他にできる限り遺構断面の土層も記録を行なった。


調査不可
道路
±14
±11
±12
±13
±4
±16
±21
±3
±10
±5
±7
±41
±6
±8
±1
±43
±9
±46
±36
±2
±44
±17
±18
±19
±40
±39
±50
±25
±15
±26
±20
±45
±27
±28
±35
±49
±30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
20
21
22
23

第３図　遺構配置


N
44
43
47
51
46
45
48
39
40
50
41
42
49
32
35
37
30
31
38
36
34
33
26
29
28
24
25
27
墓 地
0
5M

図（1：400）

第Ⅲ章　遺　構

台地の中央部に調査区域を設定し，南北90ｍ，東西70ｍの全面発掘を行なった。その結果，縄文時代中期の住居址45軒，弥生時代の住居址４軒，土坑49箇所を検出した。

住居址は台地上に約30～40ｍの幅で直線または大きな弧をえがく形でみられ，住居址の内側は土坑群あるいは空間地となっているように思われる。

項目＼住居址		1号	2号	3号	4号	5号
位置		A地区 調査地区西	A地区 調査地区西	A地区 調査地区西	A地区 調査地区西	A地区 調査地区西
プラン		楕円形	円形	円形	方形	方形
壁高		南25cm北25cm 東25cm西ナシ	南ナシ北30cm 東35cm西35cm	南20cm北25cm 東25cm西20cm	南10cm北10cm 東15cm西	南10cm北10cm 東10cm西10cm
壁の状態		悪い	良好	良好	大部分が破壊	上半分が破壊
床		平坦であるが軟弱である	平坦である	平坦である	平坦でかたい	平坦でかたい
周溝		東側壁外に3mにわたり巾5cm～15cmの溝がみられる				
主柱穴		柱穴2個 P_1・P_2	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴4個 P_1・P_3・P_4	柱穴4個 P_1～P_3	柱穴4個 P_1～P_4
炉	位置	中央	中央	確認できない	中央北側	確認できない
	形式	石囲炉	石囲炉		埋甕炉	
	規模	110cm×75cm	115cm×110cm		120cm×100cm	
壁外施設その他		西南部が約$\frac{1}{3}$崖により削り取られている	西南部の一部が崖により削り取られている	南側の一部が崖により削り取られている		
遺物出土状況		曽利Ⅲ	曽利Ⅰ～Ⅱ	井戸尻Ⅱ 曽利Ⅰ～Ⅱ	弥生後期	弥生後期

住居址一覧表(2)

項目＼住居址	6号	7号	8号	9号	10号
位置	A地区 調査地区中央	A地区 調査地区中央	A地区 調査地区中央	A地区 調査地区中央	A地区 調査地区中央
プラン	方形	円形	円形	円形	方形
壁高	南10cm北10cm 東20cm西15cm	南10cm北 東10cm西10cm	南15cm北10cm 東10cm西15cm	南20cm北30cm 東30cm西35cm	南25cm北20cm 東30cm西25cm
壁の状態	良好	良好	良好	良好	良好
床	平坦でかたい	平坦でかたい	平坦でかたい	平坦でかたい	平坦でかたい
周溝					
主柱穴	柱穴6個 P_1・P_2 P_5・P_6	柱穴3個 P_1～P_3	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴10個 P_2・P_5 P_8・P_{10}	柱穴2個 P_1・P_2
炉 位置	中央	中央	中央	中央	中央西側
炉 形式	石囲炉	石囲炉	石囲炉	石囲炉	埋甕炉
炉 規模	120cm×120cm	105cm×100cm	160cm×140cm	100cm×80cm	
壁外施設その他		10住居址により一部破壊		住居址内にピットが多い	7号住居址を切っている
遺物出土状況	曽利Ⅱ		曽利Ⅱ	曽利Ⅱ	弥生後期

住居址一覧表(3)

項目＼住居址	11号	12号	13号	14号	15号
位置	A地区 調査地区東	A地区 調査地区東	A地区 調査地区東南	A地区 調査地区東南	A地区 調査地区東
プラン	円形	円形	楕円形	円形	南，西にかくばった楕円形
壁高	南65cm北20cm 東30cm西25cm	南北 東西	南北50cm 東25cm西10cm	南北25cm 東20cm西15cm	南35cm北45cm 東10cm西30cm
壁の状態	良好	良好	良好	良好	良好
床	平坦であるが軟弱である	平坦でかたい	不明	平坦であるが軟弱である	平坦でかたい
周溝					
主柱穴	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴　個	不明	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴5個 P_1～P_5
炉　位置	西側		確認できない		中央
炉　形式	石囲炉				石囲炉
炉　規模	110cm×80cm				115cm×90cm
壁外施設その他			16号住により破壊	北側一部が15住に切られている	西側が一部14号住居址を切っている
遺物出土状況	曽利Ⅱ		曽利Ⅱ	遺物の出土が多い 平出3A・井戸尻Ⅱ・曽利Ⅱ	曽利Ⅱ

住居址一覧表(4)

項目＼住居址	16号	17号	18号	19号	20号
位置	A地区 調査地区東南	A地区 調査地区東	A地区 調査地区東		A地区 調査地区東
プラン	楕円形	円形	楕円形		円形
壁高	南北10cm 東25cm西20cm	南25cm北15cm 東25cm西15cm	南5cm北15cm 東10cm西10cm	㊀	南15cm北 東西15cm
壁の状態	良好	良好	わずかに壁が残っている		良好
床	平坦で軟弱である	南西へやや傾斜がみられる	平坦で軟弱である		平坦で軟弱である
周溝					
主柱穴	柱穴2個 P_1・P_2	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴4個 P_1～P_4	㊕	柱穴1個 P_1
炉 位置	不明	中央	中央 (やゝ北寄り)		
炉 形式		石囲炉	石囲炉		
炉 規模		120cm×110cm	85cm×80cm		
壁外施設その他	13号住を切っている。南側半分は崖により削りとられている		西側一部が17号を切っている		住居址半分は道路により削り取られている
遺物出土状況	曽利Ⅱ	曽利Ⅱ			

住居址一覧表(5)

項目＼住居址		21号	22号	23号	24号	25号
位置		A地区 調査地区中央	A地区 調査地区中央東		B地区 調査地区西南	B地区 調査地区西南
プラン		円形	長方形		円形	円形
壁高		南北10cm 東10cm西15cm	南10cm北25cm 東20cm西20cm	欠	南15cm北15cm 東20cm西25cm	南20cm北35cm 東50cm西15cm
壁の状態		上部は破壊されている	悪い		良好	良好
床		平坦でかたい	軟弱である		平坦でかたい	平坦でかたい
周溝						
主柱穴		柱穴4個 P_1～P_4	柱穴4個 P_1～P_4	番	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴4個 P_1～P_4
炉	位置	中央	中央		不明 (中央？)	中央
	形式	半分切取られていて確認できず	石囲炉			石囲炉
	規模	半分切り取られていて不明	130cm×100cm			150cm×85cm
壁外施設その他		南西部半分が10及び6号住居址により切取られている			柱穴の他に深い落込が東側にある	24号住居址に一部重なっている
遺物出土状況		曽利Ⅱ			曽利Ⅰ～Ⅲ	東の土坑より埋甕出土 曽利Ⅱ

住居址一覧表(6)

項目＼住居址	26号	27号	28号	29号	30号
位置	B地区 調査地区東	B地区 調査地区東	B地区 調査地区東	B地区 調査地区東	B地区 調査地区東
プラン	円形	円形	円形	円形	円形
壁高	南20cm北5cm 東5cm西5cm	南10cm北15cm 東15cm西20cm	南35cm北30cm 東30cm西35cm	南40cm北35cm 東40cm西45cm	南5cm北15cm 東15cm西25cm
壁の状態	大部分が破壊	上部が破壊 良好	良好	良好	良好
床	平坦でかたい	平坦である	平坦でかたい	平坦でかたい	平坦でかたい
周溝			壁にそって巾10cm～30cm深さ5cm～15cmの周溝あり		壁にそって巾5cm～10cm 深さ5cm～10cmの周溝あり
主柱穴	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴6個 P_1～P_6	柱穴9個 P_1・P_2 P_4・P_8	柱穴4個 P_1～P_4
炉 位置	中央北寄り	中央	中央	中央	中央
炉 形式	石囲炉	石囲炉	石囲炉	石囲炉	石囲炉
炉 規模	105cm×70cm	75cm×70cm	160cm×140cm	90cm×85cm	80cm×75cm
壁外施設その他					
遺物出土状況	曽利Ⅱ	井戸尻Ⅱ 曽利Ⅰ～Ⅲ	埋甕出土 曽利Ⅱ	炉内に埋甕出土 井戸尻Ⅲ 曽利Ⅰ～Ⅲ	曽利Ⅱ

住居址一覧表(7)

項目＼住居址	31号	32号	33号	34号	35号
位置	B地区 調査地区中央	B地区 調査地区中央	B地区 調査地区東	B地区 調査地区東	B地区 調査地区中央
プラン	円形	不明	円形	楕円形	楕円形
壁高	南30cm北 東20cm西30cm	南 cm北25cm 東20cm西 cm	南15cm北20cm 東5cm西30cm	南10cm北15cm 東15cm西15cm	南25cm北10cm 東15cm西25cm
壁の状態	良好		良好	上部は破壊されている	上部は破壊されている
床	平坦である	平坦である	平坦であるが軟弱である	平坦であるが軟弱である	平坦である
周溝					
主柱穴	柱穴5個 P_1・P_2 P_4・P_5	柱穴2個 P_1，P_2	柱穴5個 P_1・P_3 P_4，P_5	柱穴7個 P_1～P_3 P_6・P_7	柱穴6個 P_1～P_5
炉 位置	中央 やや北側		中央	中央	ほぼ中央
炉 形式	石囲炉		石囲炉	石囲炉	石囲炉
炉 規模	160cm×140cm		80cm×70cm	55cm×55cm	85cm×80cm
壁外施設その他	32号住居址と接触している	31号，41号，42号住居址に接触している			南にたれさがっている部分が38号住居址に切り取られている
遺物出土状況		埋甕出土		曽利Ⅱ	井戸尻Ⅱ

住居址一覧表(8)

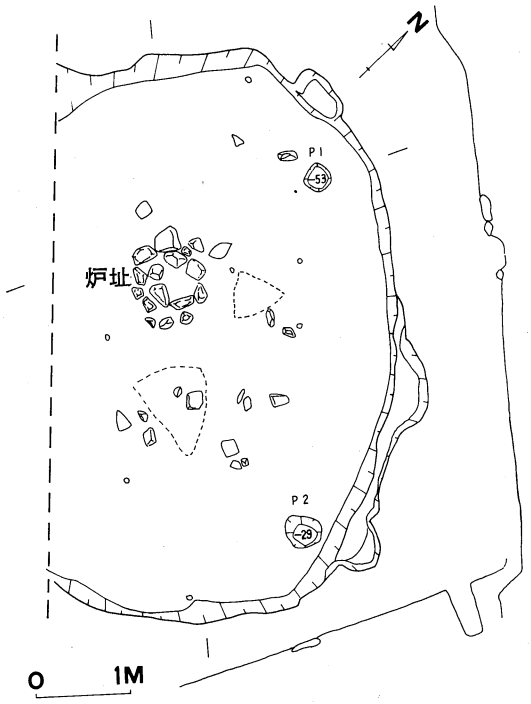
項目＼住居址	36号	37号	38号	39号	40号
位置	B地区 調査地区東	B地区 調査地区北東	B地区 調査地区中央	B地区 調査地区北西	B地区 調査地区中央
プラン	円形	円形	楕円形	方形	楕円形
壁高	南北5cm 東5cm西15cm	南25cm北10cm 東15cm西10cm	南北5cm 東西10cm	南10cm北10cm 東15cm西40cm	南40cm北20cm 東20cm西20cm
壁の状態	悪い	良好	北側，西側に残っている	良好	良好
床	平坦であるが軟弱である	軟弱である	平坦でかたい	平坦でかたい	平坦でかたい
周溝					
主柱穴	柱穴個不明	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴6個 P_2・P_3・P_5	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴5個 P_1・P_3～P_5
炉 位置	中央よりやゝ西北寄り	中央	中央	中央	中央
炉 形式	石囲炉	石囲炉	石囲炉	石囲炉	石囲炉
炉 規模	70cm×70cm	120cm×120cm	60cm×50cm	120cm×100cm	85cm×80cm
壁外施設その他	34号住居址の一部に貼床		東南部が33号住居址に切り取られている		住居址内に土坑が9個程ある
遺物出土状況	曽利Ⅰ～Ⅱ	炉内1個及び東側寄りに2個の埋甕出土 曽利Ⅱ	平出3A 井戸尻Ⅱ	南側より埋甕出土 曽利Ⅲ	炉内より土器出土 曽利Ⅱ

住居址一覧表(9)

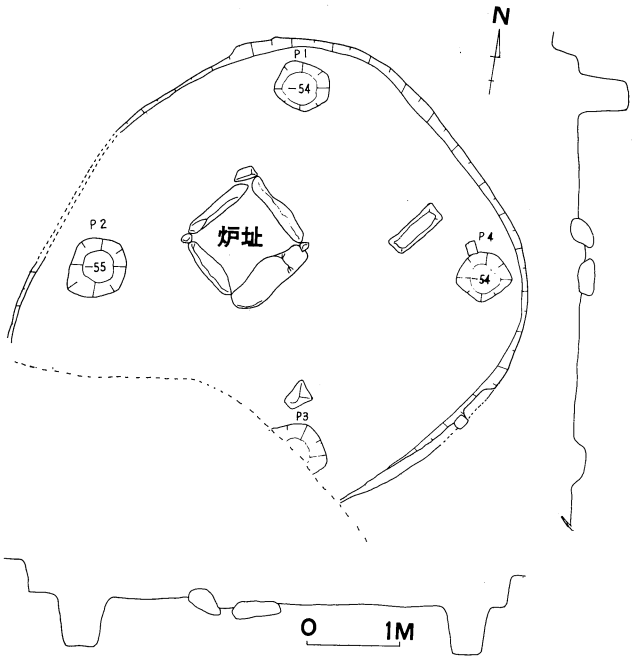
項目＼住居址	41号	42号	43号	44号	45号
位置	B地区 調査地区中央	B地区 調査地区中央	B地区 調査地区北西	B地区 調査地区西	B地区 調査地区西
プラン	円形	円形	円形	円形	円形
壁高	南45cm北20cm 東　西40cm	南　北20cm 東20cm西	南20cm北 東　西10cm	南55cm北40cm 東20cm西40cm	南15cm北20cm 東　西
壁の状態	良好	良好	良好	良好	不明
床	平坦でかたい	平坦でかたい	平坦でかたい	平坦でかたい	
周溝				巾5cm～20cm 深さ5～10cm 南東部50cmをのぞき全体にあり	
主柱穴	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴1個 P_1	柱穴12個 P_1・P_2 P_{11}	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴　個
炉 位置	中央	不明	中央	中央	不明
炉 形式	石囲炉であったと思われる		石囲炉	石囲炉	
炉 規模	165cm×150cm		95cm×80cm	150cm×135cm	
壁外施設その他	42号住居址に東側が接触している。南側が32号に接触	南側が41号東側が32号に接触	住居内に土坑が多く出た		
遺物出土状況	曽利Ⅱ	曽利Ⅱ	曽利Ⅱ	南側壁寄りより埋甕出土 曽利Ⅱ	曽利Ⅱ

住居址一覧表(10)

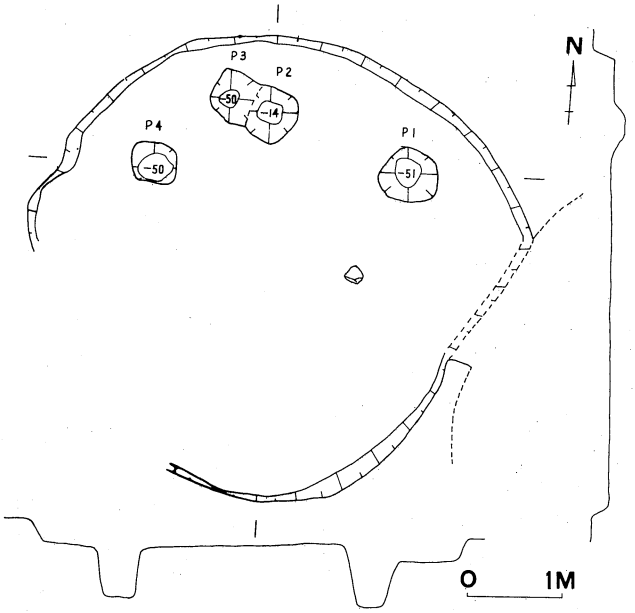
項目＼住居址	46号	47号	48号	49号	50号
位置	B地区 調査地区西	B地区 調査地区北	B地区 調査地区西	B地区 調査地区北	B地区 調査地区北
プラン	方形	円形	円形	円形	円形
壁高	南50cm北60cm 東65cm西65cm	南 北35cm 東25cm西40cm	南 北25cm 東25cm西20cm	南10cm北10cm 東10cm西15cm	南20cm北30cm 東25cm西35cm
壁の状態	良好	良好	不明	上部は破壊されている	良好
床	平坦でかたい	平坦でかたい	平坦であるが軟弱	平坦でかたい	平坦でかたい
周溝					
主柱穴	柱穴12個 P_1～P_3 P_{11}	柱穴2個 P_1・P_2	柱穴4個 P_1～P_4	柱穴5個 P_1・ P_3～P_5	柱穴8個 P_1～P_8
炉 位置	中央南	ほゞ中央	中央	中央よりやゝ西寄り	中央
炉 形式	埋甕炉	石囲炉であったと思われる	石囲炉		石囲炉
炉 規模	70cm×75cm	135cm×130cm	115cm×105cm	105cm×95cm	145cm×140cm
壁外施設その他					
遺物出土状況	弥生後期	西南の土坑より埋甕出土 曽利Ⅱ	曽利Ⅱ	曽利Ⅱ	南側壁寄りより埋甕出土 曽利Ⅱ



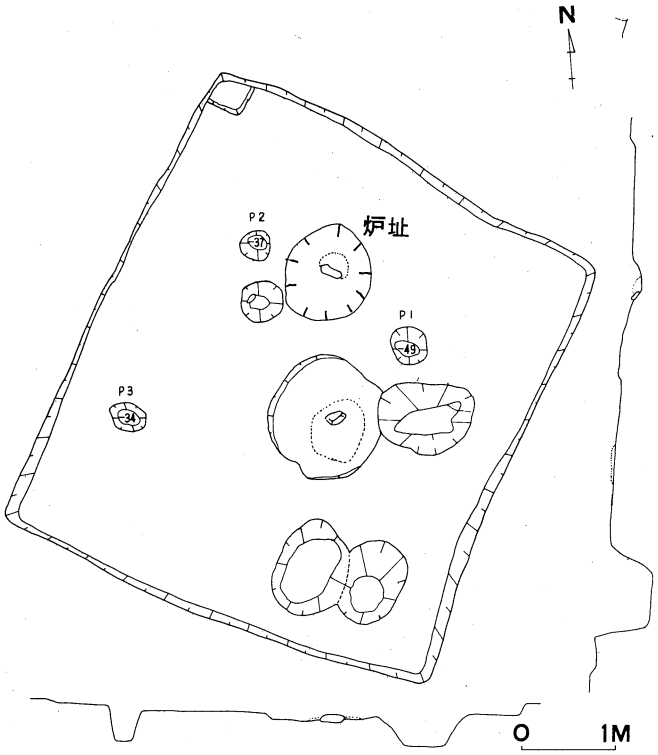
第4図　第1号住居址（1：80）



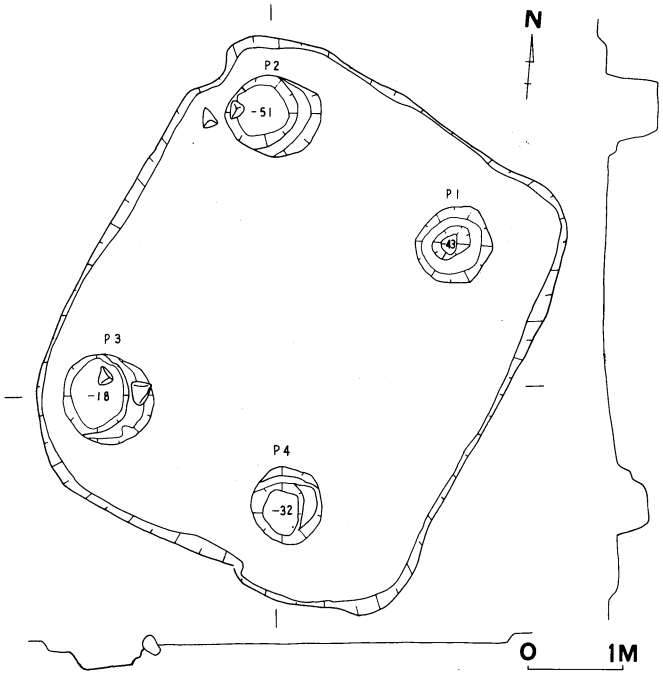
第5図　第2号住居址（1：80）



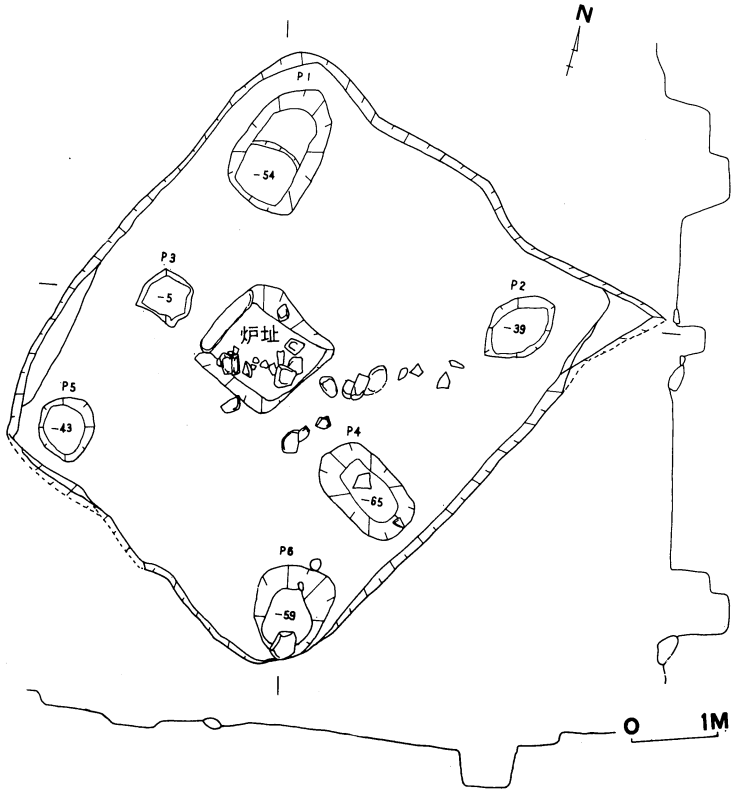
第6図　第3号住居址（1：80）



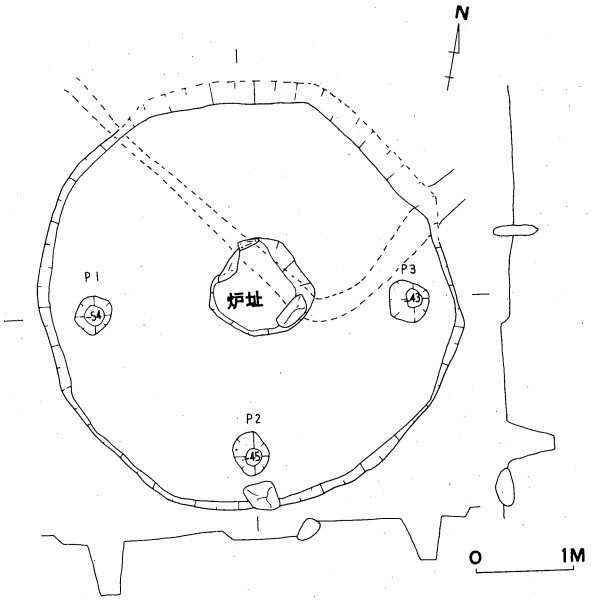
第7図　第4号住居址（1：80）



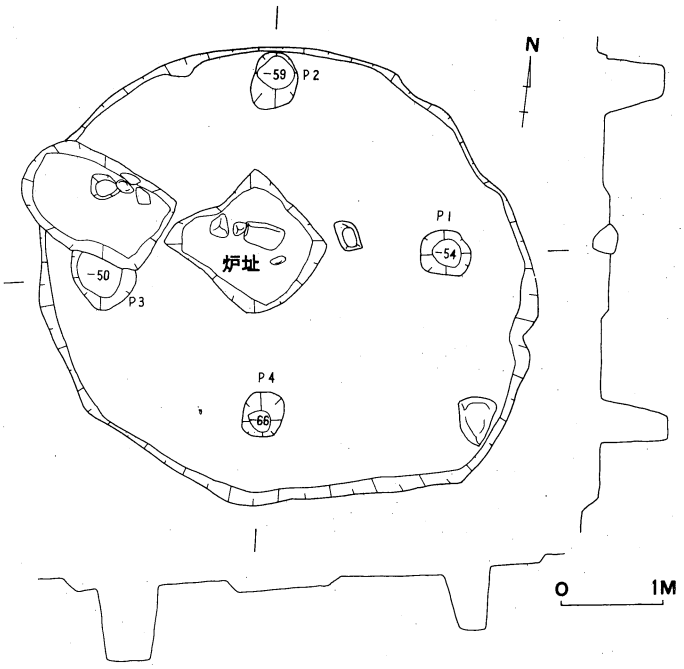
第8図　第5号住居址（1：80）



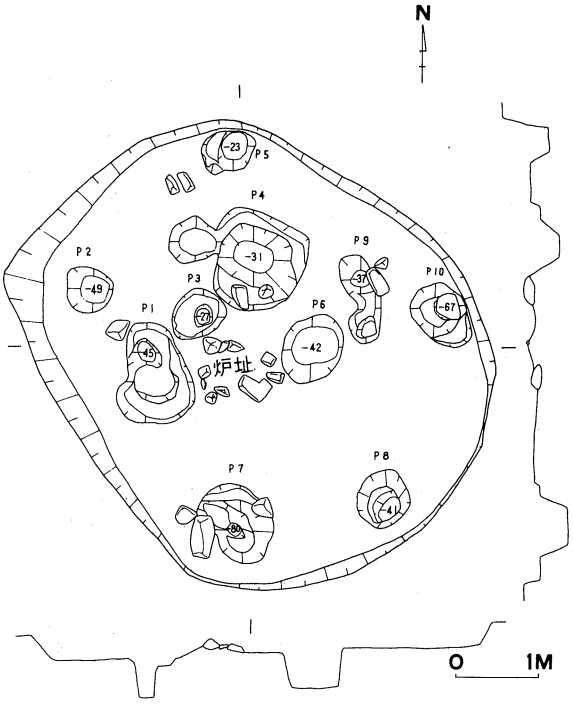
第9図　第6号住居址（1：80）



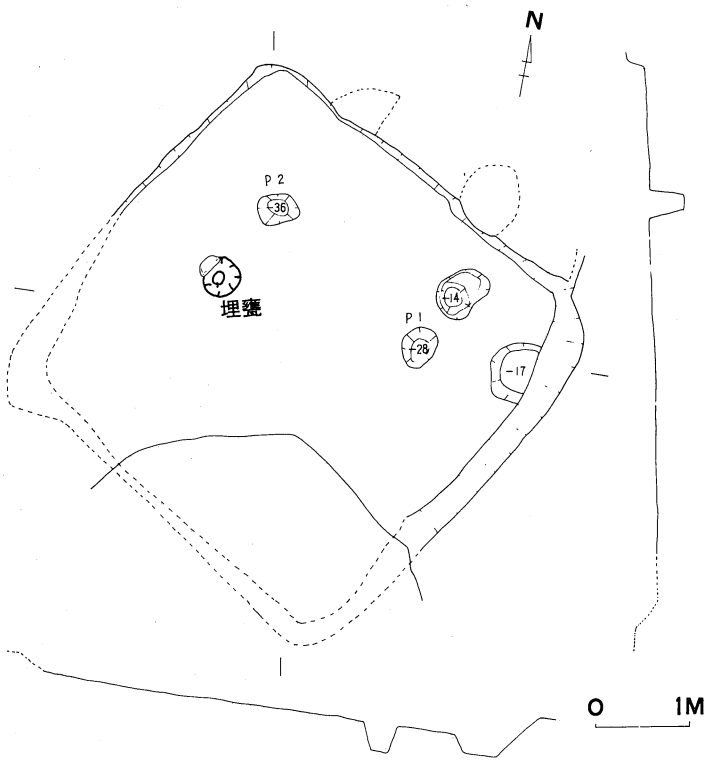
第10図　第７号住居址（１：60）



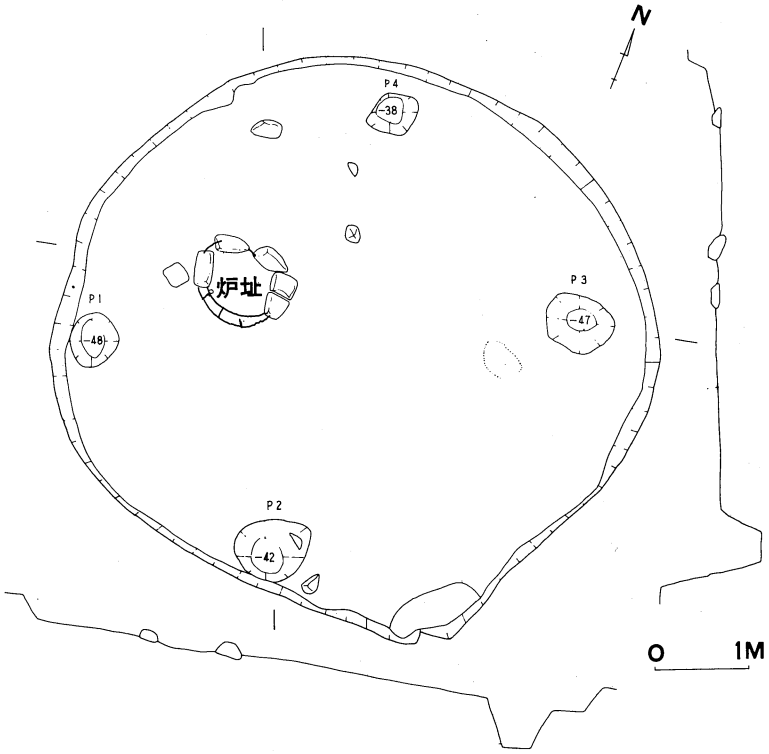
第11図　第８号住居址（１：60）



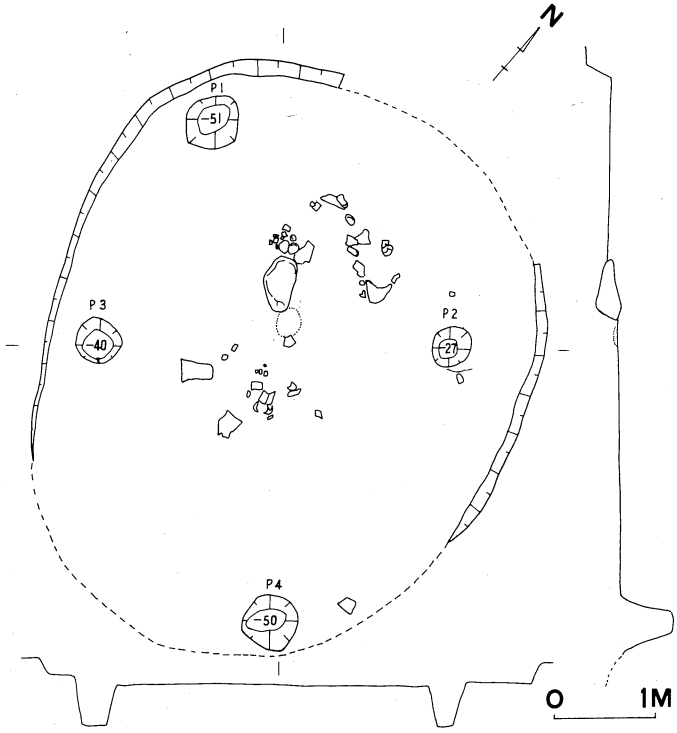
第12図　第９号住居址（１：80）



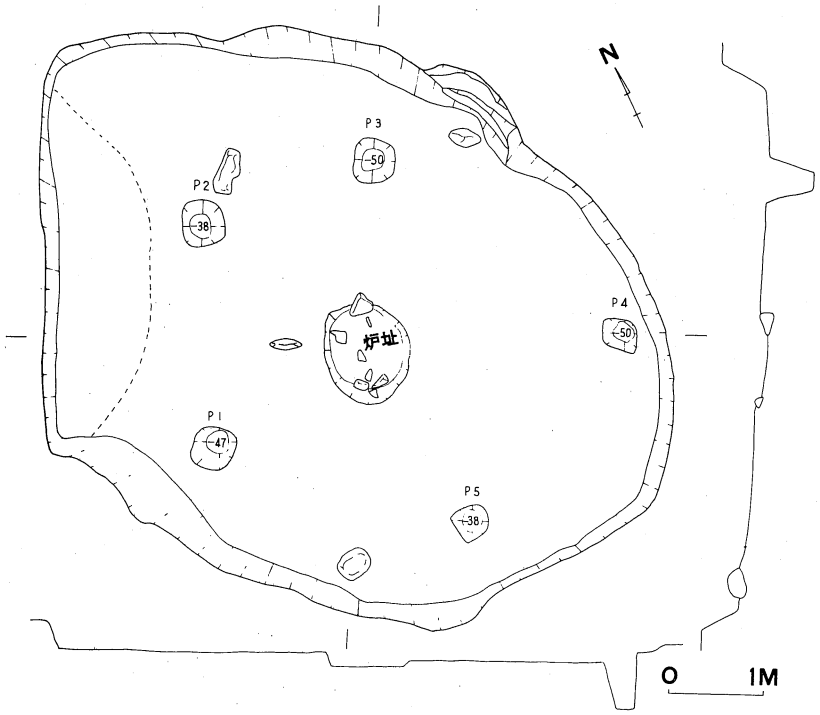
第13図　第10号住居址（１：80）



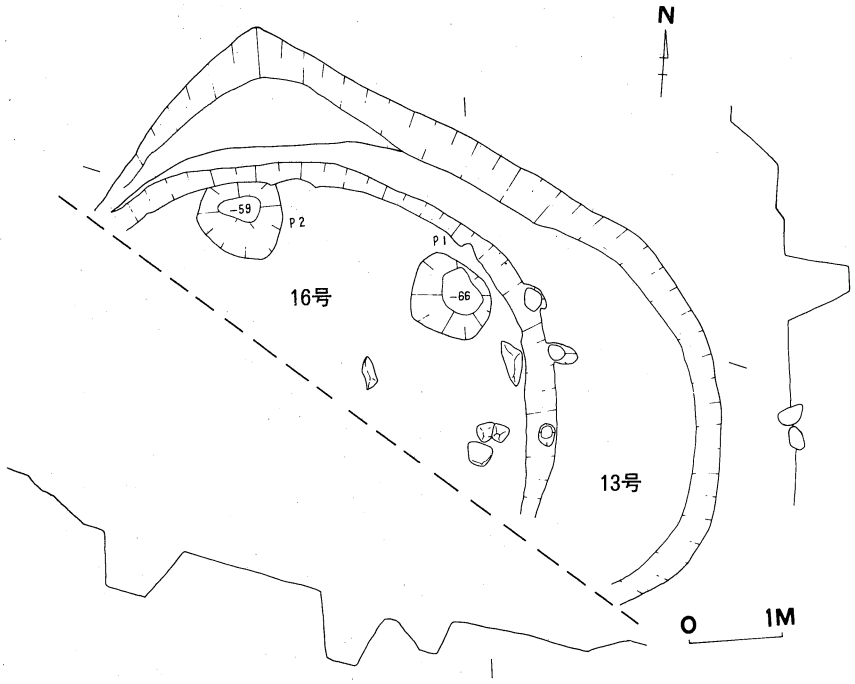
第14図　第11号住居址（1：80）



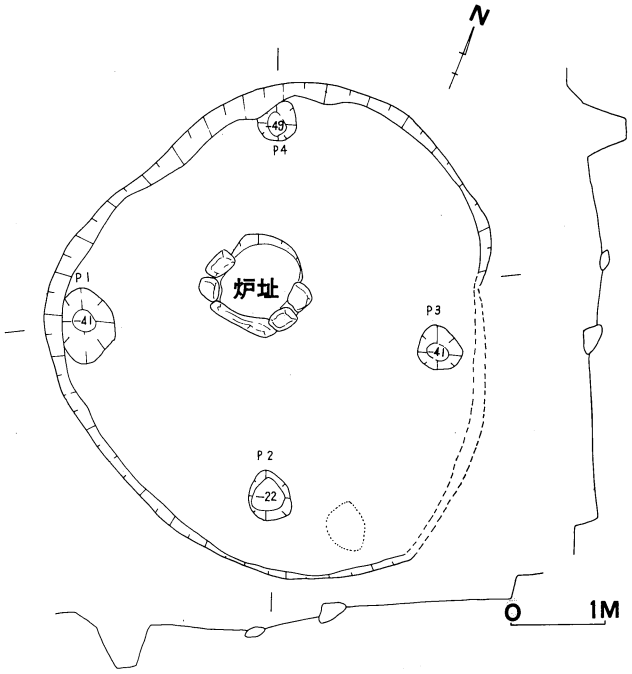
第15図　第14号住居址（1：80）



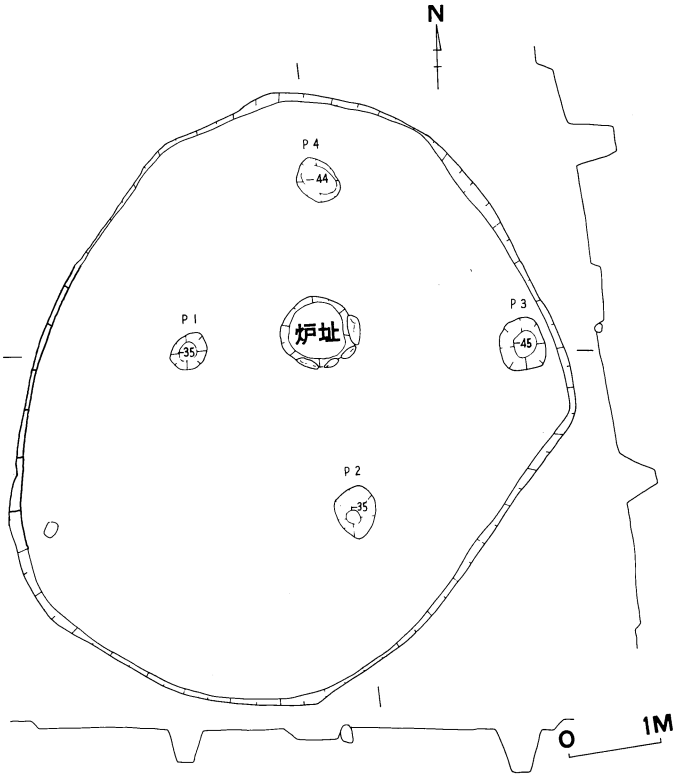
第16図　第15号住居址（1：80）



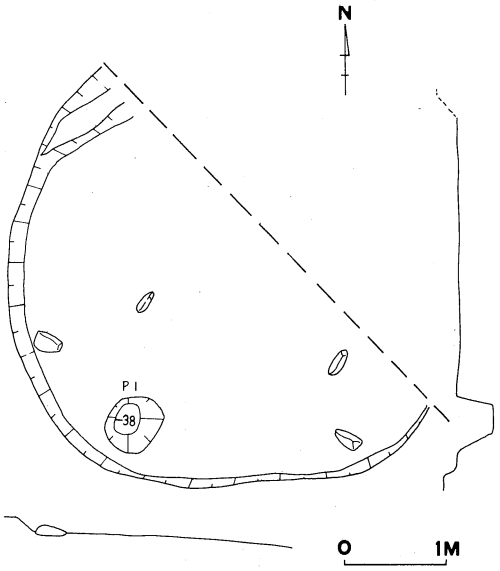
第17図　第13号．第16号住居址（1：80）



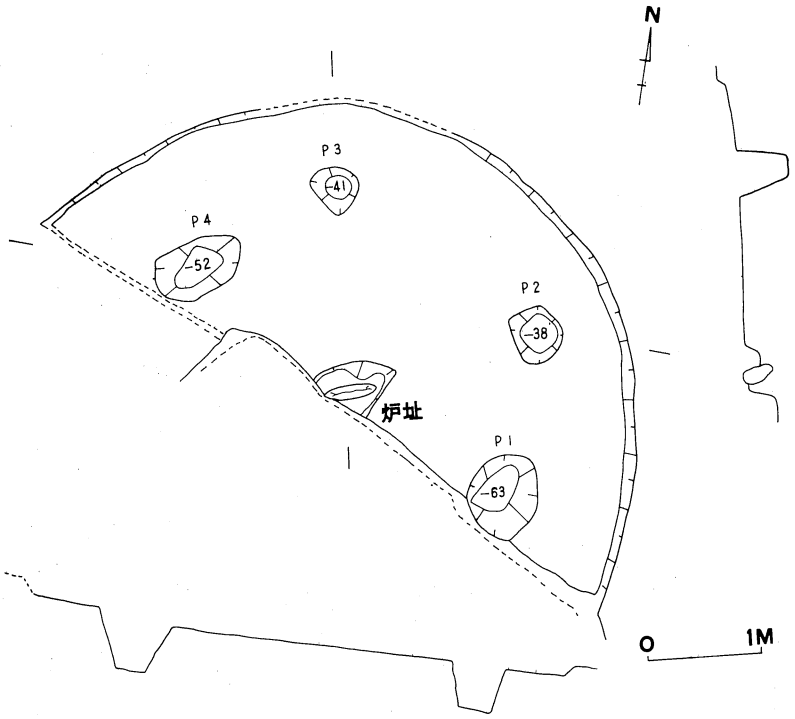
第18図　第17号住居址（1：80）



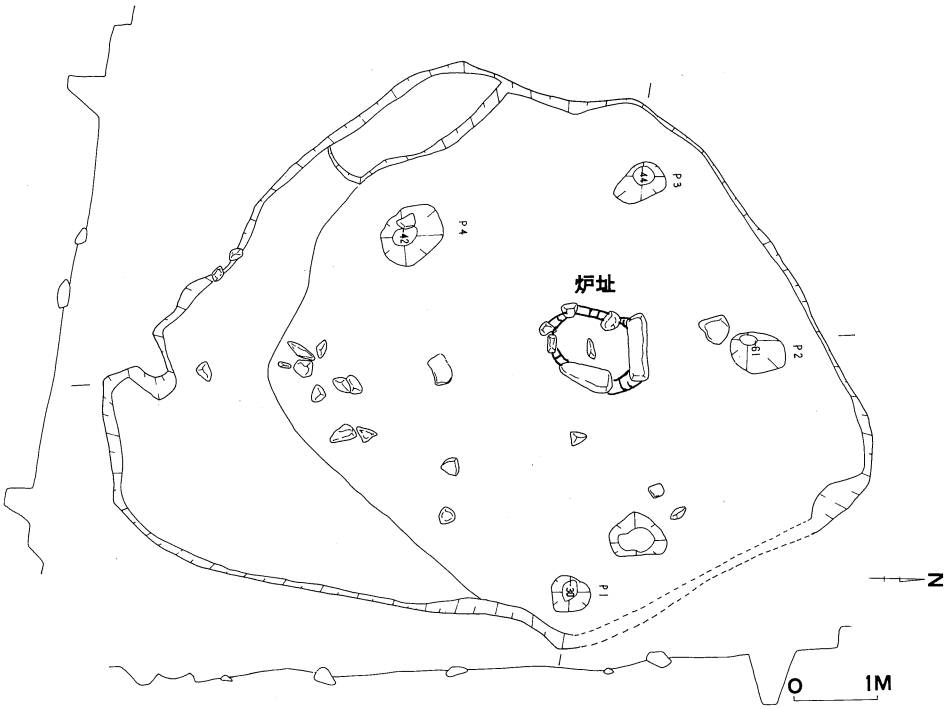
第19図　第18号住居址（1：80）



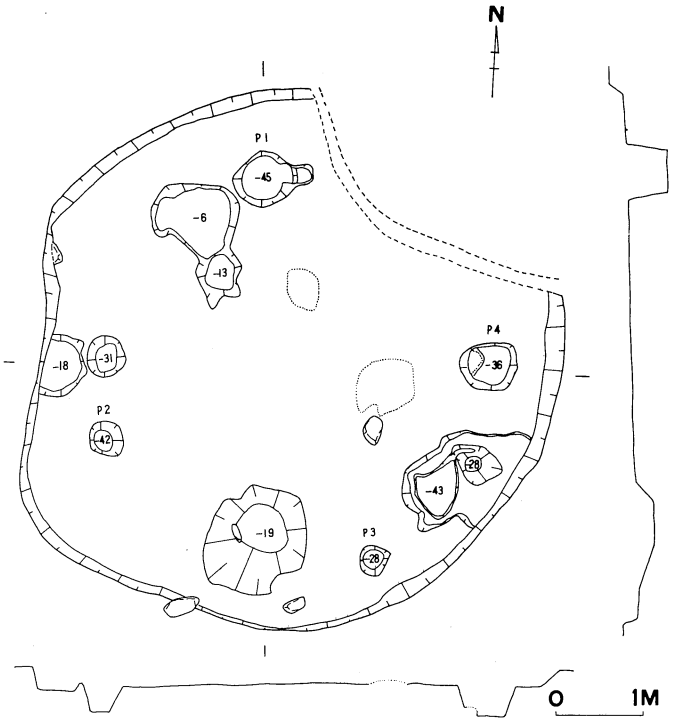
第20図　第20号住居址（1：60）



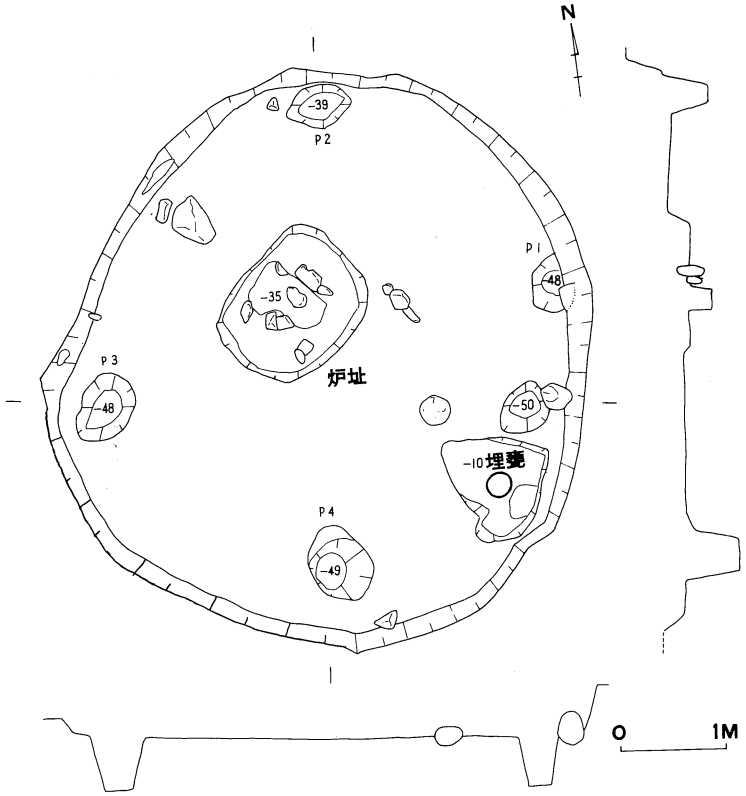
第21図　第21号住居址（1：60）



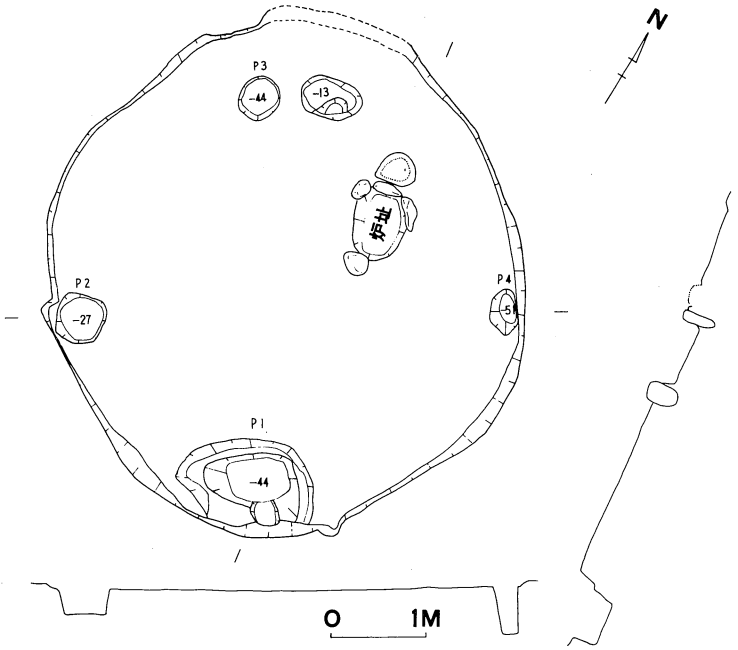
第22図　第22号住居址（1：80）



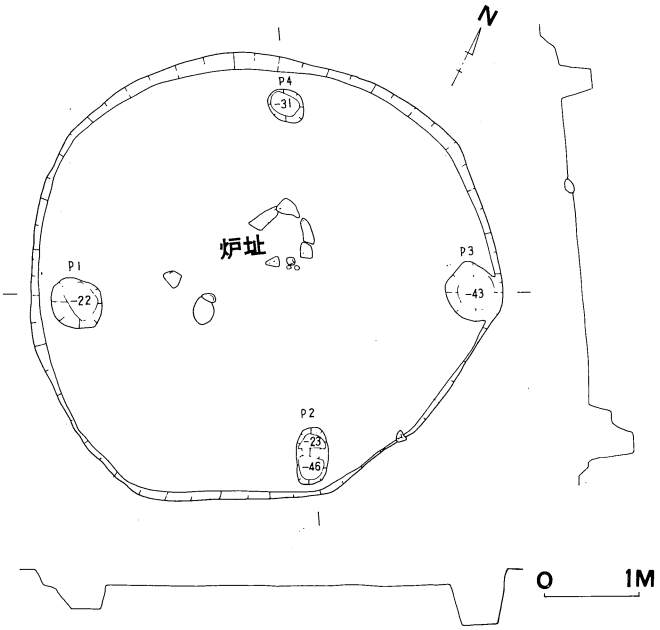
第23図　第24号住居址（1：80）



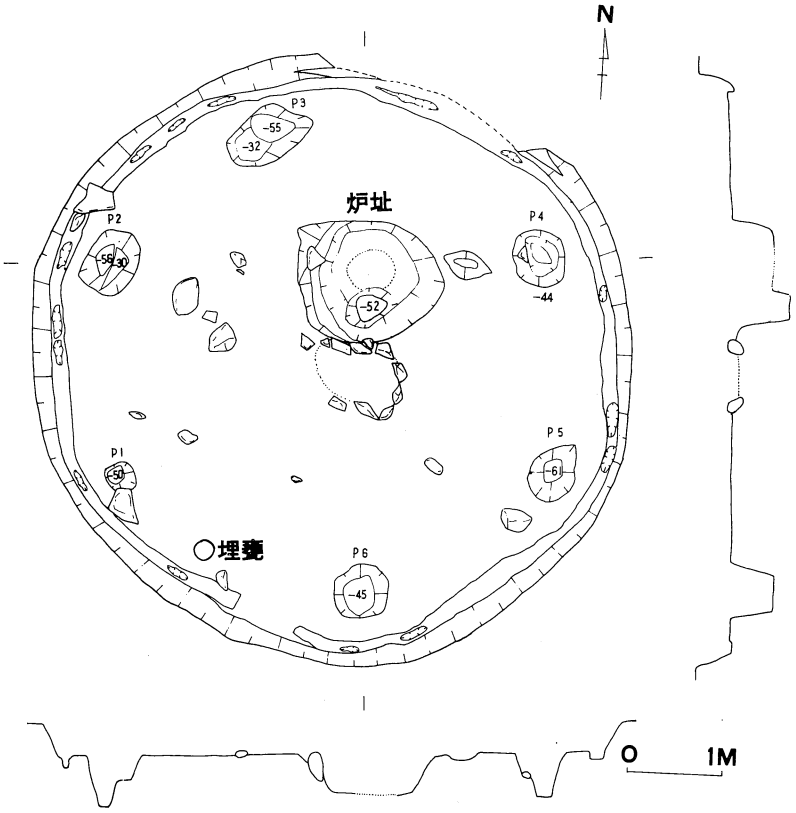
第24図　第25号住居址（1：60）



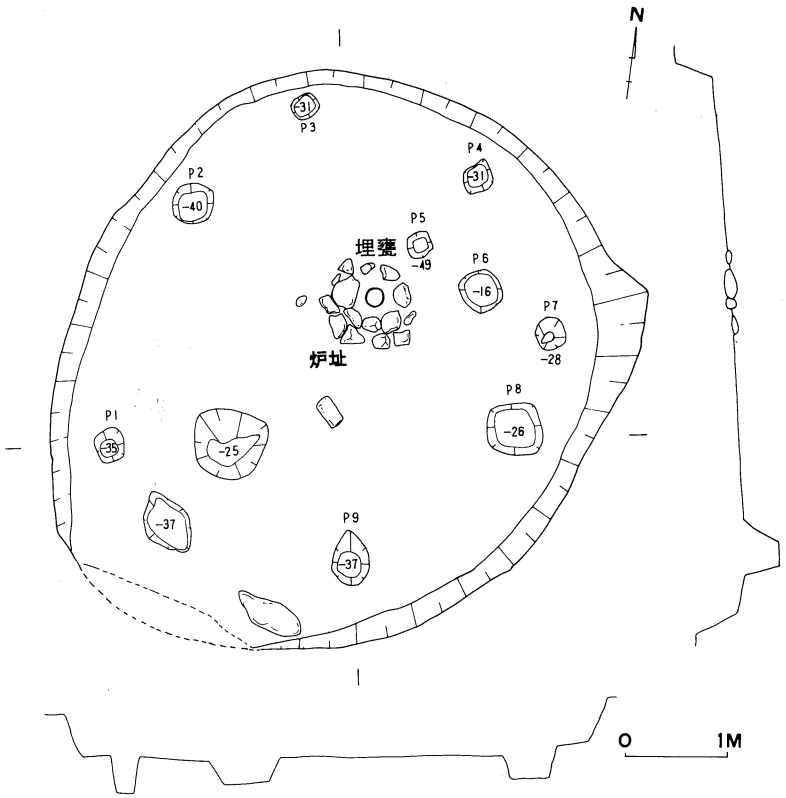
第25図　第26号住居址（1：80）



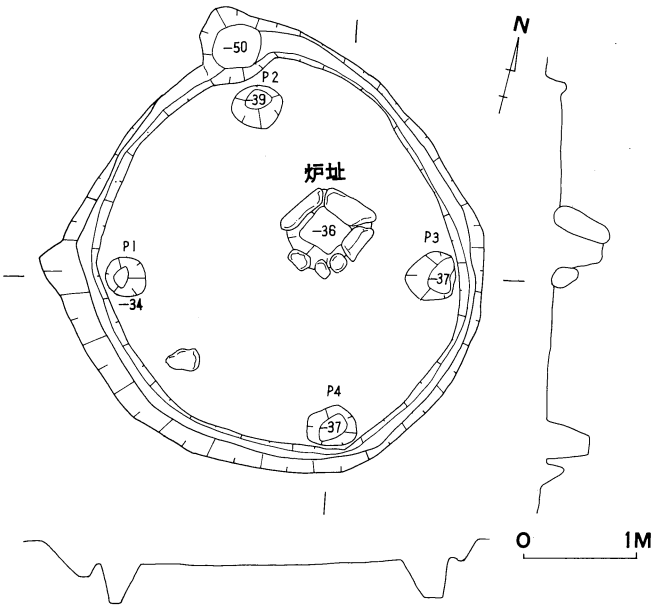
第26図　第27号住居址（1：80）



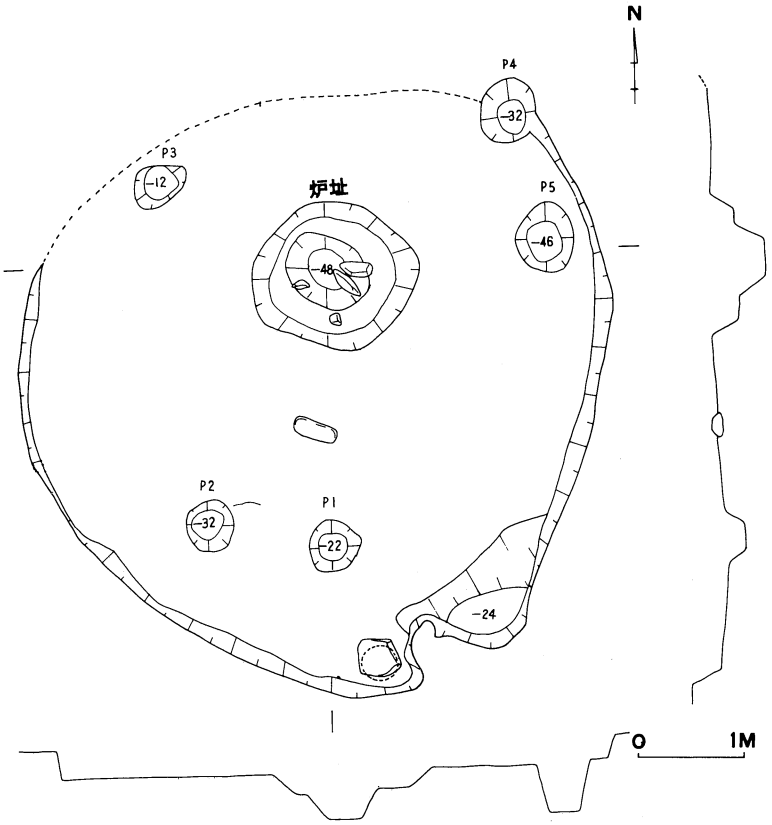
第27図　第28号住居址（1：80）



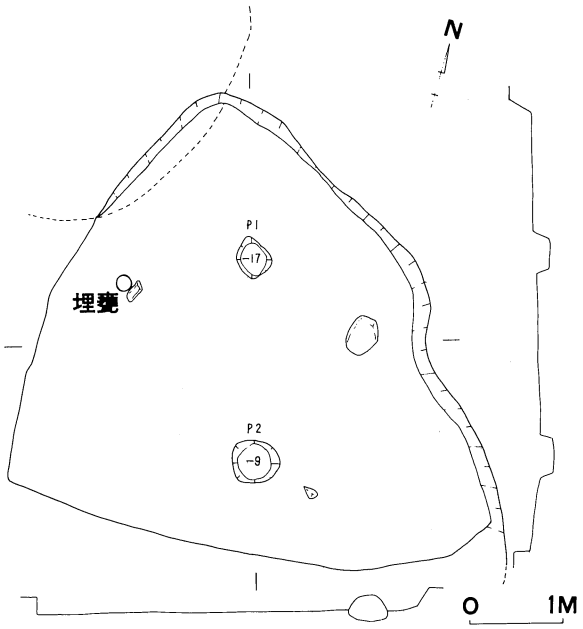
第28図　第29号住居址（1：60）



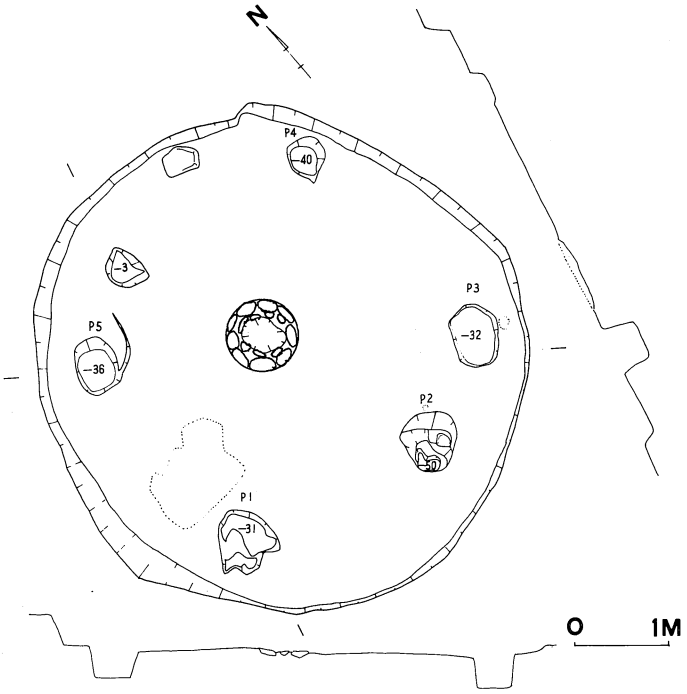
第29図　第30号住居址（1：60）



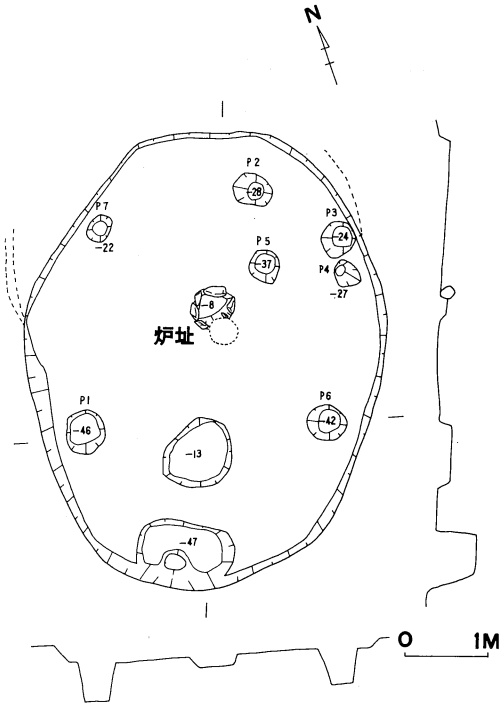
第30図　第31号住居址（1：60）



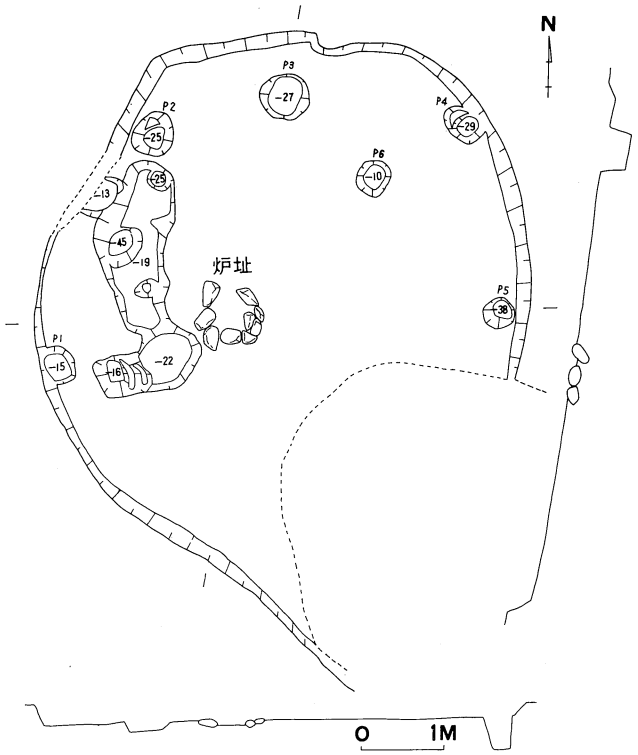
第31図　第32号住居址（1：80）



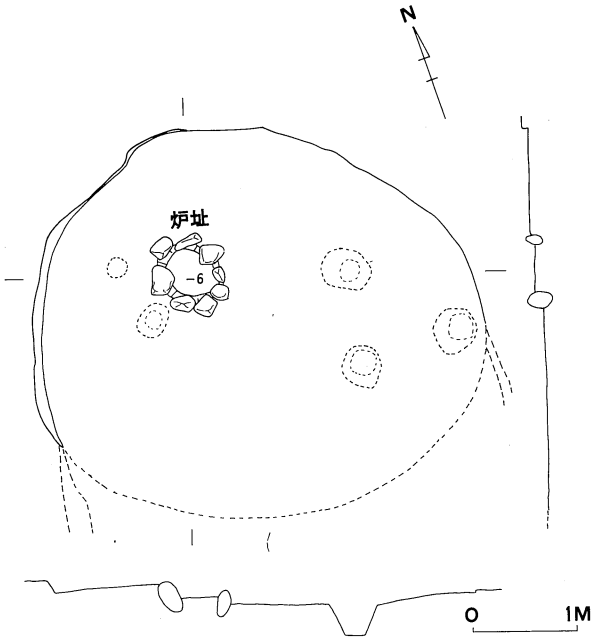
第32図　第33号住居址（1：80）



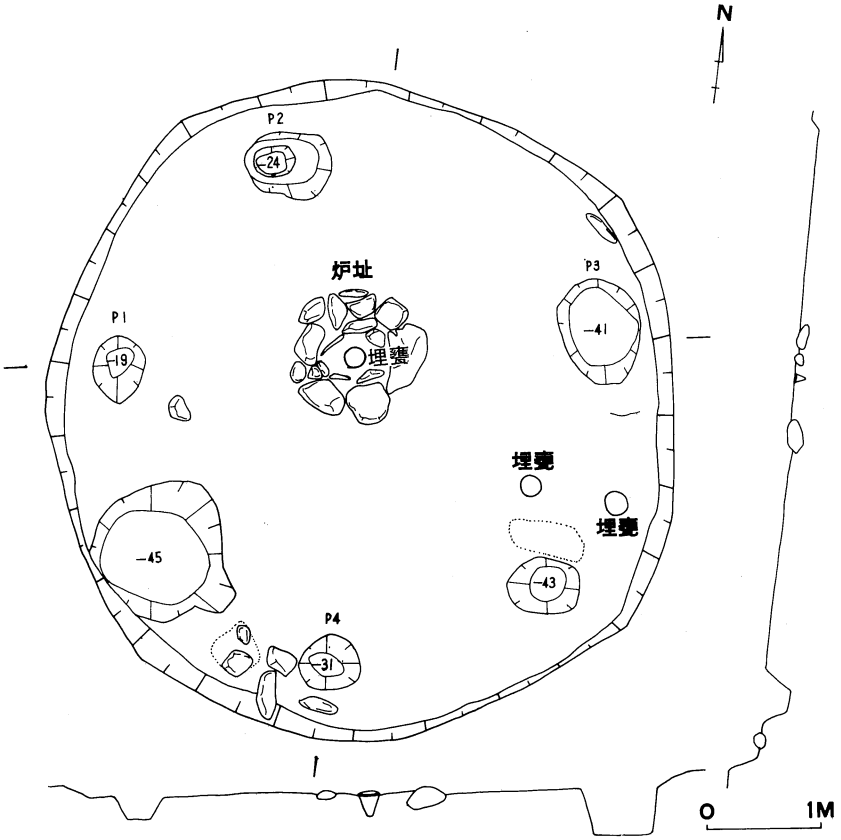
第33図　第34号住居址（1：80）



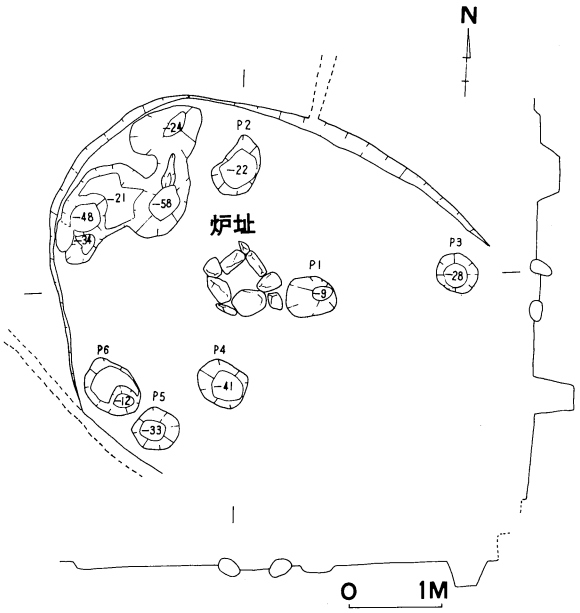
第34図　第35号住居址（1：80）



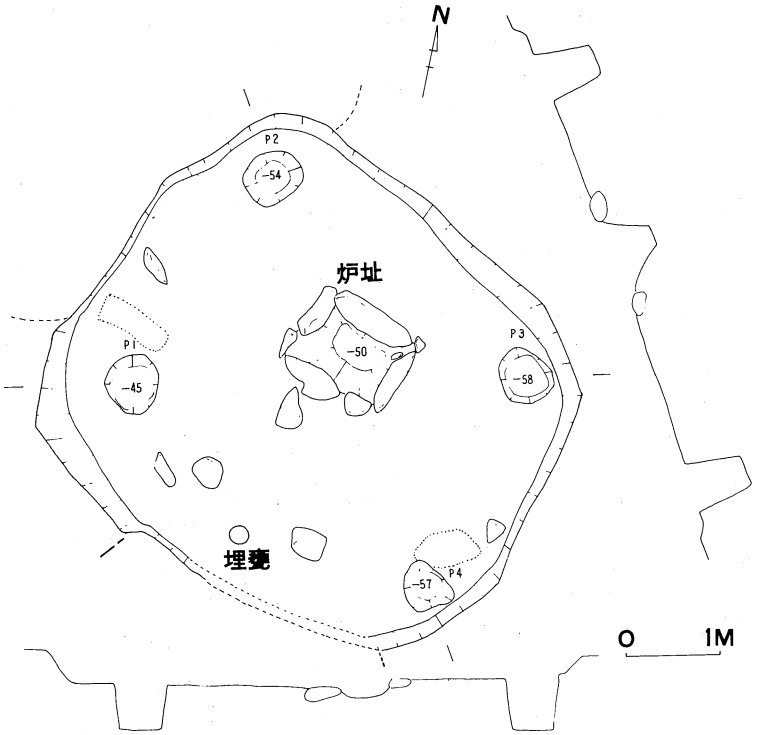
第35図　第36号住居址（1：60）



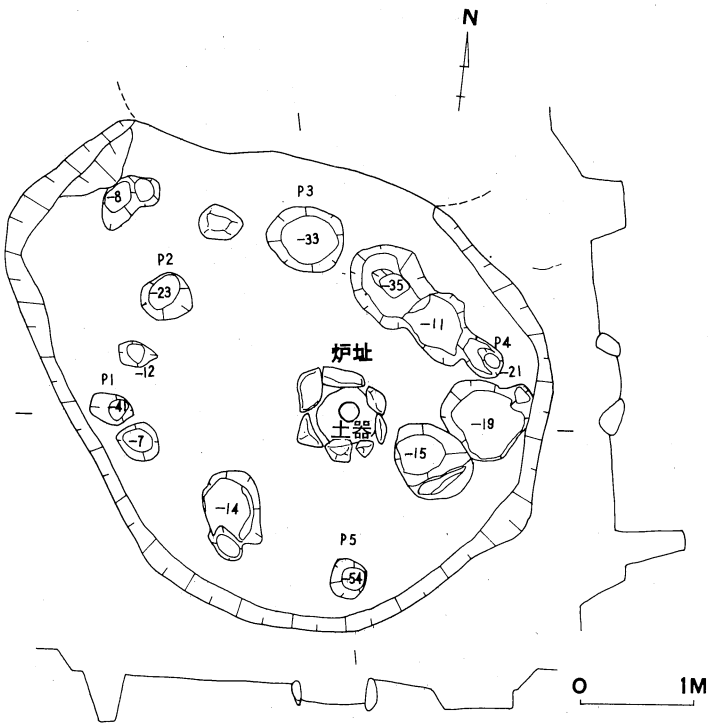
第36図　第37号住居址（1：60）



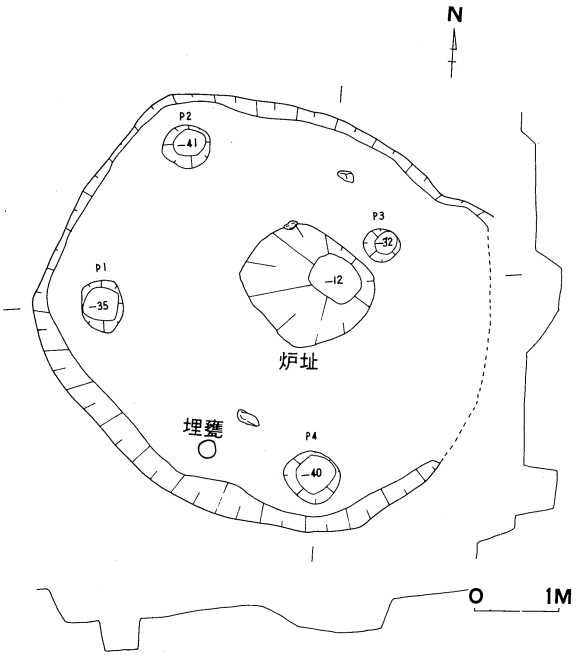
第37図　第38号住居址（1：80）



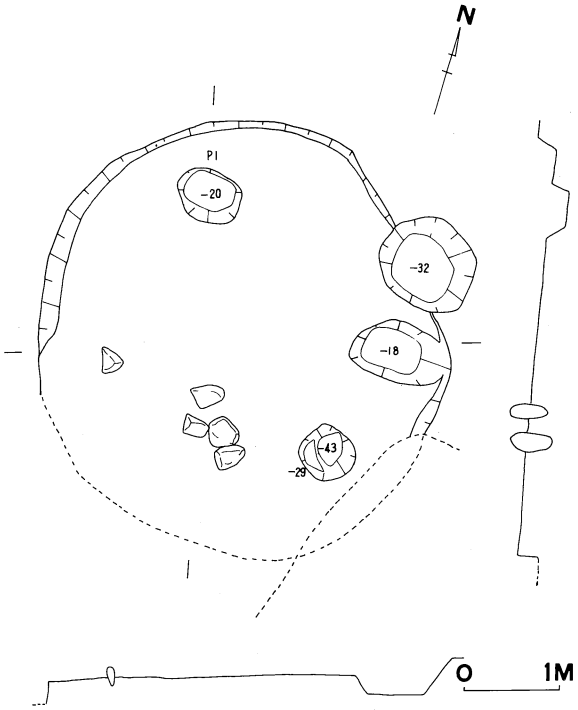
第38図　第39号住居址（1：80）



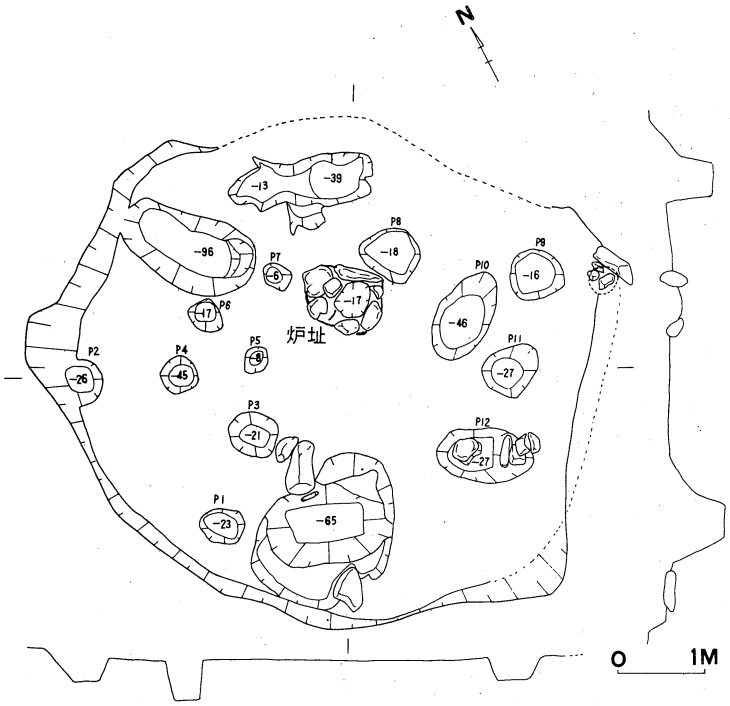
第39図　第40号住居址（1：60）



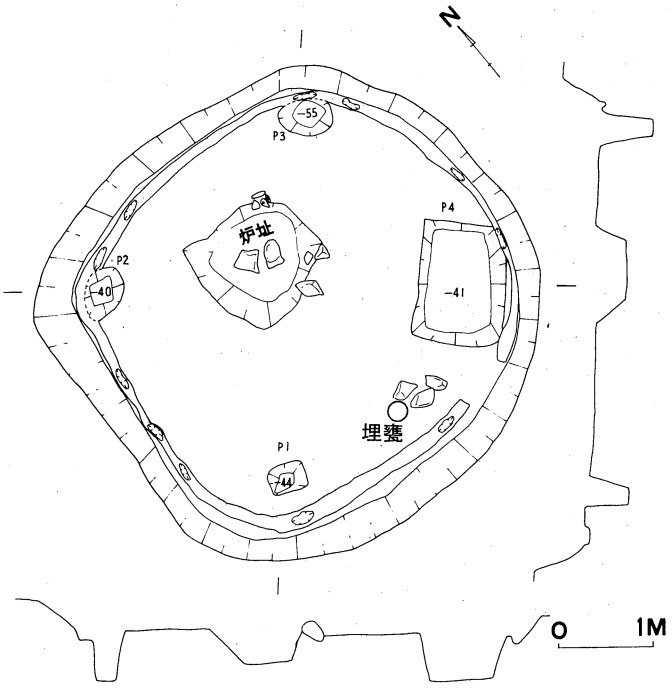
第40図　第41号住居址（1：80）



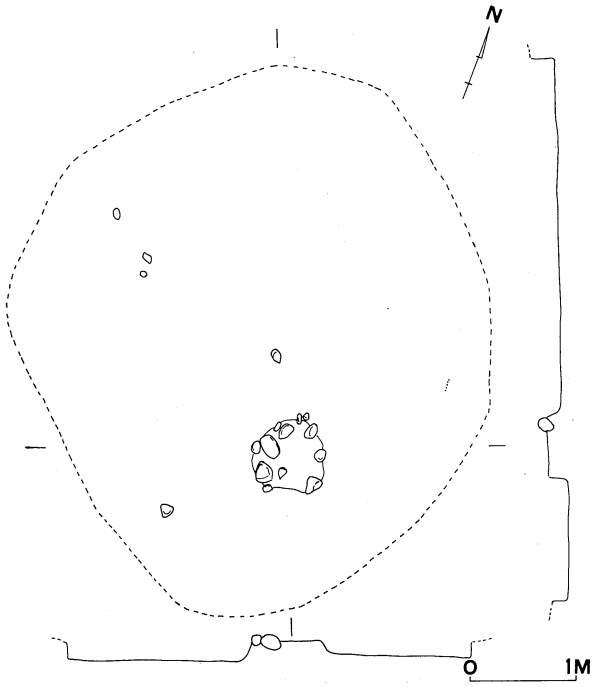
第41図　第42号住居址（1：80）



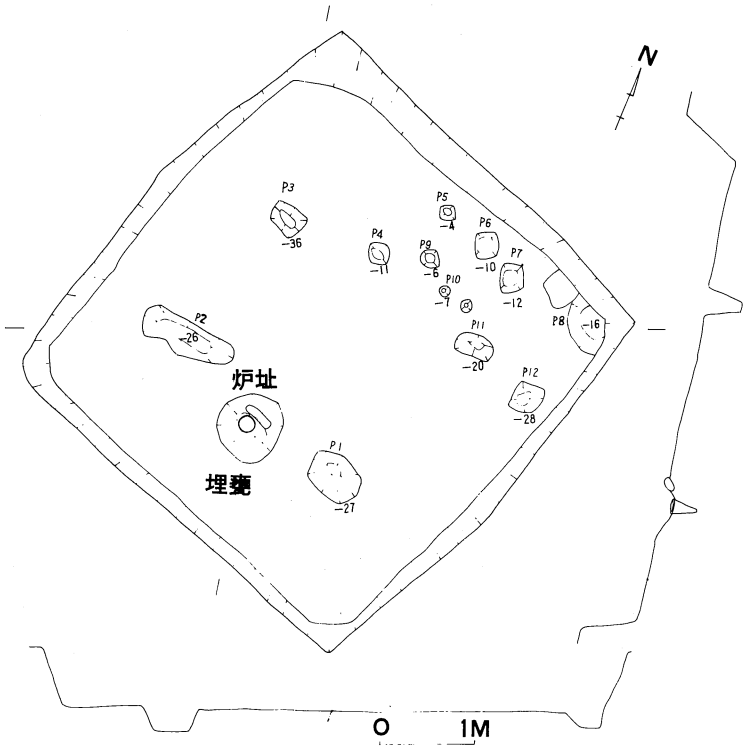
第42図　第43号住居址（1：80）



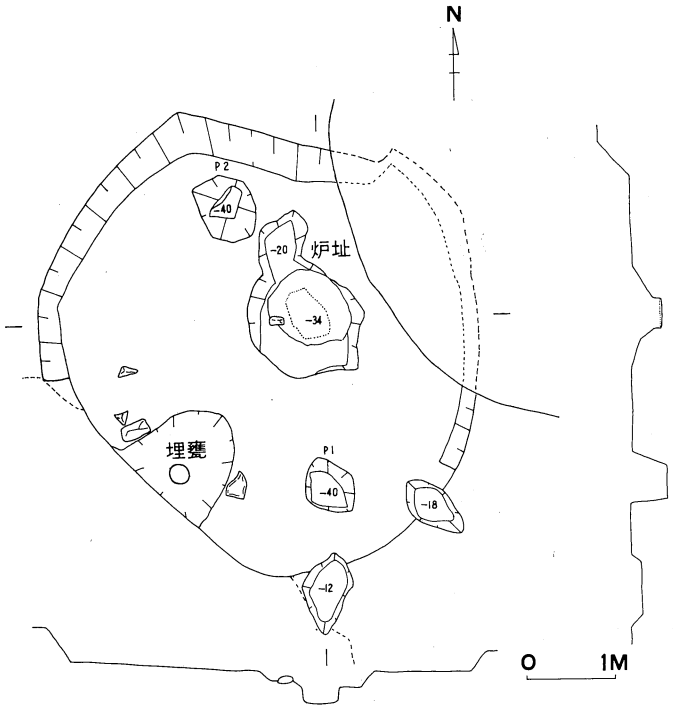
第43図　第44号住居址（1：80）



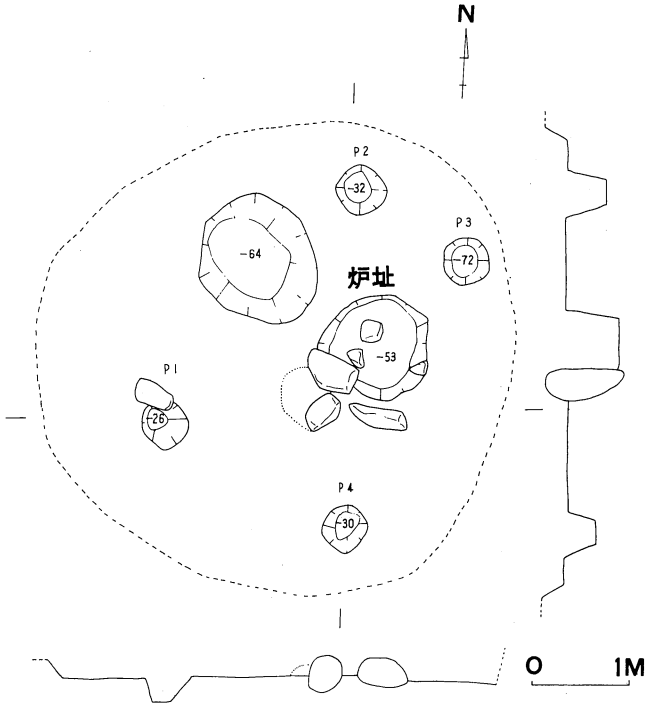
第44図　第45号住居址（1：60）



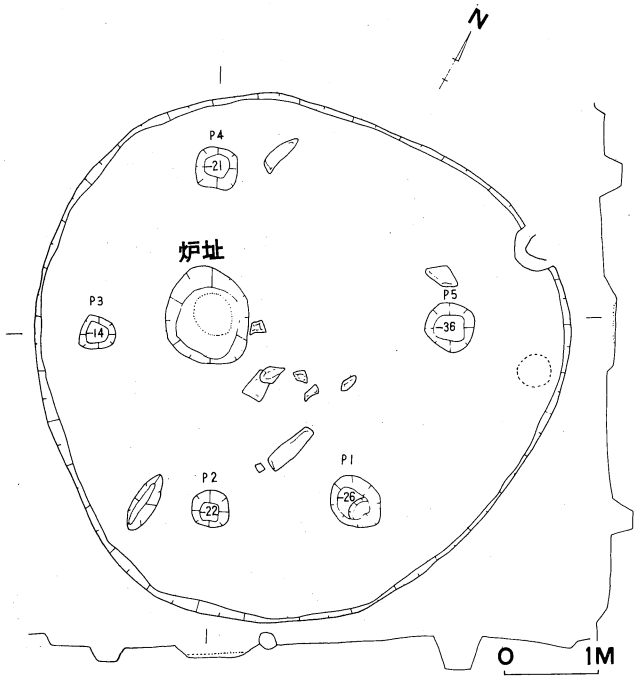
第45図　第46号住居址（1：80）



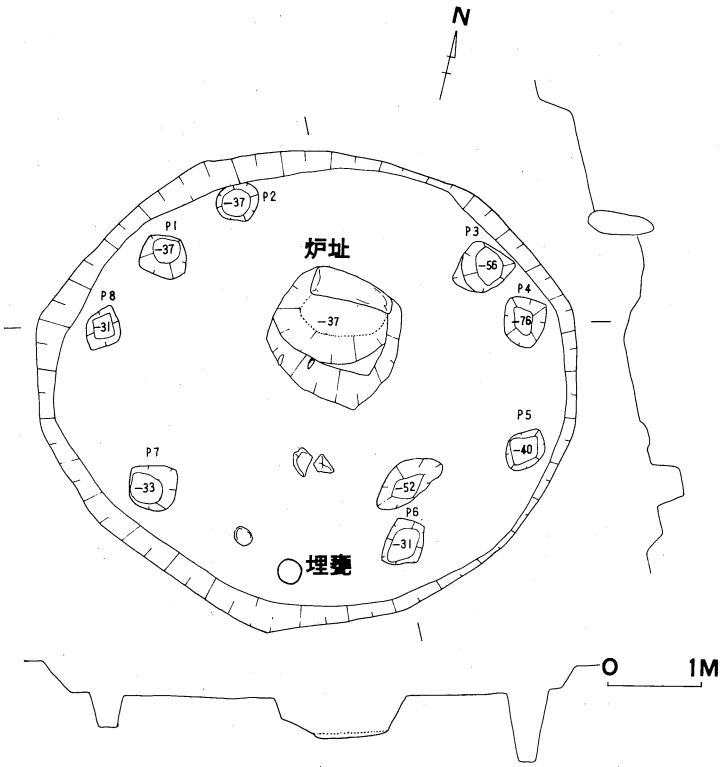
第46図　第47号住居址（1：80）



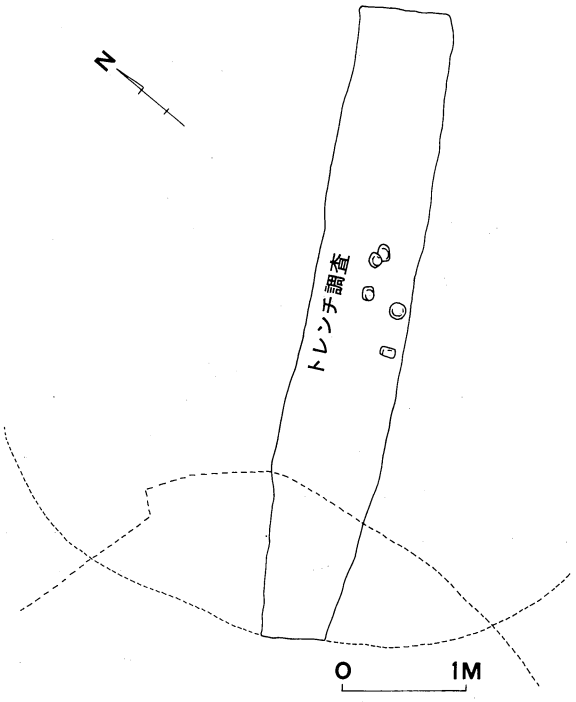
第47図　第48号住居址（1：80）



第48図　第49号住居址（1：80）



第49図　第50号住居址（1：80）



第50図　第51号住居址（1：60）

第Ⅳ章　遺　物

1.　土器

今回の調査で多くの土器が出土した。土器は縄文中期平出３Ａ式，井戸尻Ⅱ式，曽利Ⅰ～Ⅲ式，弥生後期で曽利Ⅱ式のものが比較的多い。出土した土器の内，主なものについてみると次のとおりである。

①は第１号住居址より出土した土器で，口縁部と底部を欠いている甕型土器である。文様は隆線による大柄な唐草文を施し，空間を楕円状に区画し内部を箆状器具による平行沈線文が施され，胴部以下は太目の隆線で４区画し，その間を綾杉文でうめた唐草文系Ⅲ期に比定される土器である。

②は第11号住居址出土の土器で，口縁部に２個の把手が付けられ，頸部には曲線上の入組文と縦の平行沈線文が描かれ，胴部に単節の斜縄文が施された曽利Ⅱ式に比定される深鉢型土器である。

③第25号住居より出土した土器で，口唇は垂文帯で頸部に２個の把手が付され，楕円状の区画文と，隆線による唐草文が施され，その内部を縦，横，斜に沈線文でうめ，胴部以下は，縦に隆線による８区画がなされ，その空間を綾杉文が施された曽利Ⅱ式に比定される土器である。

④は第28号住居址より出土した土器で，口縁部は隆線と沈線文で４区画され，頸部以下は地文が縄文でその上に蕨手状の沈線文が施された曽利Ⅱ式の新しいところに比定されると思われる伊那谷的な要素をもった土器である。

⑤第15号住居址から出土した土器で，口縁部に隆帯による大柄な渦巻文が施され，その渦巻文と渦巻文との間を沈線でうめている。頸部から胴部にかけ，蕨手文や直線で区画し，その間を綾杉文で埋められた曽利Ⅱ～Ⅲ式に比定される土器である。

⑥第16号住居址履土中より出土した深鉢型土器である。口縁部に一条の隆帯が波状にめぐり，その隆帯に箆状器具で刻目が付けられて，口唇には縦平行に押引状の連続刺突が施されている。また，胴部にも口縁部同様な隆帯横位に一条めぐらしている土器で，井戸尻Ⅱ式に比定されると考えられる。

⑦第16号住居址出土の土器で，口縁部無文帯で，頸部から胴部にかけ地文が縄文の上に太い平行沈線が縦に施された深鉢で曽利Ⅱ～Ⅲ式に比定される土器であろう。

⑧第20号住居址出土土器で，片側のみに把手が付いたキャリバ形の甕型土器である。口縁部には縦の平行沈線が施され，頸部から胴部にかけて地文が縄文で縦に蛇行沈線文が施されていて，曽利Ⅱ式に比定されると思われる土器である。

⑨第37号住居址から出土した土器で，口縁部が波状をなし，頸部にエプロン状Ｈ文が付され底部を欠いた甕型土器で，曽利Ⅰ式の範ちゅうに入るものと思われる土器である。

⑩第37号住居址出土土器で，口唇部が内湾し，口縁部には縦に粘土紐が付され，頸部に二条の隆帯をめぐらした深鉢型土器である。曽利Ⅰ式に比定される土器である。

⑪第37号住居址出土の胴部以下の甕型土器である。底部の上端に円形文が付けられている例は井戸尻式には見られない文様である。本址は曽利Ⅱ式に比定される住居址と考えている。 （52頁につづく）

表１　高尾第１遺跡出土石器一覧表(1)

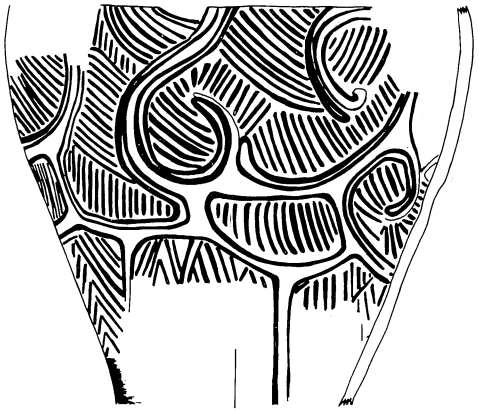
住居址番号	打製石斧	磨製石斧	石匙	石錘	石鏃	磨石	横刃形石器	石皿	凹石	スクレーパー	ドリル	石棒	黒曜石片	その他
1	35(13)	9(1)	4(3)		1(1)	3(2)	24(17)	1(1)	2(2)				6	
2	57(16)	5(3)	1(1)			1(1)	81(36)						49	1(0)
3	6(2)	2(0)				1(1)	5(5)					1(0)	1	
4	8(2)	7(0)	1(1)				22(7)						4	
5														
6	15(3)		2(0)			3(1)	38(11)		2(1)				2	
7	3(2)	2(1)			1(1)		1(1)							
8	3(0)						5(0)							
9	35(3)	4(1)	3(3)				26(12)						31	7(0)
10	18(6)	1(0)	1(1)	1(1)			19(5)		1(1)				4	
11	29(14)	4(1)	3(2)	1(1)		3(1)	33(10)						9	
12	11(3)	2(0)	1(0)	1(1)			10(2)		1(1)				1	1(0)
13	12(1)	2(0)					17(6)							
14	17(5)	4(0)	1(1)			1(1)	9(4)		1(1)	1(1)			12	
15	12(4)	3(0)	3(2)			1(1)	7(2)						9	
16	16(6)	1(1)	1(1)				5(2)		1(1)			1(1)	11	3(0)
17	8(4)	1(0)		2(0)			10(3)						1	3(0)
18	12(2)	2(0)		1(1)			12(8)							
19														
20	10(3)	2(0)	1(0)	1(0)			5(3)						1	
21	19(6)	7(3)	5(1)		1(1)	3(3)	16(8)						7	
22		1(0)					8(3)							

※（　）は完形品内数

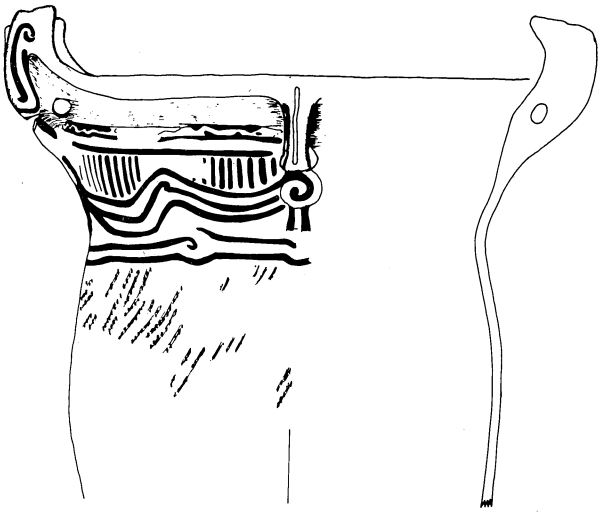
表１　高尾第１遺跡出土石器一覧表(2)

住居址番号	打製石斧	磨製石斧	石匙	石錘	石鏃	磨石	横刃形石器	石皿	凹石	スクレーパー	ドリル	石棒	黒曜石片	その他
30	(12) 24	(1) 4				(1) 1	(9) 16		(2) 2				2	
31	(20) 34	(8) 14	(0) 8		(1) 4	(1) 2	(8) 30		(1) 1			(0) 1	7	(0) 2
32	(5) 22	(1) 2	(0) 2			(1) 1	(6) 14						2	
33	(7) 8	(0) 1	(2) 4			(1) 1	(3) 3		(1) 1					
34	(9) 14	(1) 2					(16) 23		(1) 1	(1) 1			6	
35	(0) 6	(0) 3	(2) 2				(2) 3					(0) 1	6	
36	(0) 9						(2) 3							
37	(7) 21	(1) 2	(6) 10		(2) 2	(2) 2	(8) 24		(5) 5				2	
38	(25) 35	(2) 5	(2) 3	(1) 1	(6) 6		(21) 34		(1) 1		(1) 1		1	
40	(6) 9	(0) 3	(1) 1	(0) 1		(1) 2	(6) 8		(1) 1				3	
41	(1) 1	(2) 2	(2) 2		(1) 1	(1) 1	(1) 1							
42	(6) 7					(1) 1	(1) 1							
43	(13) 26	(1) 4				(1) 1	(13) 30		(0) 2				2	(0) 1
44	(4) 10	(0) 1					(1) 2		(1) 1					
45	(1) 4	(0) 1					(0) 2						1	
46		(3) 3												
47	(6) 7		(1) 1				(1) 1						1	
48	(2) 2	(1) 1											2	
49	(0) 4						(1) 4	(0) 1	(1) 1			(1) 1		(0) 1
50	(3) 4	(0) 1												
A地区表採	(22) 56	(6) 14	(1) 8	(1) 1	(1) 6	(1) 1	(1) 33	(2) 5	(1) 1				125	
B地区表採	(9) 15	(2) 3			(2) 2	(1) 1	(2) 6	(1) 6						
合計	(253) 644	(40) 125	(33) 68	(6) 10	(16) 24	(23) 30	(247) 591	(4) 13	(22) 25	(2) 2	(1) 1	(2) 5	308	(0) 19

※（　）は完形品内数

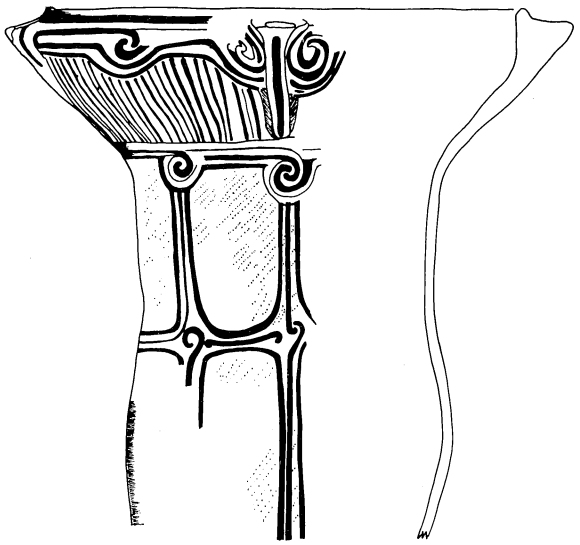


①（1住）



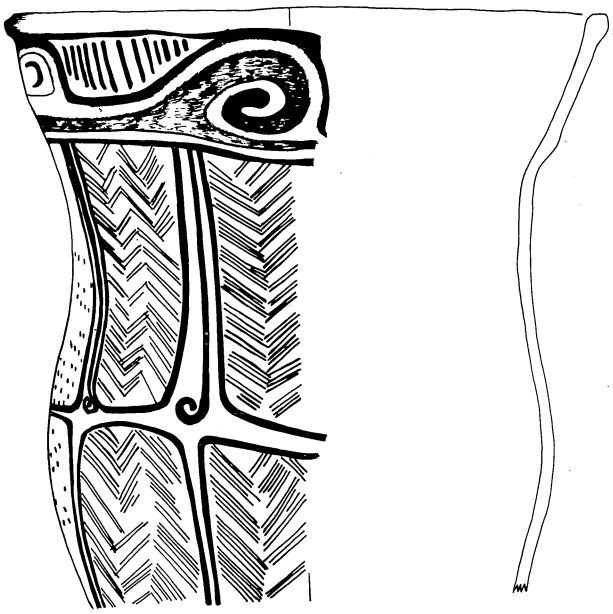
②（11住）

③（25住）

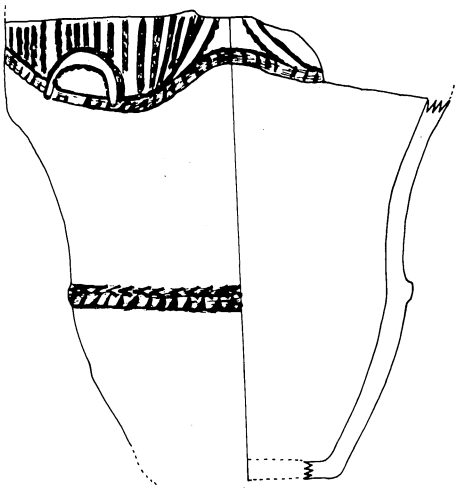


④（28住）

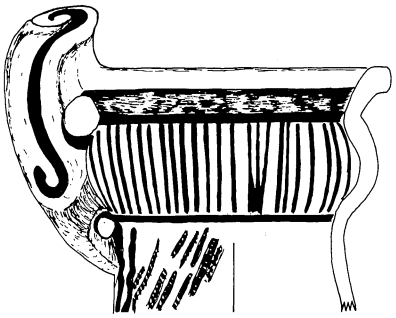
第51図　土器実測図　（1：4）



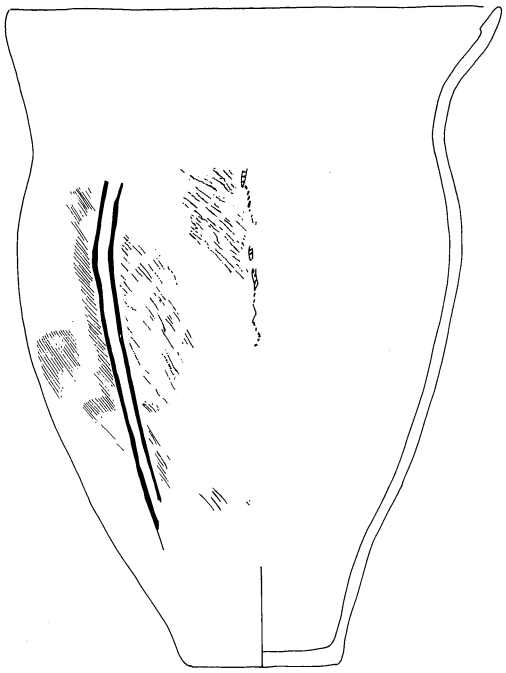
⑤（15住）



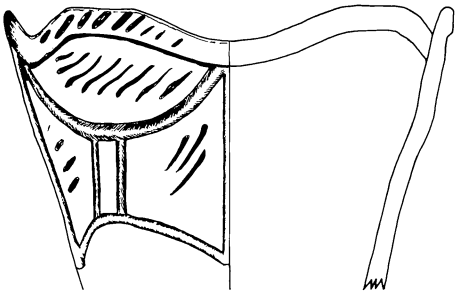
⑥（16住）



⑧（20住）

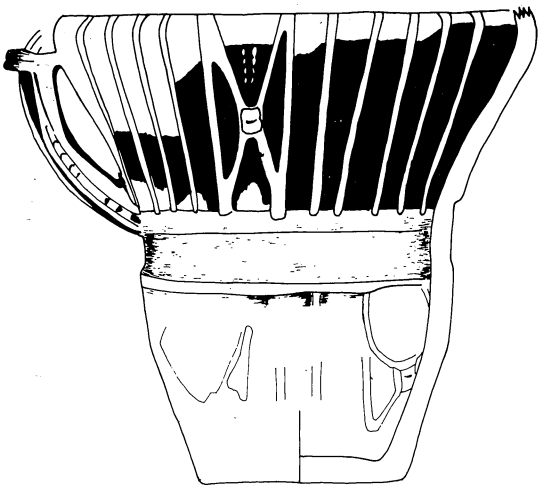


⑦（16住）

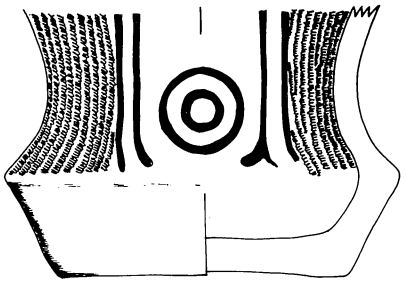


⑨（37住）

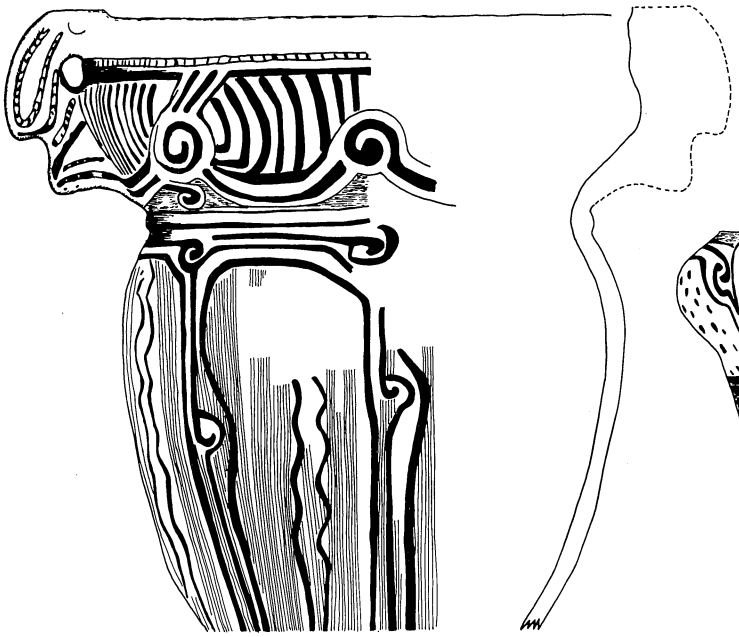
第52図　土器実測図（1：4）



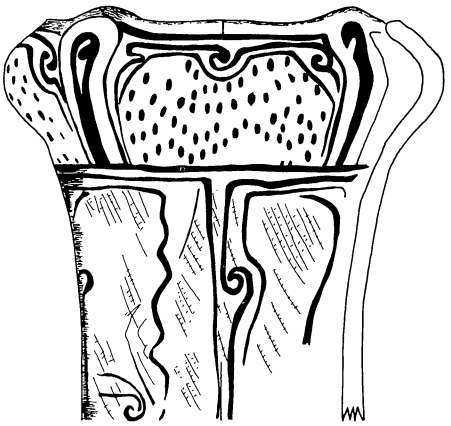
⑩（37住）



⑪（37住）

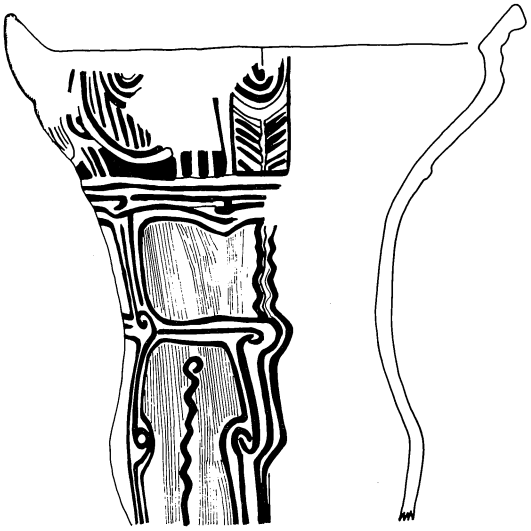


⑫（41住）

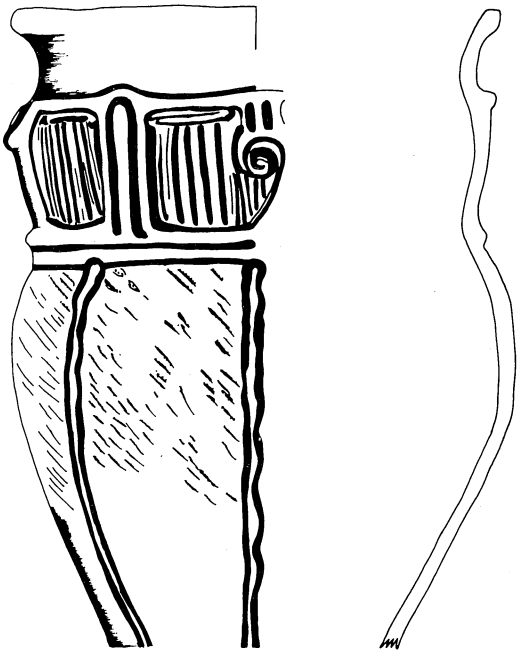


⑬（40住）

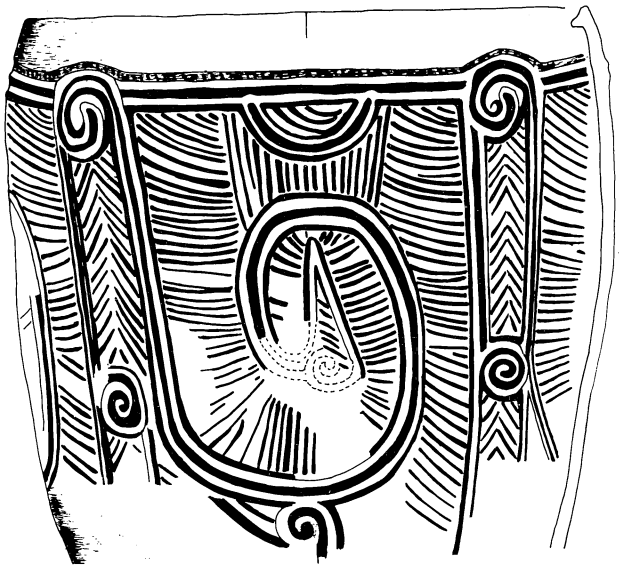
第53図　土器実測図（1：4）



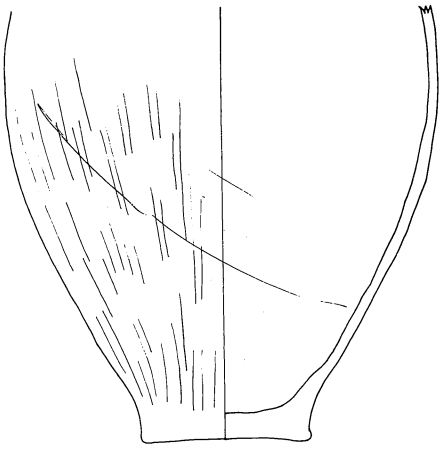
⑭（44住）



⑮（44住）

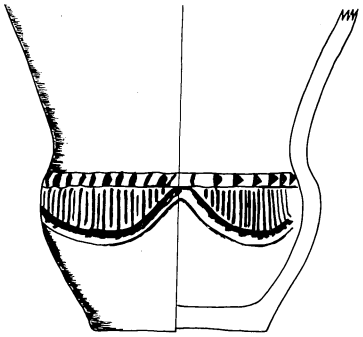


⑯（47住）



⑰（46住）

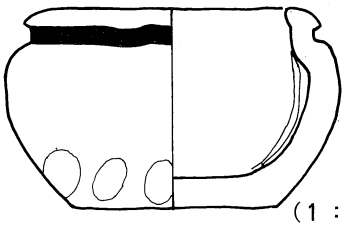
第54図　土器実測図（1：4）



⑱（47住）

⑲（47住）

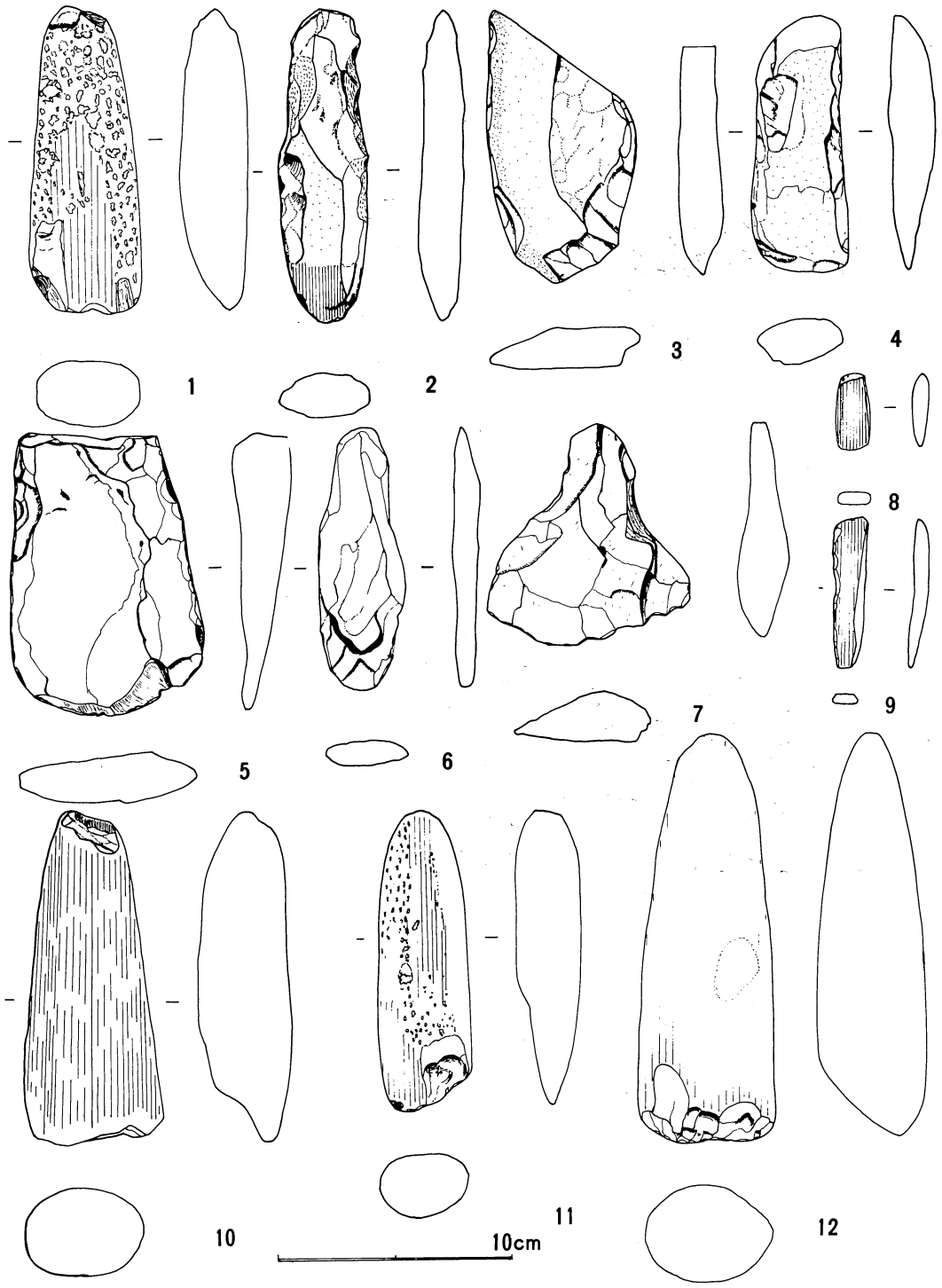
⑳（50住）



（1：2）

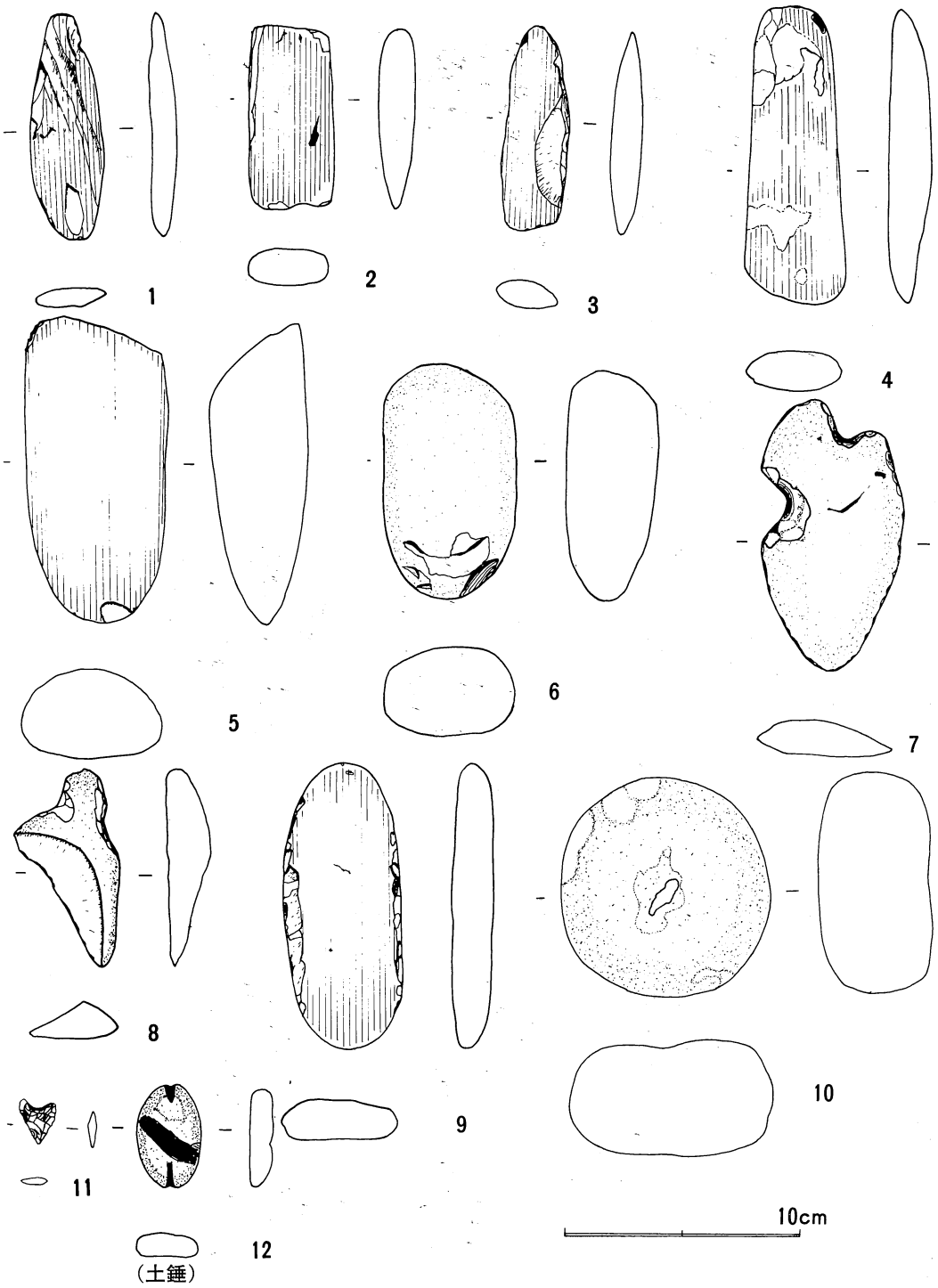
㉑（28住）

第55図　土器実測図（1：4，1：2）



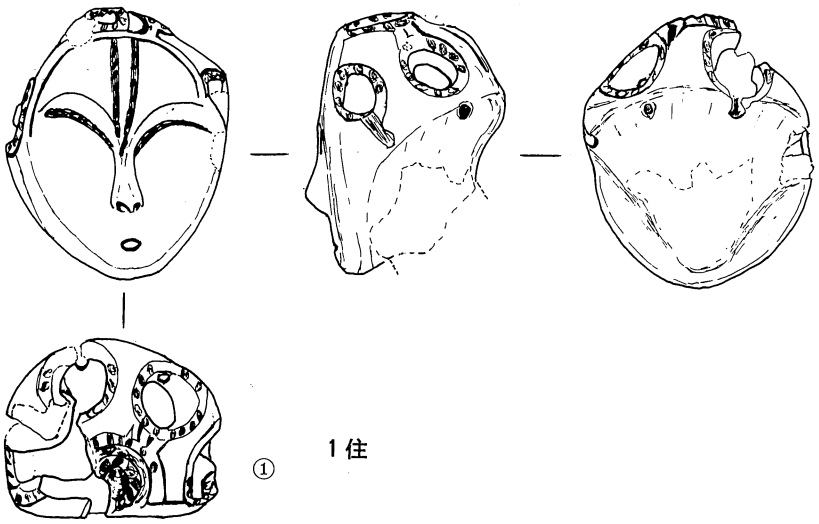
1・2・5・10・11(表採) 3(22住) 4(11住)
7 (30住) 6・8・9(41住) 12 (46住)

第56図　石器実測図（1：3）

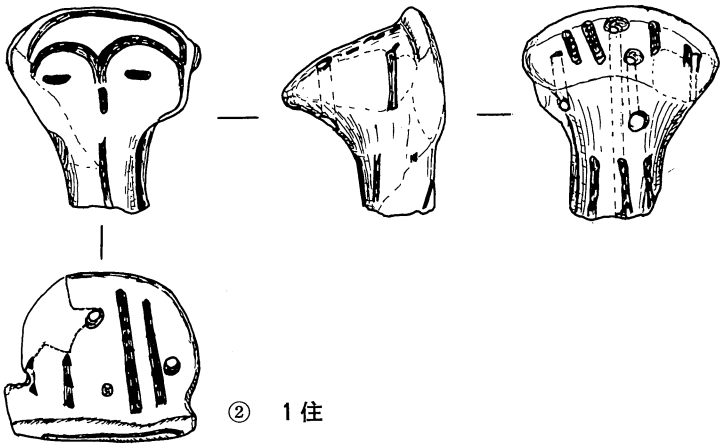


1・4・6・7(表採) 10(12住) 5(22住) 11(30住)
2・3・8(41住) 9(46住) 12(22住土錘)

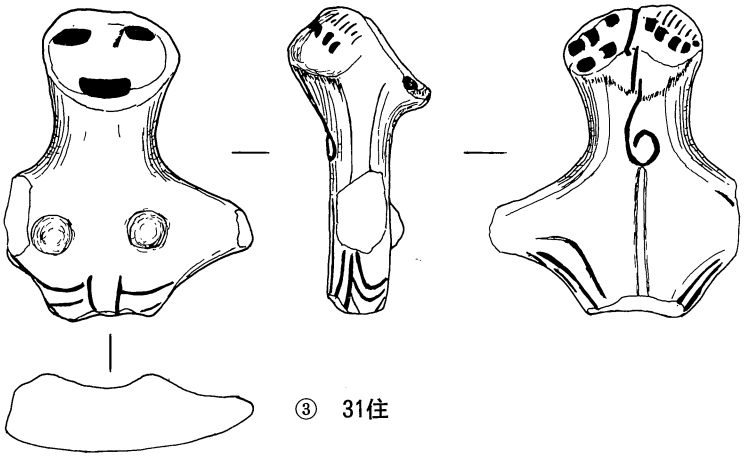
第57図　石器・土製品実測図（1：3）



① 1住

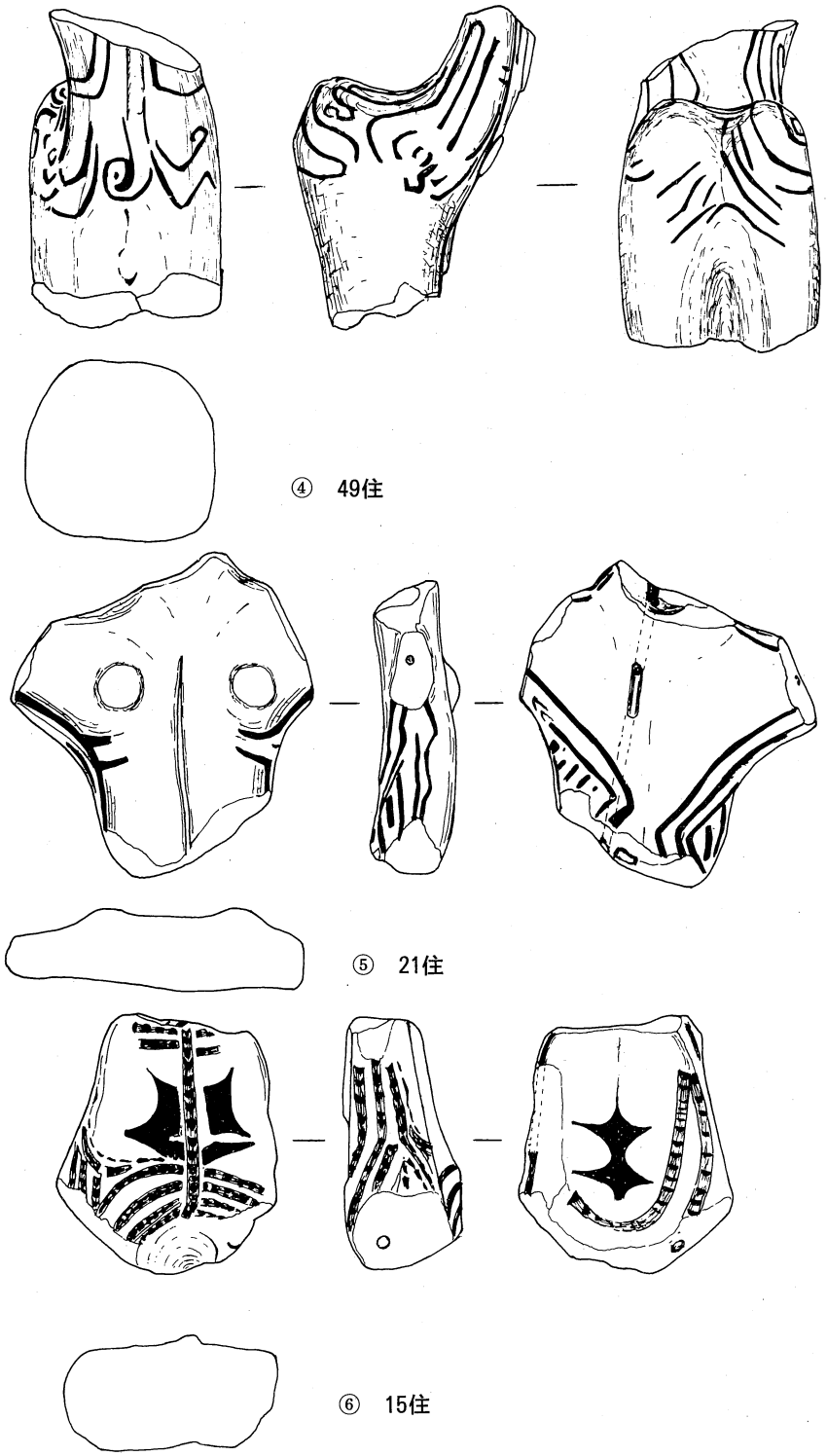


② 1住



③ 31住

第58図　土偶実測図



第59図　土偶実測図（1 ： 2）

⑫第41号住居址出土土器で，口縁部に渦巻文と曲線文の先が小渦巻を作る文様で飾られ，頸部から胴部は地文が細い刷目が引された上に，沈線による蕨手文の文様が施された曽利Ⅱ式に比定される深鉢型土器である。

⑬第40号住居址出土土器で，口縁部縦位に渦巻文による区画がなされ，口唇の下部に曲線文と刺突文が施文されている。胴部は地文が縄文でそのうえに蕨手状文が施された曽利Ⅱ式に比定される土器である。

⑭第44号住居址出土土器で，口縁部が一部欠損した土器，口縁部は隆線による渦巻文と平行沈線文が施され頸部から胴部に曲線文や蕨手文が描かれた曽利Ⅱ式に比定される土器である。

⑮第44号住居址出土の深鉢型土器，口縁部垂文で頸部との間は隆線で８区画され，区内は，縦位に平行沈線文でうめられている。胴部は，縄文地の上に沈線による蛇行線文が施されている曽利Ⅱ式の範ちゅうに入ると考えられる土器である。

⑯第47号住居址出土土器で，口縁部無文の帯の甕型土器である。頸部以下に大柄な唐草文が施された曽利Ⅱ式土器である。

⑰第46号住居址出土土器で，口縁部を欠いた無文の弥生後期座光寺原に比定される土器である。

⑱第47号住居址出土の胴部以上を欠いた甕型土器。底部に近くエプロン状の隆帯に刻目が施された井戸尻Ⅱ式に比定される土器である。

⑲第47号住居址出土土器で，口縁部に把手が付き，頸部横位の沈線文の先端に渦巻文が描かれ，胴部は渦巻文と平行沈線が施文された曽利Ⅱ式に比定される深鉢型土器である。

⑳第50号住居址出土土器で，口縁部が僅か欠けた甕型土器で胴部に豪華な唐草文で飾られている曽利Ⅱ式に比定される土器と思われる。

㉑第28号住居址出土土器で，無文の小壷で，口径８㎝，胴部の径９㎝，高さ5.3㎝，顔料（第二酸化鉄）が入っていた土器である。

2. 小型土器

今回の調査で４個（28住，34住，41住，51住）の小型土器が出土した。第28号住居址出土の小型土器第55図㉑は「ベンガラ」を貯蔵した（後述）土器であることが確認された。また第34住出土の土器は，第28号出土の小型土器を僅かに大きくしたもので，内側器面には，赤色顔料の痕跡がみられる。

3. 吊手土器

第41住より１個体出土した。底部の径7.5㎝，口縁部の径13㎝，高さ７㎝の無文で，吊手部分が欠落している。

4. 土偶

今回の調査で６個の土偶が出土した。第58図②，第59図⑤，⑥には頭部，胴部に穿孔がみられる。

5. 石器

今回の調査で合計 1,557 個の石器が出土した。内訳は完形品 649 個，欠損品 908 個である。石器の種類と種類別の内訳は一覧表のとおりである。最も出土数の多い石器は打製石斧で，ついで横刃形石器，磨製石斧と続いている。打製石斧は，大部分が砂岩製で，一部に緑泥岩のものがある。磨製石斧は刃部を磨いた局部磨製のものが多く，材質も緑泥岩製が多い。石匙は砂岩製の大型のものが多く黒曜石製，チャート製の小型のものは少ない。石皿，凹石は多く出土したが，開田当時にも相当数出土している。スクレーパー，ドリル，石鏃等は発掘調査では出土が少なかったが，過去の表面採集で多数出土した。その他，過去の表面採集で有孔小珠が数点出土している。

赤色顔料貯蔵土器と顔料の種類

成瀬正和

高尾第一遺跡第28号住居址西壁付近の床面より赤色顔料を貯えた小型土器が出土した（第55図㉑）。同住居址は付設された埋甕（第51図④）から曽利Ⅱ併行期であると考えられる。小型土器は器壁が厚く，口縁下に１本の太い沈線が巡るが，他は無文であり，該期の一般的な土器ではない。当初より顔料貯蔵の目的をもって製作されたものであろう。

縄文時代に確実に用いられた赤色顔料としてはベンガラ（酸化第二鉄　Fe_2O_3）と朱（赤色硫化水銀　HgS）が知られている。小型土器内に貯えられた赤色顔料の種類を調べるため，蛍光Ｘ線分析およびＸ線回折分析を試みた。前者は赤色の由来となる物質の主成分元素の検出を，また後者は赤色の由来となる鉱物成分の同定を目的としている。

蛍光Ｘ線分析には理学電機製蛍光Ｘ線分析装置（大型試料台付）を用い，試料は顔料をそのままで薬包紙に包んだものを使用し，Ｘ線管球；クロム対陰極，分光結晶；フッ化リチウム，印加電圧―電流；40kV―20mA，検出器；シンチレーション計数管，走査速度；1°／分，時定数；2，走査範囲（２θ）；20°～60°，の条件で行なった。

蛍光Ｘ線スペクトルには管球等のバックグラウンドに基づく諸ピークを除けば，鉄に基づくピーク（Fek_α　57，49°，Fek_β　51，72°）が顕著に認められた。

Ｘ線回折分析には理学電機製ガイガーフレックスを用い，顔料をメノウ乳鉢で 300 メッシュ以下に粉砕し，これを凹板ガラス試料板に充塡し試料を作成して，Ｘ線管球；鉄対陰極，フィルター；マンガン，印加電圧―電流；30kV―12mA，スリット系；1°― 0.3 ㎜ ― 1°，検出器；比例計数管，走査速度；1°／分，時定数；2，走査範囲（２θ）；30°～75°の条件で行なった。

Ｘ線回折スペクトルには石英〔3.34Å（$Fe\,k_\alpha$　2θ　33.7°）等〕および赤鉄鉱〔2.69Å（42.2°），2.51Å（45.4°），1.69Å（69.8°）〕に基づくピークが認められた。石英は土砂の混入の影響によるものと考えられるので，赤色の由来となる鉱物成分は赤鉄鉱であろう。

以上の結果より小型土器内に貯蔵された赤色顔料はベンガラであることが判明した。

なお末筆になりましたが調査団長の友野良一氏，町教育委員会関係各位，および長野県史編さん室の宮下健司氏には大変お世話になり，御礼申し上げます。

第Ⅴ章　ま　と　め

高尾第１遺跡の調査は，圃場整備工事関連の緊急発掘として行なわれた。本遺跡はきわめて大規模な遺跡で発掘面積も広く，遺構，遺物も多かったため，事後の整理と研究は，相当長期間必要のため，ここでは，発掘調査の過程において，知り得た事柄と問題点を記し，今後の研究の参考に資したい。

1.　まず第一に，本遺跡の規模と立地についてであるが，工事上その他の問題から台地上の中心部と考えられる地点を選定し，発掘した。面積は，約4000㎡で，縄文中期井戸尻併行期３・14・35・38号住居址の４軒，曽利Ⅰ式期Ａ２・36号住居跡の２軒，曽利Ⅱ式期Ａ７・８・９・11・12・13・17・20・21・22・24・26・27・29・30・31・32・33・40・41・43・45・48・49・50号住居址の25軒，Ｂ６・15・16・18・25・28・34・37・42・44・47・51号住居址の12軒。曽利Ⅲ式期１・39号住居址の２軒，弥生時代後期前半（座光寺原）期は，4・5・10・46号住居址の４軒の合計49軒の住居址を調査した。また過去に行なわれた発掘調査，表面採集による分布調査の成果と合わせてみて少なくとも東西150ｍ，南北約100ｍの広さをもつ東西に長い舌状台地を全面的占拠した縄文中期中葉に始まり後葉期と，弥生後期の二時代に営まれた復合集落址であることを確認した。集落の形態は，今回発掘した地点が中心で，その東と西に広場をもち，その広場の外側に小集落が営まれた形態の中心外周構造をもつ集落形と考えられる。

集落は井戸尻期に始まり，曽利Ⅰ期は少数で，曽利ⅡＡ期に25軒という最盛期を迎え，曽利ⅡＢ期には，12軒に減少する。曽利Ⅲ期の初期をもって消滅した縄文中期の集落ということになる。そして，本遺跡に隣接する町谷遺跡弥生後期と共に弥生時代の集落が営まれた遺跡である。

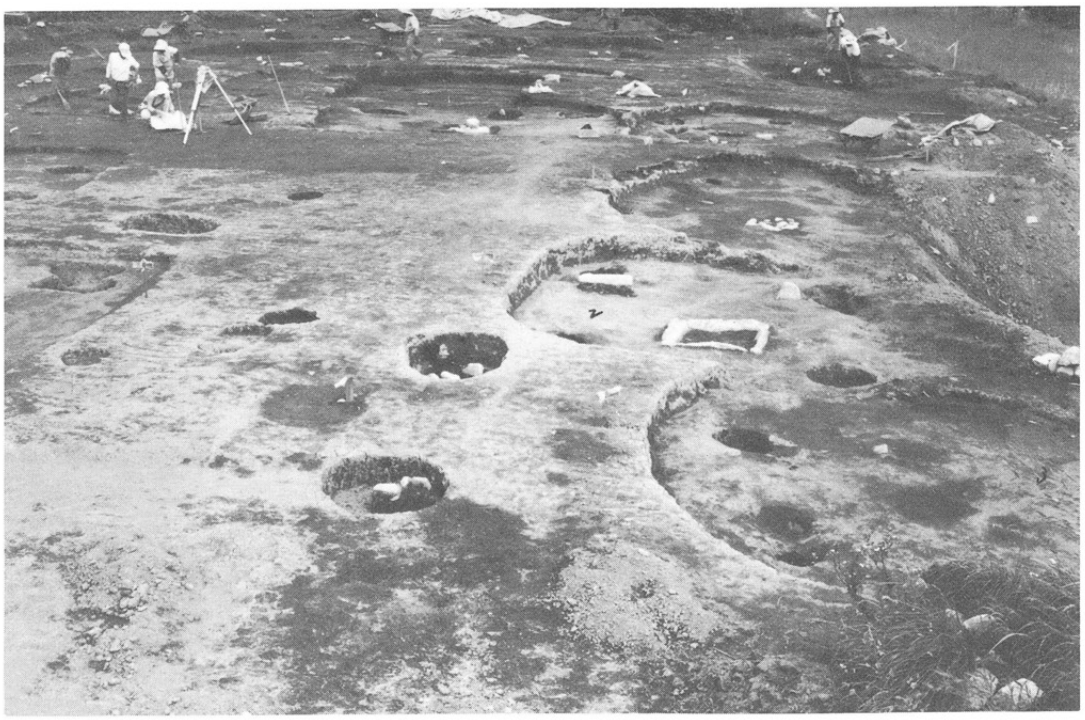
2.　縄文時代の住居址の形は，円形・楕円形・隅丸方形の三種類である。住居の面積は最少が12㎡，最大が36㎡である。平均24㎡である。柱穴は基本的には４本柱であるが，５本～６本ある。炉は地床炉と石囲炉の二種類である。また，１軒が必要とした面積は77㎡であった。これは他の種々の集落占地形態との比較という立場で考えることもできるが，本遺跡としての場において計算上の数値である。今後集落構造研究の参考に供したい。

遺物。土器の型式と編年については，井戸尻・曽利の編年を基準にした分類である。井戸尻Ⅱ式～曽利Ⅰ式→Ⅱ式→Ⅲ式が認められた。しかし，本遺跡にあっては，全く，井戸尻の土器も見受けられるが，よく観察すると井戸尻とは異なる土器であって問題となった。曽利式も井戸尻土器と同様である。伊那谷中部は東海系の咲畑，中富などの関係を考慮して，伊那谷の中期後半の土器の編年の作成を早急にせまられている。

その他の遺構。遺跡の南西に土坑群が発見された。この土坑群は第２・３・４・５・22号住居址の西側に集中している。土坑は全部で49基発見された。大きさは径80㎝～150㎝で，円形・楕円形である。遺物は主に縄文中期後葉の土器が多かった。時期的には曽利期の時期に造られたようである。本遺跡にあった土坑が一箇所に集中しているということで，住居と土坑の関係が今後の問題となる。

石器。石器一覧表で見るように，打製石斧が一番多く出土した。住居址は，第２号で57個中，完形

（73頁につづく）



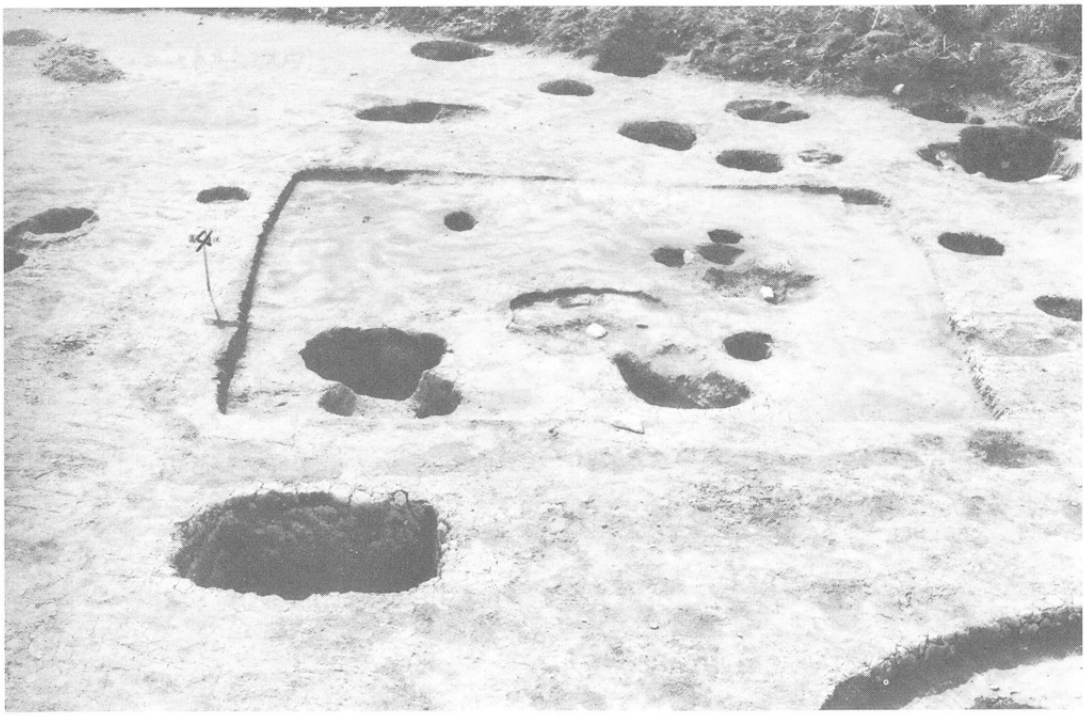
P 4　遺跡南全景

P 5　第1号住居址

P 6　第2号住居址

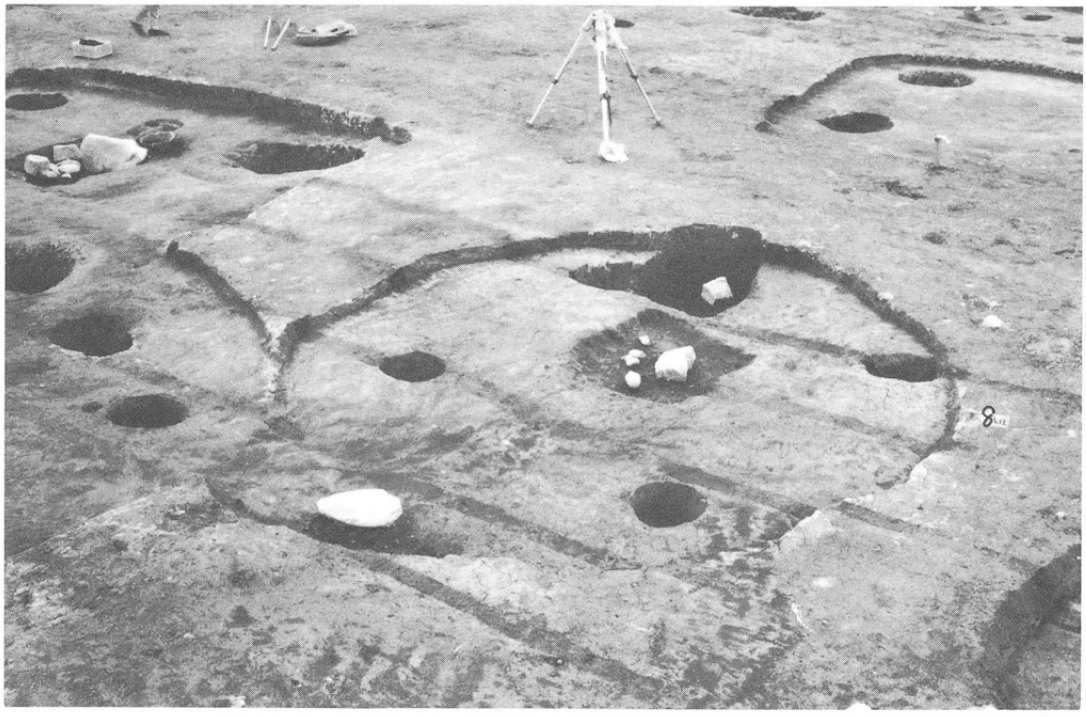
P 7　第3号住居址

P 8　第4号住居址



P 9　第4号住居址

P 10　第 5 号住居址



P 11　第 8 号住居址

P 12　第18号住居址

P 13　第24号住居址

P 14　第25号住居址

P 15　第28．29号住居址

P 16　第30号住居址

P 17　第31号住居址

P 18　第26号住居址

P 19　第33号住居址

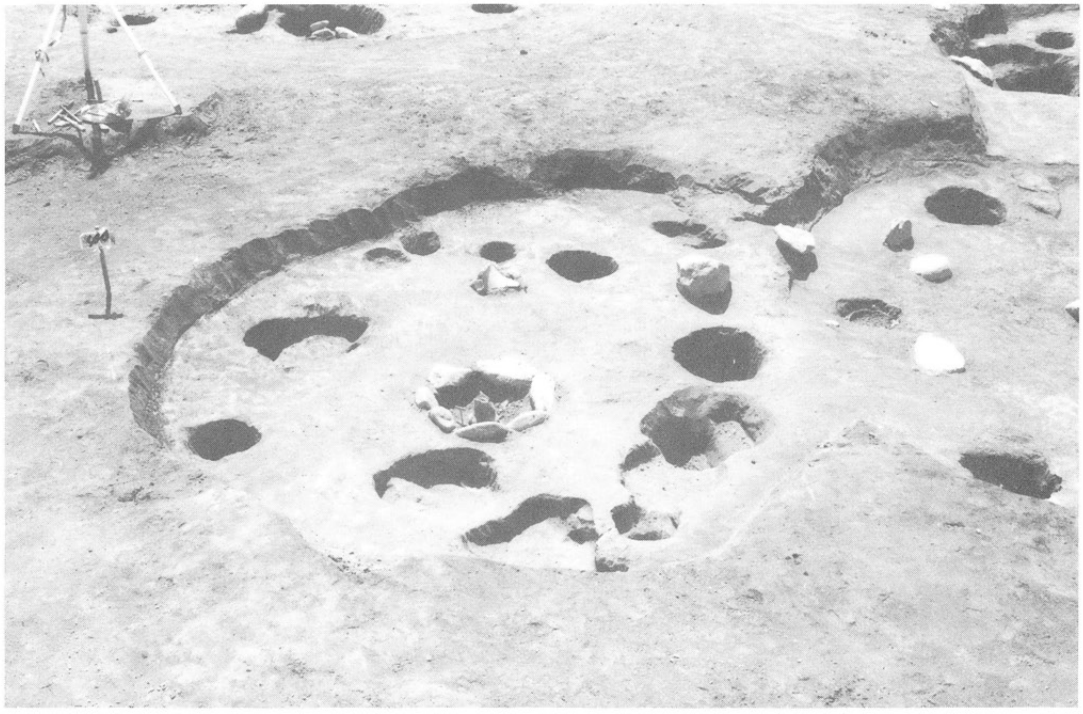
P 20　第34号住居址

P 21　第37号住居址

P 22　第35号住居址

P 23　第38号住居址

P 24　第39号住居址

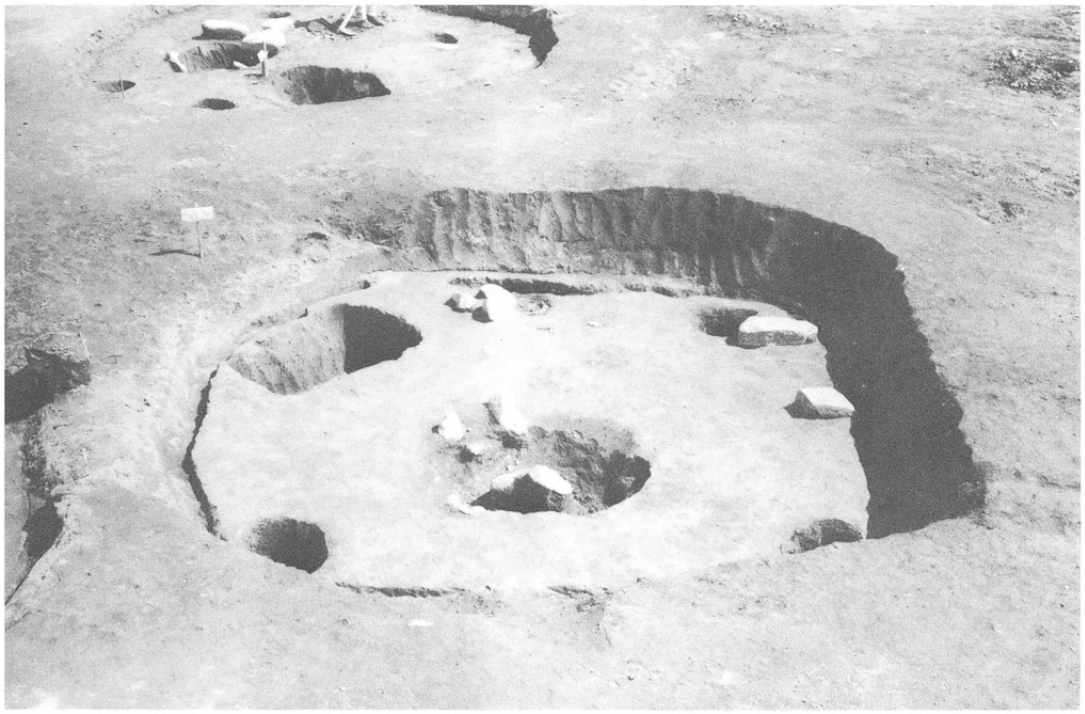


P 25　第40号住居址

P 26　第41号住居址

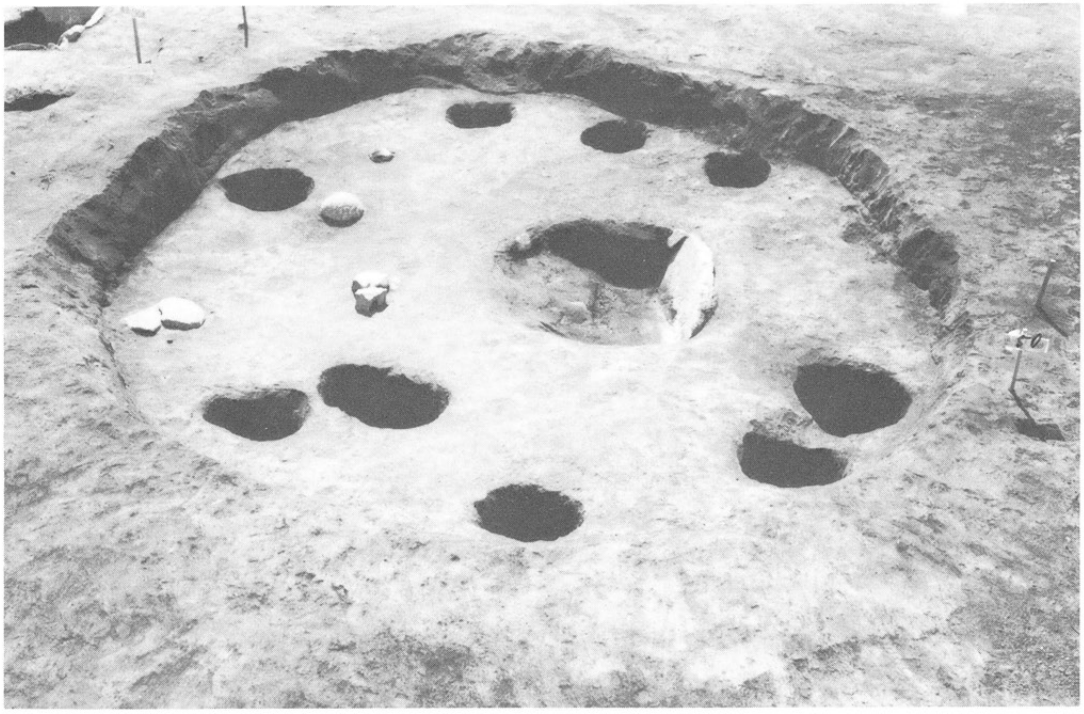
P 27　第42号住居址

P 28　第43号住居址

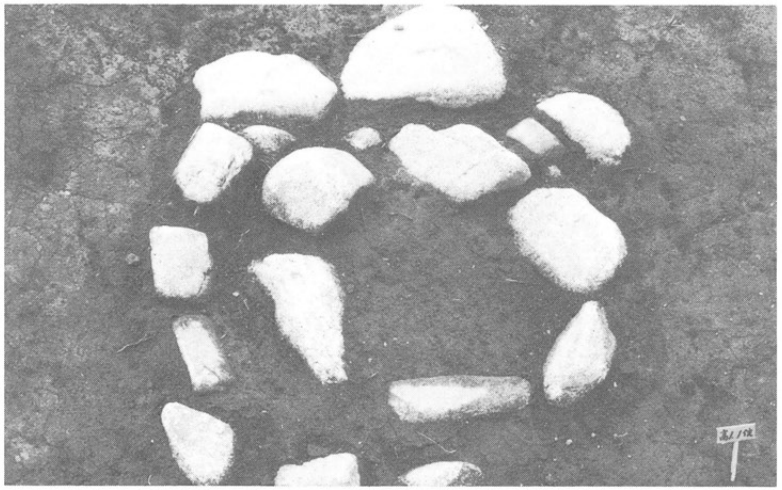


P 29　第44号住居址

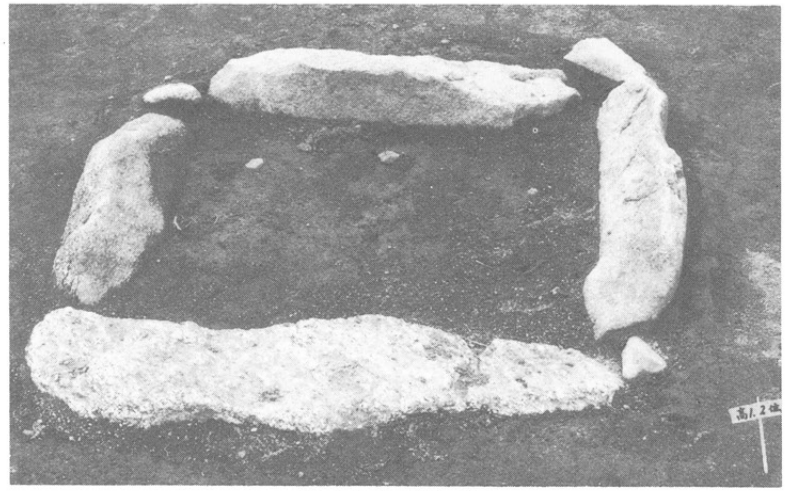
P 30　第47号住居址



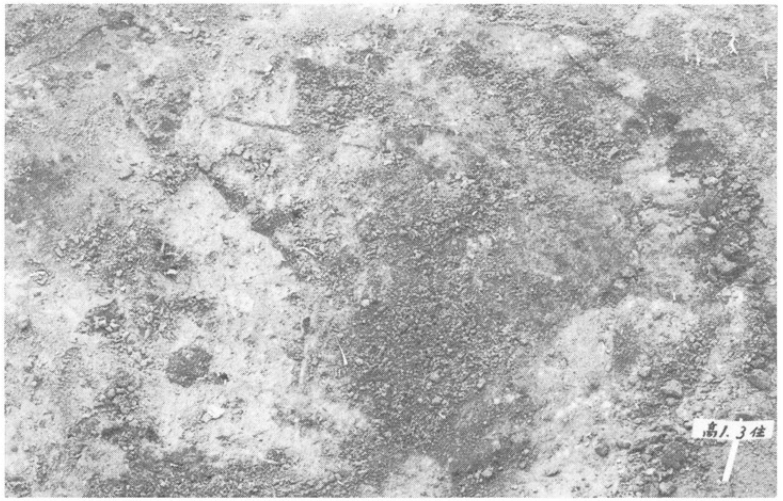
P 31　第50号住居址



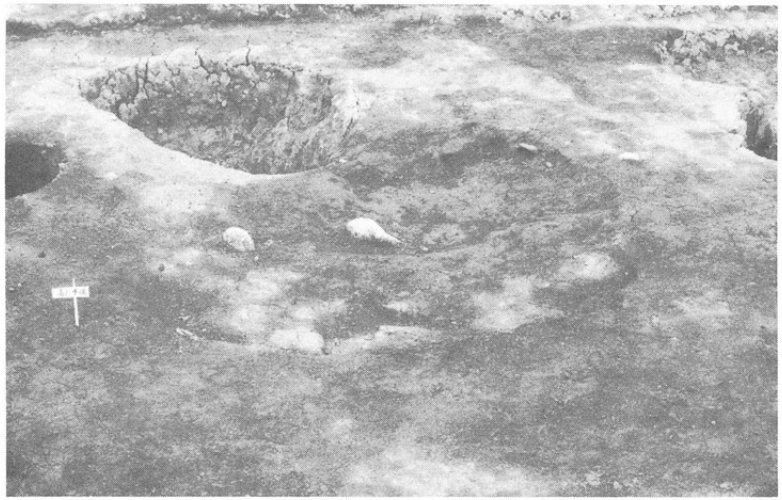
第 1 号住居址　炉



第 2 号住居址　炉

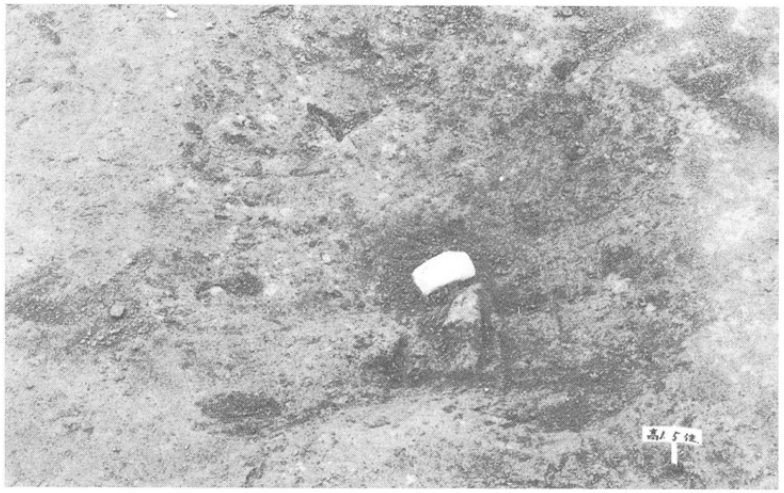


第 3 号住居址　炉（？）

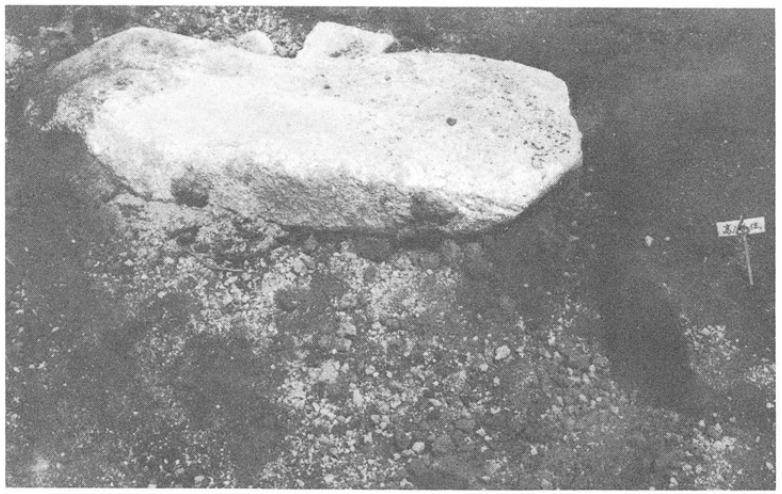


第 4 号住居址　中央土坑

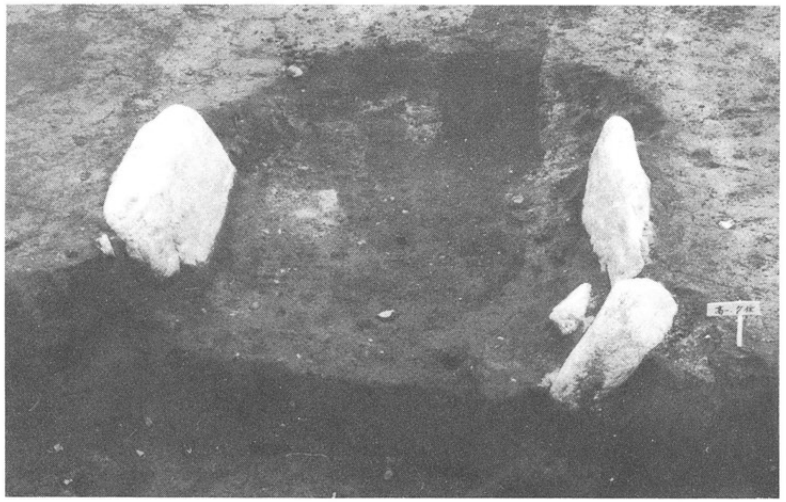
P 32　炉



第 5 号住居址　炉



第 6 号住居址　炉

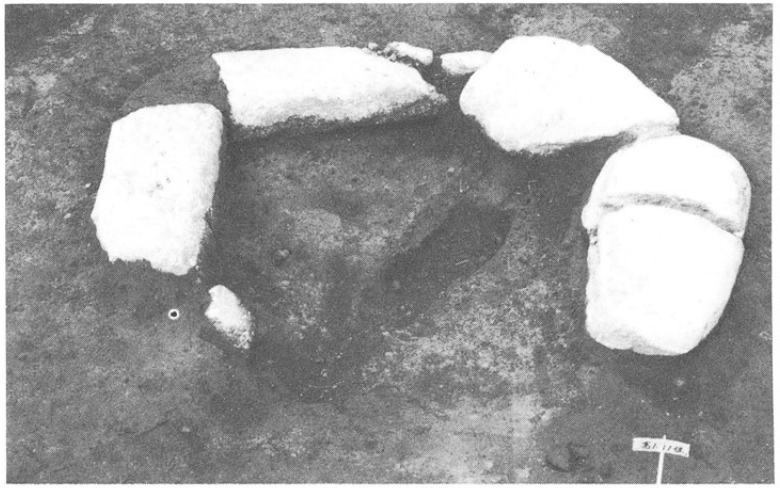


第 7 号住居址　炉

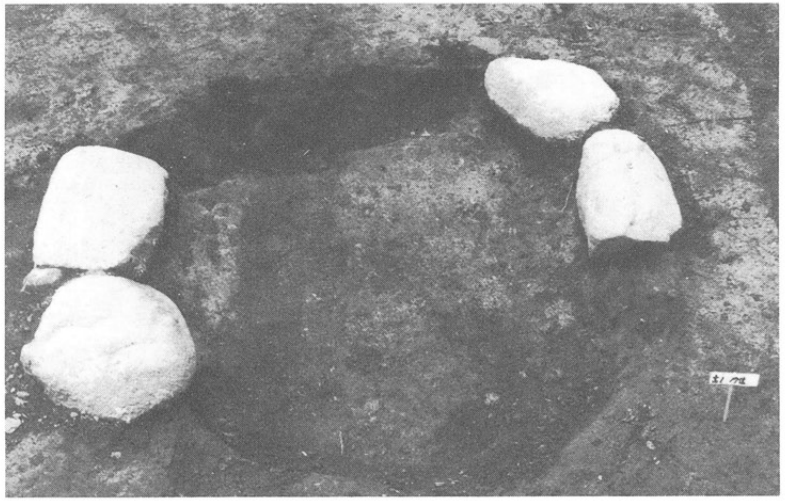
第 8 号住居址　炉

P 33　炉

第 9 号住居址　炉



第11号住居址　炉

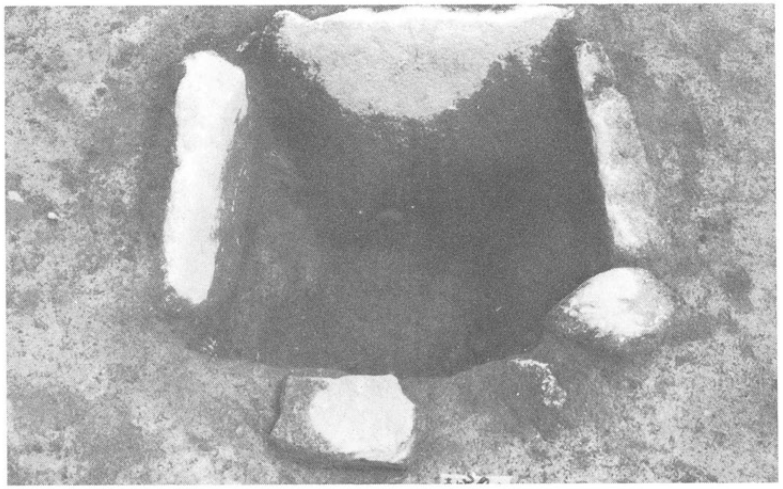


第17号住居址　炉

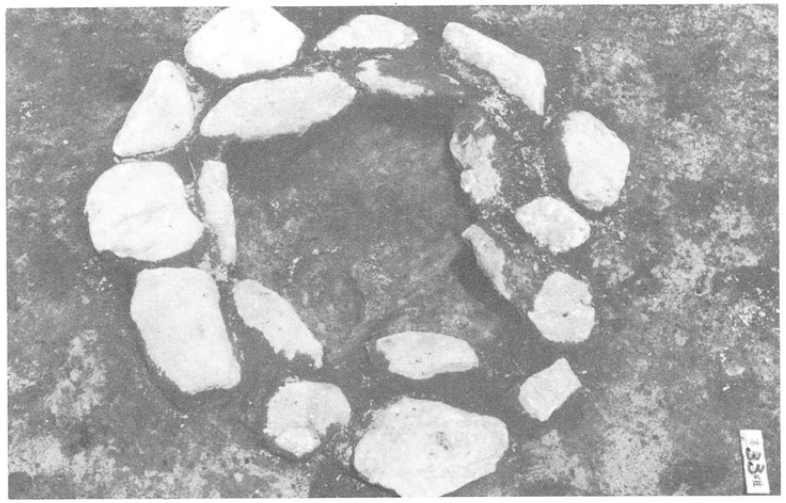
第22号住居址　炉

P 34　炉

第26号住居址　炉



第30号住居址　炉



第33号住居址　炉

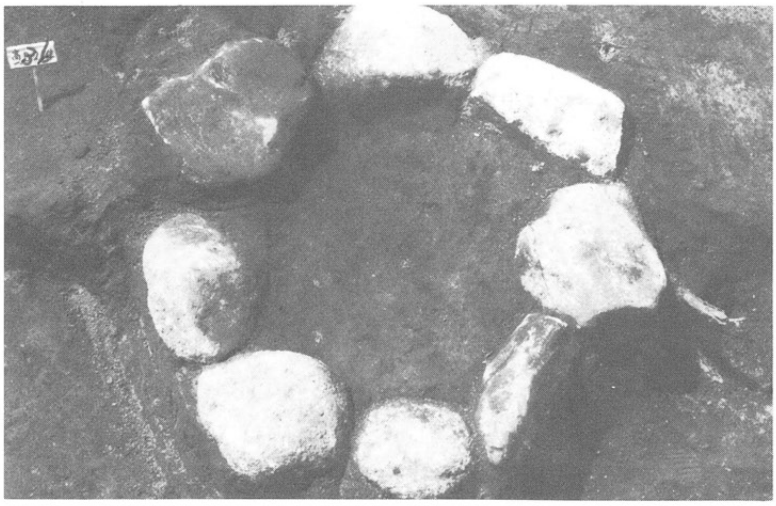
第35．38号住居址　炉

P 35　炉

品16個もあった。一番少ない住居址41号で打製1個，完形1個であった。打製石斧の合計644個内完形253個，平均1軒の所有数は約13個である。完形品の残存率は，約40%であるという数値を得た。このことは，生業との関係で重要な意味をもつものと思われる。磨製石斧125個内完形品が40個約30%，石匙68個内完形品33個50%，石錘10個内完形が6個，石鏃24個内完形が16個66%，磨石は30個内完形23個77%,横刃形石器590個内完形247個42%，石皿13個内完形4個30%，凹石25個内完形22個約90%，スクレーパー2全部完形，ドリル1，石棒5個で，完形2個，黒曜石片308個を確認することができた。

報告書の作成にあたり，多くの方より献身的な御支援をいただいたことに対して，心より感謝の意を表するものであります。

（団長　　友野良一）

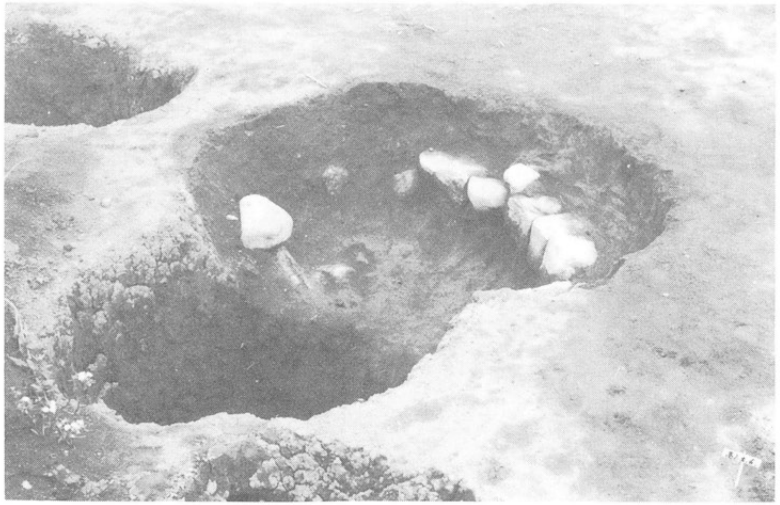


第36号住　　炉

第37号住　　炉

土　坑　4

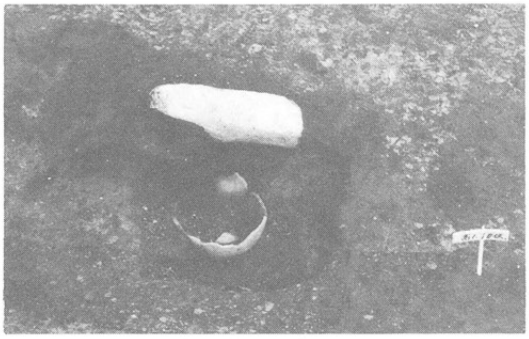
土　坑　21



土　坑　6

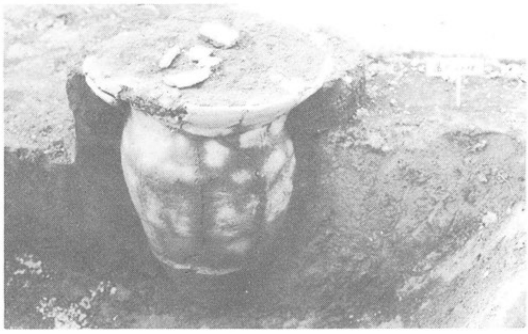
土　坑　13

P 37　土　坑



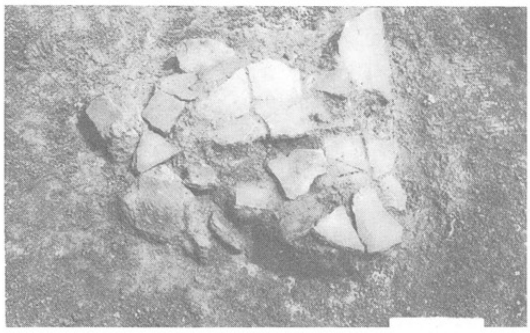
第10号住　出　土

第15号住　出土



第16号住　出　土

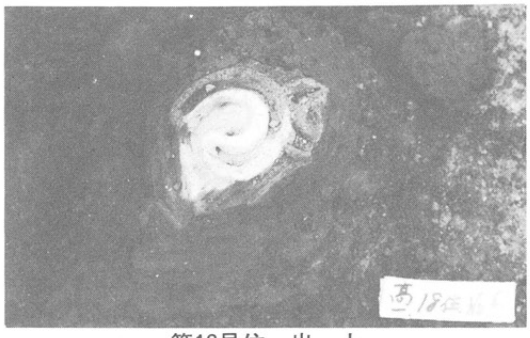
第17号住　出　土



第17号住　出　土

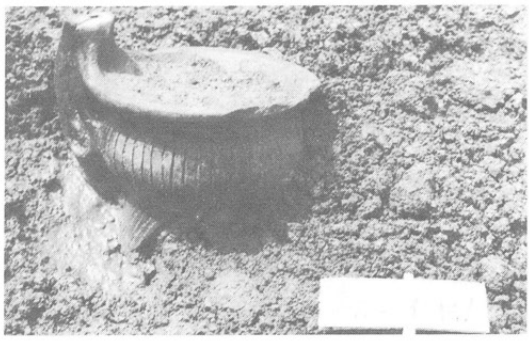
第17号住　出　土

第18号住　出　土

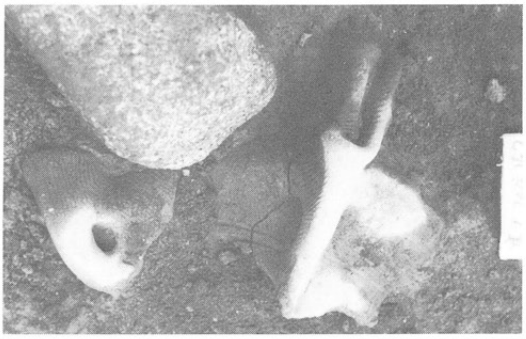


第18号住　出　土

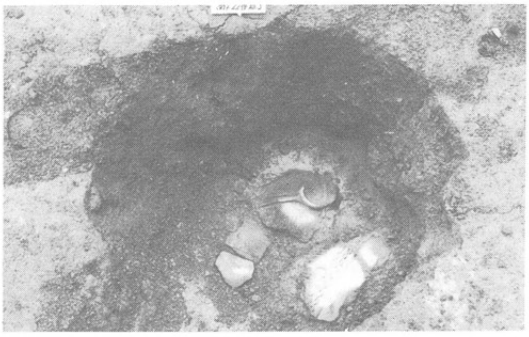
P 38　土器出土状況



第20号住　出　土

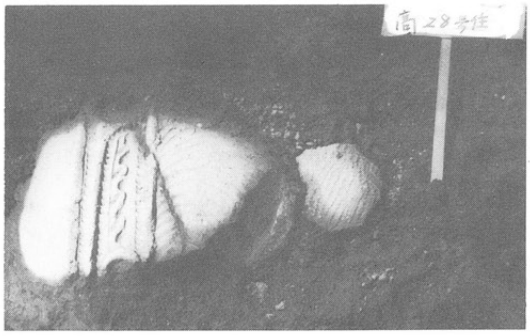


第20号住　出　土

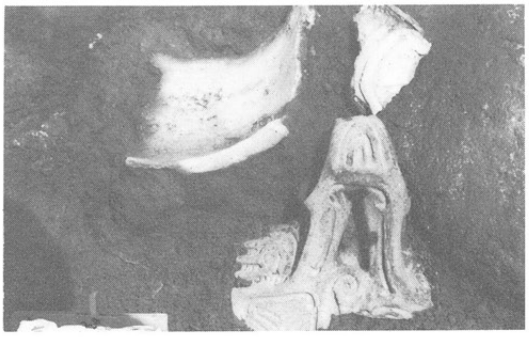


第22号住　出　土

第25号住　出　土

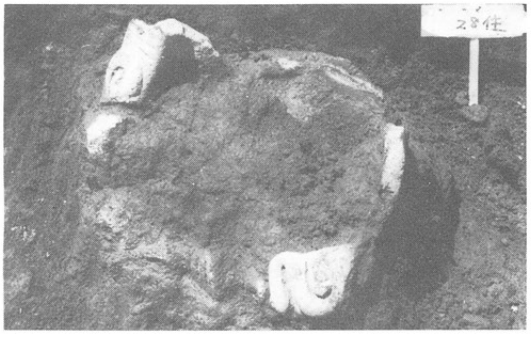


第28号住　出　土



第28号住　出　土

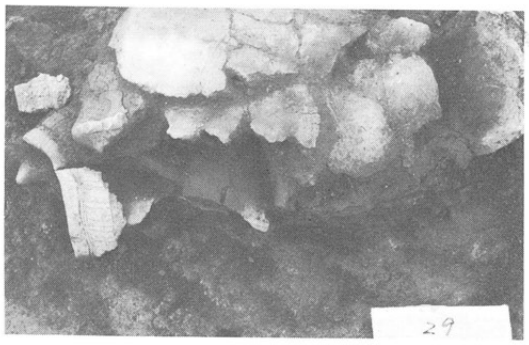
第28号住　出　土



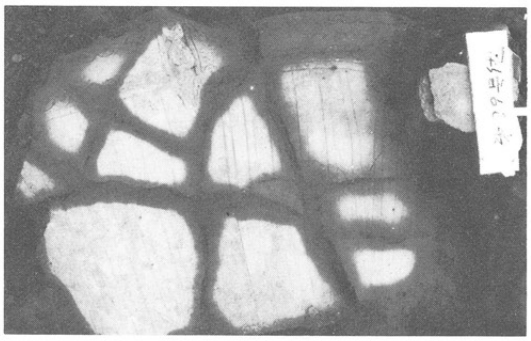
第28号住　出　土

P 39　土器出土状況

第29号住　出　土



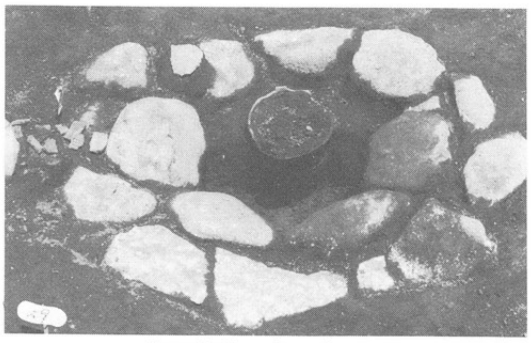
第29号住　出　土



第29号住　出　土

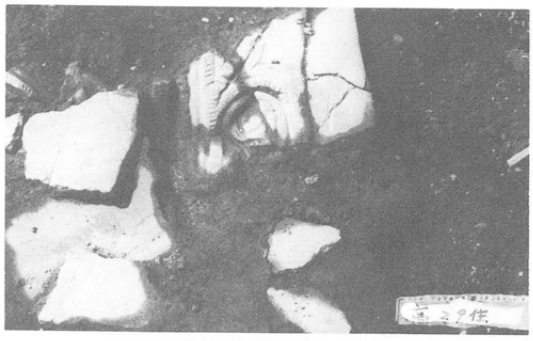
第29号住　出　土

第29号住　出　土



第29号住　出　土

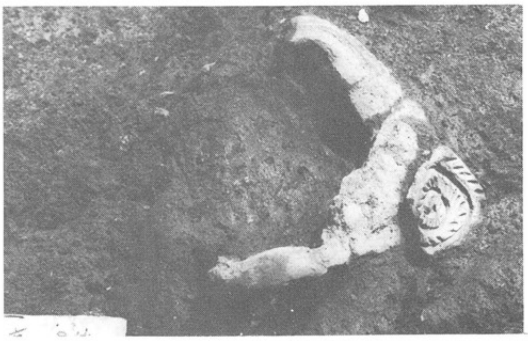
第29号住　出　土



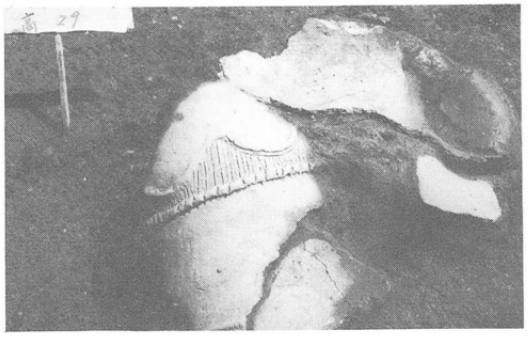
第29号住　出　土

P 40　土器出土状況

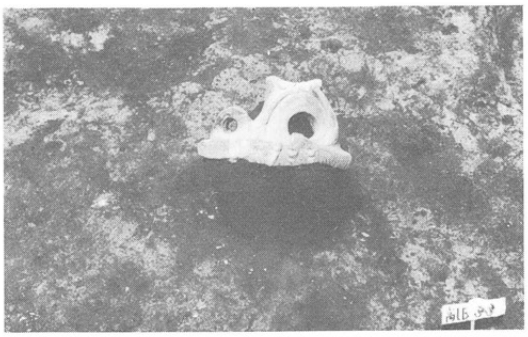
第29号住　出　土



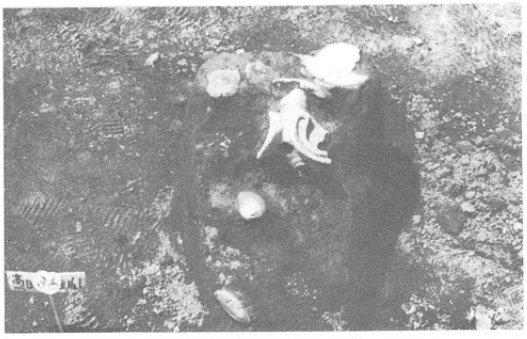
第29号住　出　土



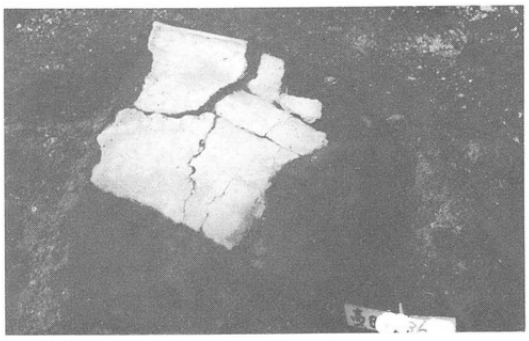
第29号住　出　土



第33号住　出　土

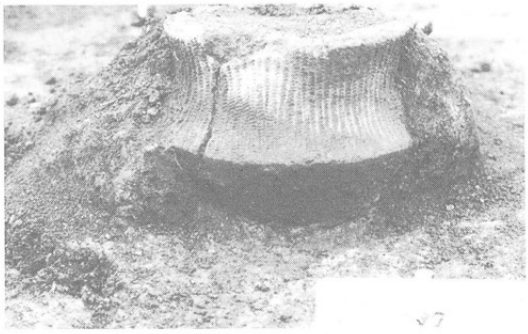


第36号住　出　土



第36号住　出　土

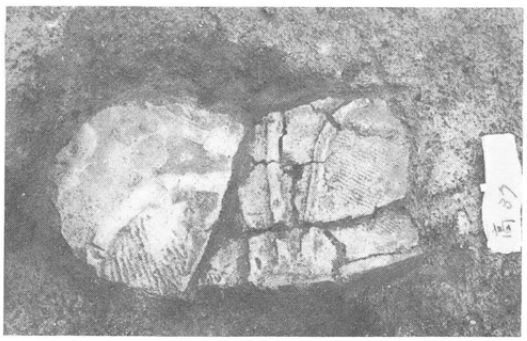
第37号住　出　土



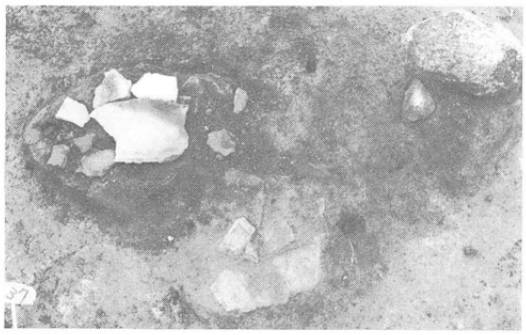
第37号住　出　土

P 41　土器出土状況

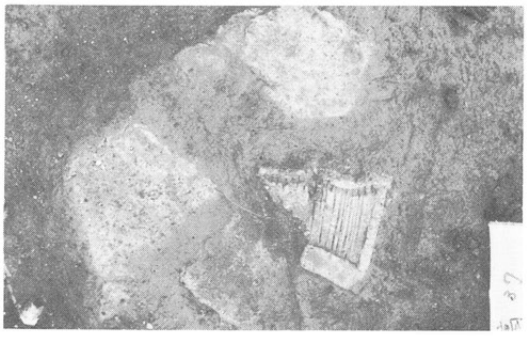
第37号住　出　土



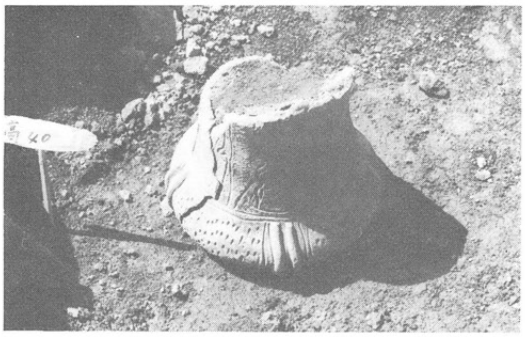
第37号住　出　土



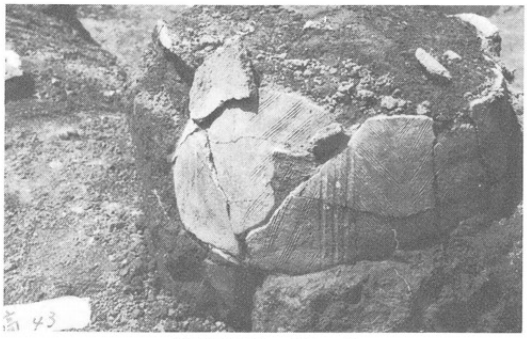
第37号住　出　土



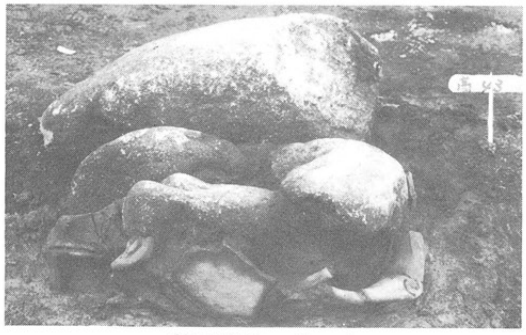
第37号住　出　土



第40号住　出　土



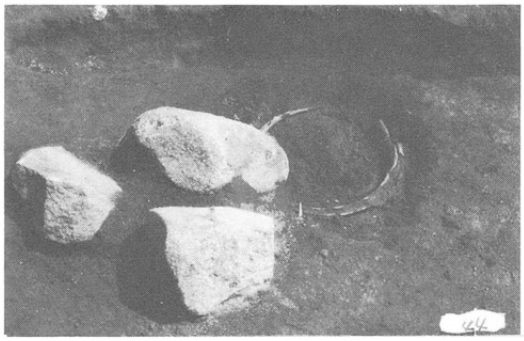
第43号住　出　土



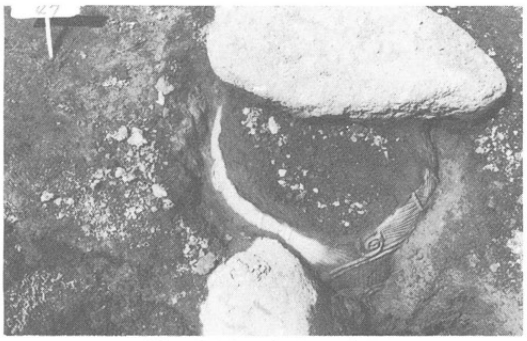
第43号住　出　土

第44号住　出　土

P 42　土器出土状況



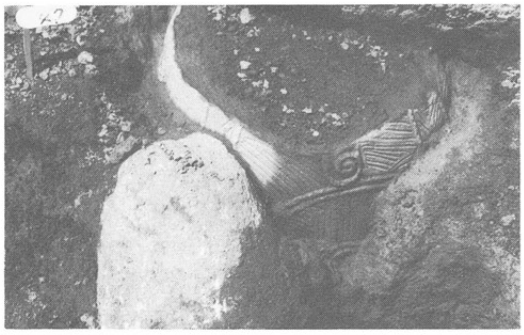
第44号住　出土埋甕



第47号住　出土埋甕(1)

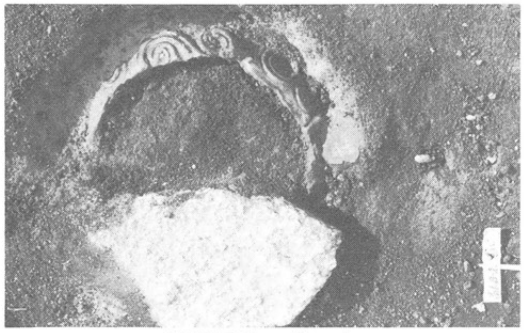
第47号住　出　土

第47号住　出　土



第47号住　出　土

第49号住　出　土



第50号住　出　土

第50号住　出　土

P 43　土器出土状況

25住

16住

28住

41住

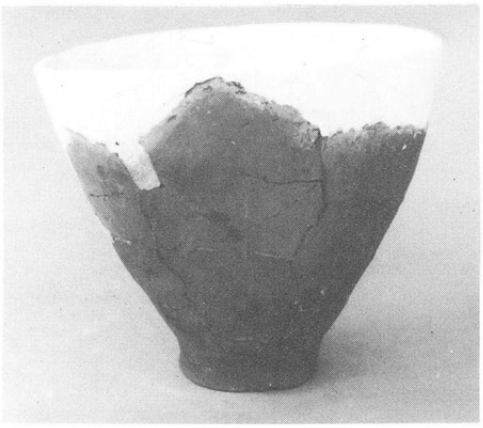
P 44　出土土器

47住

43住

47住

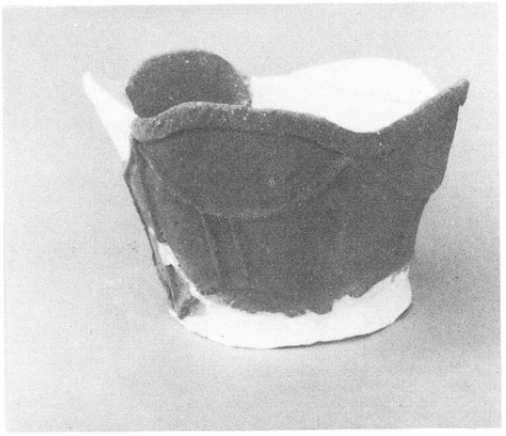
1住



46住

P45　出土土器

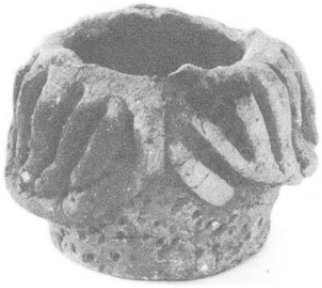
44住



37住

44住

16住



51住

47住

P 46　出土土器

15住

40住

33住

28住

37住

50住

P 47　出土土器

本郷原林遺跡

目　　次

目次，挿図目次，図版目次

第Ⅰ章　遺跡の概観 …… （2）
　第1節　位置 …… （2）
　第2節　地形・地質 …… （2）
第Ⅱ章　発掘調査の経過 …… （4）
　第1節　発掘調査に至るまで …… （4）
　第2節　調査日誌 …… （4）
第Ⅲ章　遺構 …… （5）
　　縄文時代の住居址 …… （6）
　　平安時代の住居址 …… （13）
第Ⅳ章　遺物 …… （14）
第Ⅴ章　まとめ …… （19）

挿　図　目　次

第1図　位置図（1：100000）
第2図　地形図（1：2000）
第3図　遺構配置図（1：200）
第4図　第1号住居址（1：60）
第5図　第2号住居址（1：80）
第6図　第3号住居址（1：80）
第7図　第4号住居址（1：60）
第8図　第5号住居址（1：60）
第9図　第6号住居址（1：60）
第10図　第7号住居址（1：60）
第11図　出土土器（1：4）
第12図　出土土器（1：4）
第13図　出土土器（1：3）
第14図　出土土器（1：2）

図　版　目　次

P1　遺跡航空写真
P2　遺跡航空写真
P3　遺跡航空写真
P4　遺跡全景
P5　トレンチ調査
P6　第1号住居址
P7　第2号住居址
P8　第3号住居址
P9　第4号住居址
P10　第5号住居址
P11　第6号住居址
P12　第7号住居址
P13　第8号住居址
P14　第9号住居址土器出土状況
P15　第11号住居址土器出土状況
P16　土器出土状況
P17　土器出土状況
P18　土器出土状況

第Ⅰ章　遺跡の概観

第1節　位　置

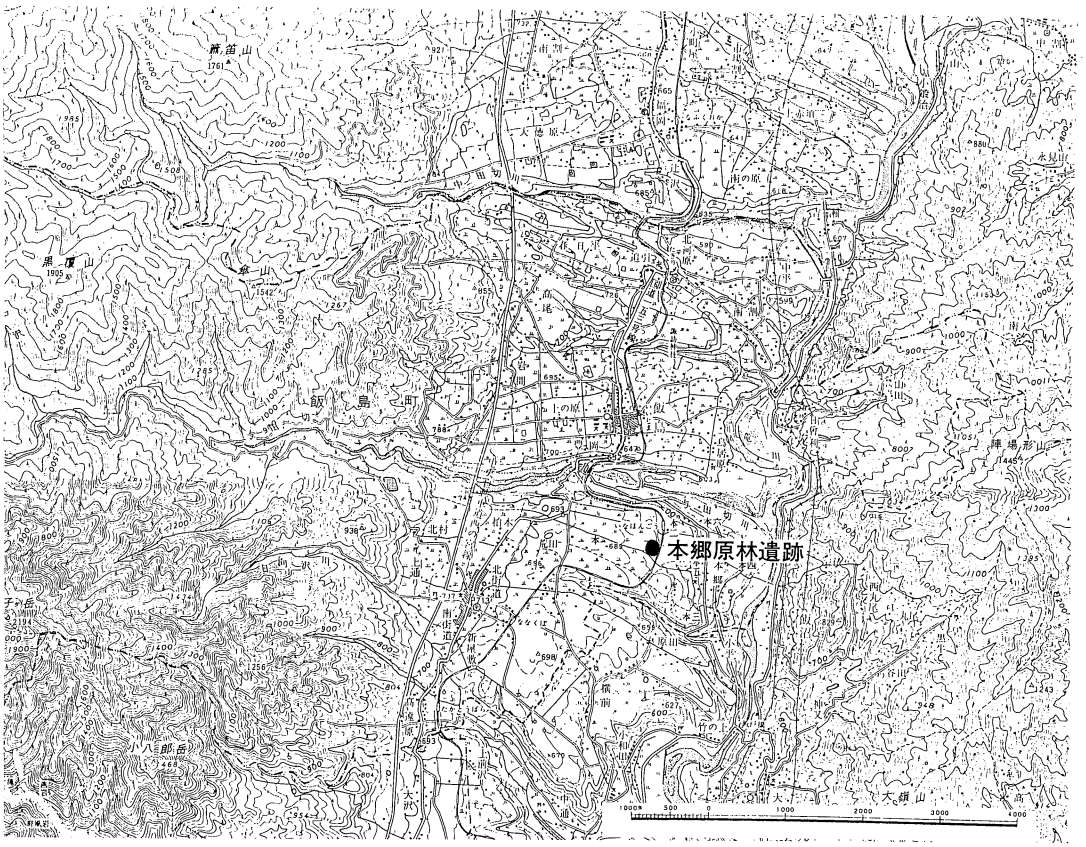
本郷原林遺跡は，長野県上伊那郡飯島町大字本郷1960番地の4に所在する。

遺跡は，天竜川の河岸段丘上に位置する。遺跡に至るには，国鉄飯田線伊那本郷駅で下車し，南へ約500ｍほど歩いたところである。遺跡の中心で標高659ｍをはかる。

第2節　地形・地質

当遺跡は，中央アルプスより流れる与田切川により形成された扇状地の扇端部に位置する。遺跡の東側は天竜川の河岸段丘となり，南側は東西に走る窪地となっている。

調査地区の土層については，礫層の基盤の上にローム層，黒褐色土層，耕作土層が堆積している。



第1図　位置図（1：100,000）

第2図　地形図（1：2000）

第Ⅱ章　発掘調査の経過

第１節　発掘調査に至るまで

県営ほ場整備事業七久保地区第26工区にある本郷原林遺跡の埋蔵文化財緊急発掘調査を飯島町では，飯島町遺跡調査会に委託し実施した。

〔飯島町遺跡調査会〕

会　長	熊崎安二	（教育長）
理　事	片桐　修	（飯島町文化財調査委員）
	宮下静男	（〃）
	北原健三	（〃）
	桃沢匡行	（〃）
	松崎研定	（〃）
	中島淑雄	（〃）
	片桐佳彦	（〃）
	小林嘉男	（〃）
監　事	池上　勇	（飯島町監査委員）
	中野武司	（〃）
幹　事	吉沢内次	（飯島町教育委員会教育次長）
	米沢長実	（〃　係長）
	伊藤　修	（〃　主事）
	宮下淑江	（〃　主事）

〔発掘調査団〕

団　長	友野良一	（日本考古学協会員）
調査員	伊藤　修	（飯島町教育委員会主事）
〃	和田武夫	（長野県考古学会員）
調査補助員	富永芳一	（飯島町）

第２節　調査日誌

本郷原林遺跡の調査における主だった項目を拾ってみた。

○調査は，昭和55年８月１日より着手し，昭和56年３月20日に完了した。

○調査は，調査地区全体に２ｍ四方のグリットを設定し行なった。

○遺物について，主要なものは平面図に出土点，出土高等を記録した。

○遺構については，平面図の他にできる限り遺構断面の土層についても記録を行なった。

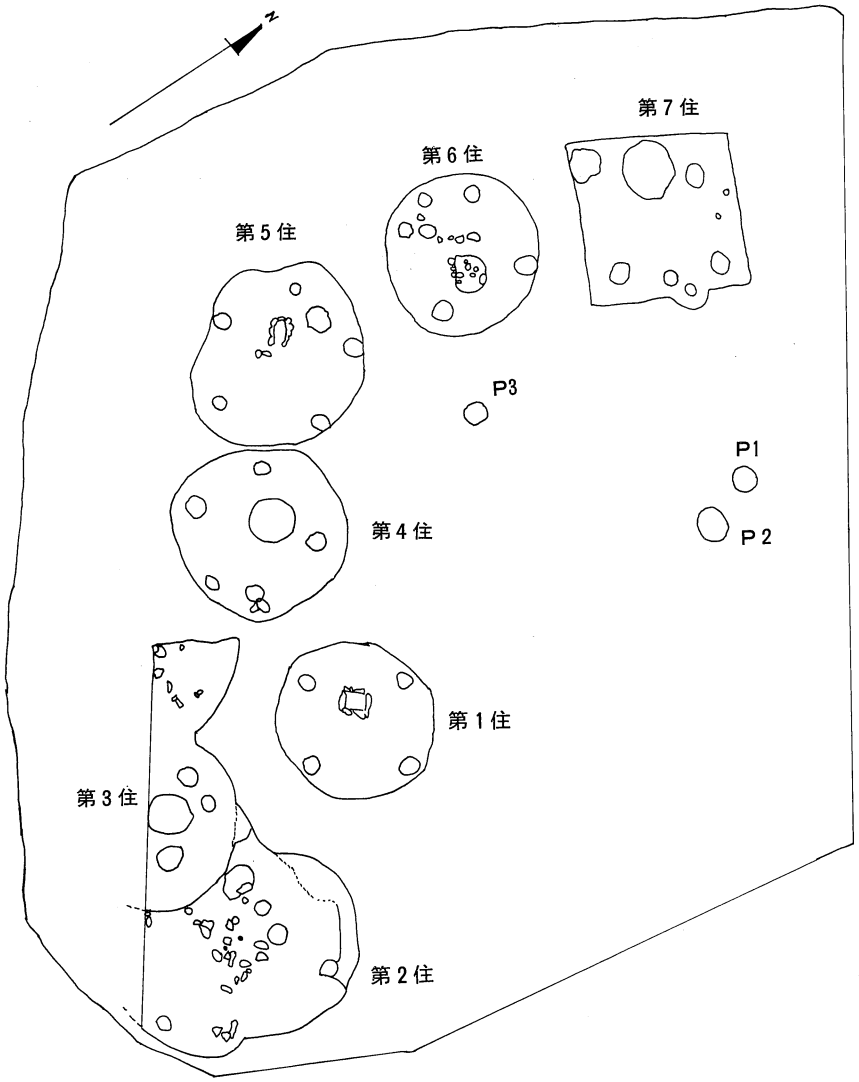
第Ⅲ章　遺　構

今回は遺跡の東側を中心に調査を行なった。その結果，縄文時代中期の住居址12軒を確認した。このうち住居址の全容を明らかにできたのは７軒である。住居址は，さらに付近一帯，東側にある丸山遺跡まで分布していると思われる。

住居址は，東西に走る舌状台地の南面に直列にみられ，その内側の台地中央部は空白部分となっている。

しかし，今回は部分的な調査であり，また開田により相当遺構が破壊されていると考えられ集落の形態を明らかにするまでにはいたらなかった。

また当地区の西約 120 m の水田から平安時代の住居址が１軒確認された。

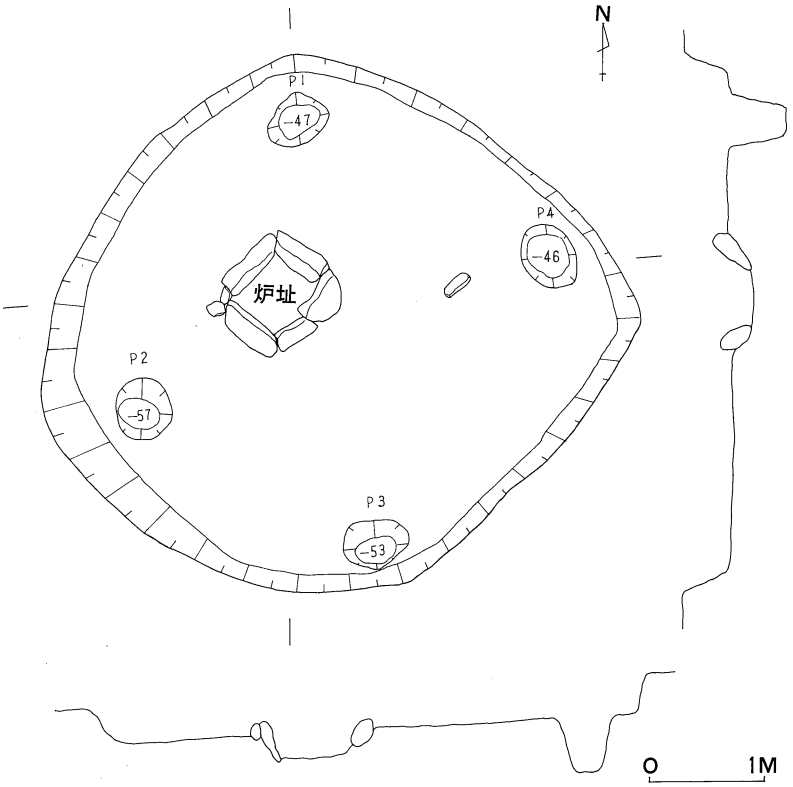


第３図　遺構配置図（１：200）

縄文時代の住居址

第１号住居址

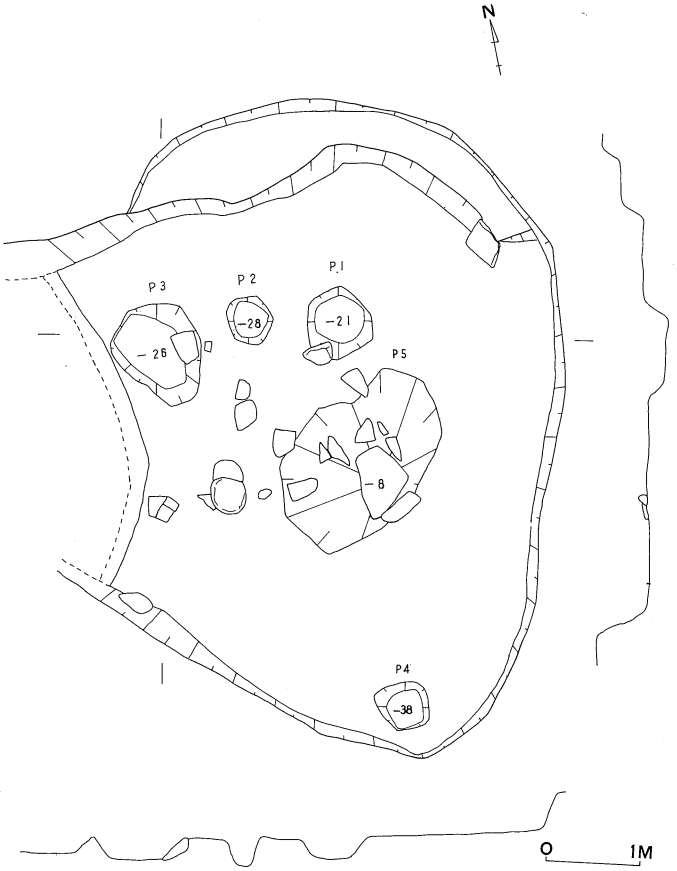
本址位置	調査地区中央やや南東				
プラン	隅丸方形	規模	南北－4.6 m 東西－5.0 m	主軸方向	東－西
壁高	南40cm　北40cm 東35cm　西30cm	壁の状態	直に近くしっかりしている		
床	ローム層を堀り込んで造られている。 平担で硬い。				
周溝	認められない。				
住穴	4箇所	主柱穴	P_1 ～P_4		
炉の位置	中央やや西	形式	石囲炉	規模	100 cm×85cm
土坑壁外施設 その他	認められない。				
遺物出土状況	遺物の出土多い。				



第４図　第１号住居址（１：60）

第２号住居址

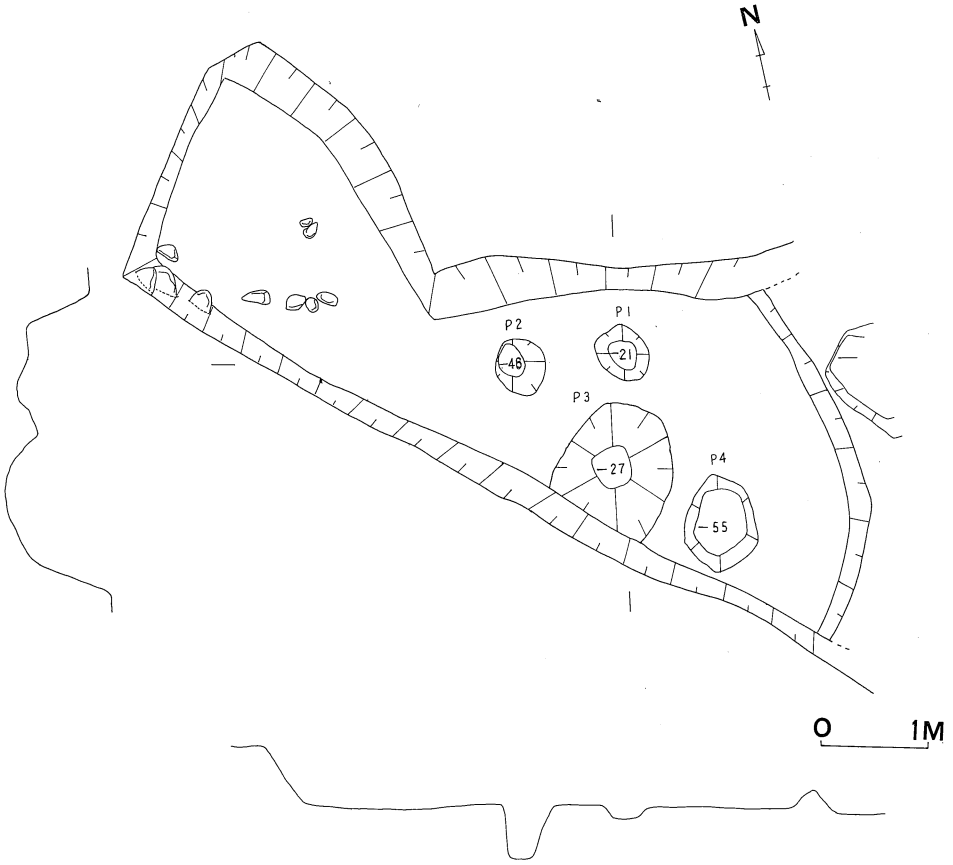
本址位置	調査地区南東				
プラン	不整形	規模	南北－ 6.5 m 東西－ m	主軸方向	
壁高	南55cm 北50cm 東40cm 西 cm		壁の状態	やや傾斜がみられる。	
床	ローム層を堀り込んで造られている。 平担であるが比較的やわらかい。				
周溝	認められない。				
柱穴	４箇所	主柱穴	Ｐ４		
炉の位置	中央やや東	形式	石囲炉と思われる	規模	200 cm × 140 cm
土坑壁外施設 その他	住居址の北側に段差がみられる。				
遺物出土状況	遺物の出土多い。器台出土。				



第５図　第２号住居址（１：80）

第３号住居址

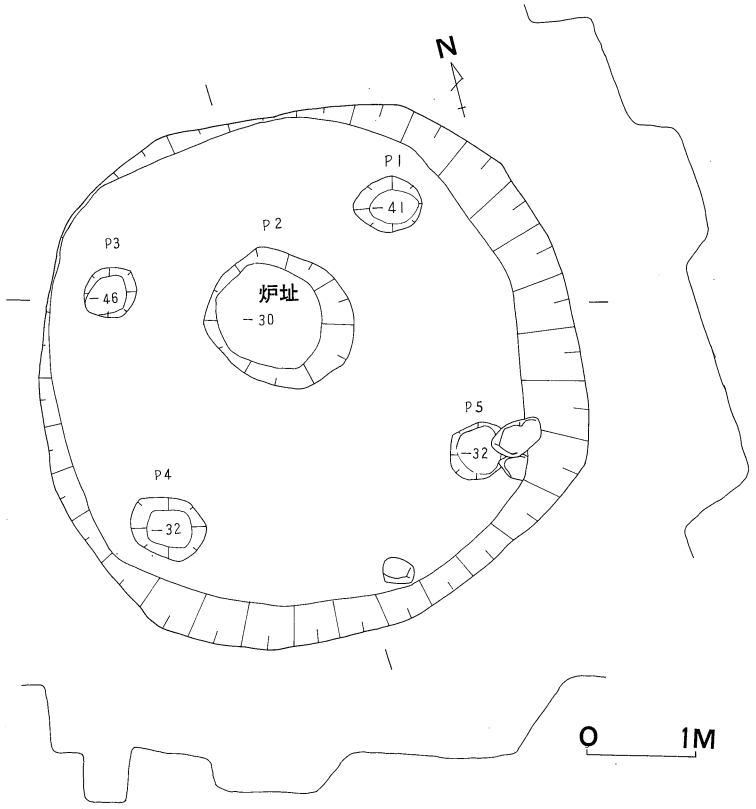
本址位置	調査地区南端				
プラン	円形？	規模	南北－　m 東西－　m	主軸方向	
壁面	南　cm　北　cm 東　cm　西　cm		壁の状態	やや傾斜が見られる。	
床	ローム層を堀り込んで造られている。 平担であるがやわらかい。				
周溝	認められない。				
柱穴	３箇所	主柱穴			
炉の位置		形式		規模	m×　m
土坑壁外施設 その他	住居址南側半分は，開田により破壊されており確認できない。				
遺物出土状況	遺物の出土多い。小型土器出土。				



第６図　第３号住居址（１：80）

第４号住居址

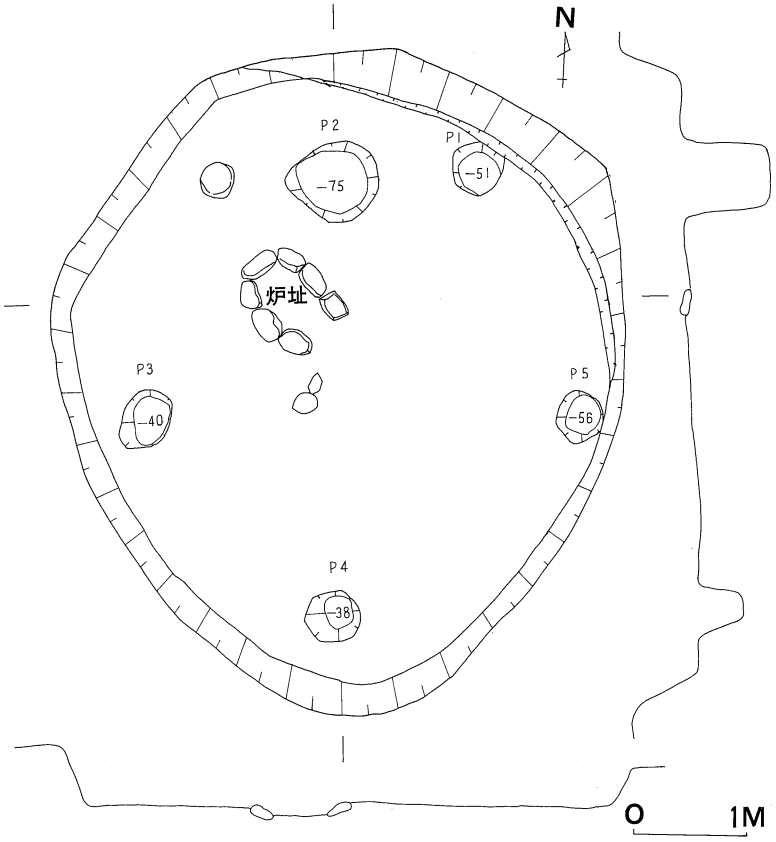
本址位置	調査地区中央南				
プラン	円形	規模	南北－4.8 m 東西－5.0 m	主軸方向	南－北
壁高	南75cm 北55cm 東80cm 西60cm		壁の状態	やゝ傾斜がみられる。 壁はしっかりしている。	
床	ローム層を堀り込んで造られている。 平担で硬い。				
周溝	認められない。				
柱穴	４箇所	主柱穴	P_1，P_3，P_4，P_5		
炉の位置	中央やゝ北	形式		規模	140 cm × 120 cm
土坑壁外施設 その他					
遺物出土状況	遺物の出土多い。				



第７図　第４号住居址（１：60）

第５号住居址

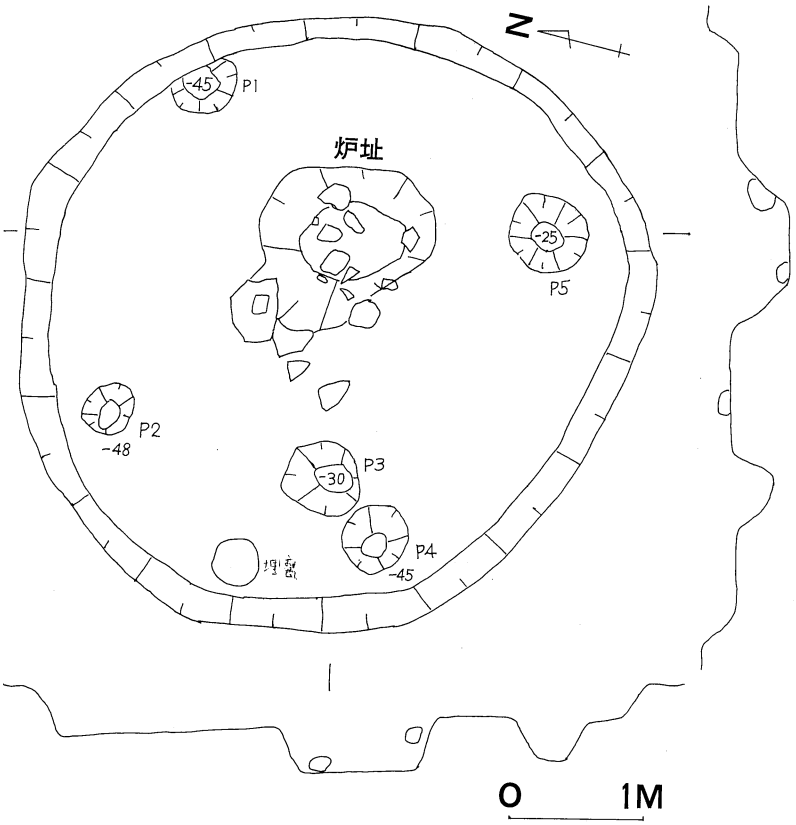
本址位置	調査地区西側，第４号住居址西				
プラン	楕円形	規模	南北－5.9 m 東西－5.0 m	主軸方向	南東－北西
壁高	南70cm　北55cm 東35cm　西55cm	壁の状態	直に近くしっかりしている。		
床	ローム層を堀り込んで造られている。 平担で硬い。				
周溝	住居址北東側にみられる。				
柱穴	５箇所	主柱穴	Ｐ１，Ｐ３，Ｐ４，Ｐ５		
炉の位置	中央やゝ北西	形式	石囲炉	規模	100 cm×80cm
土坑壁外施設 その他					
遺物出土状況	覆土下層，床面より遺物の出土多い。小型土器出土。				



第８図　第５号住居址（１：60）

第６号住居址

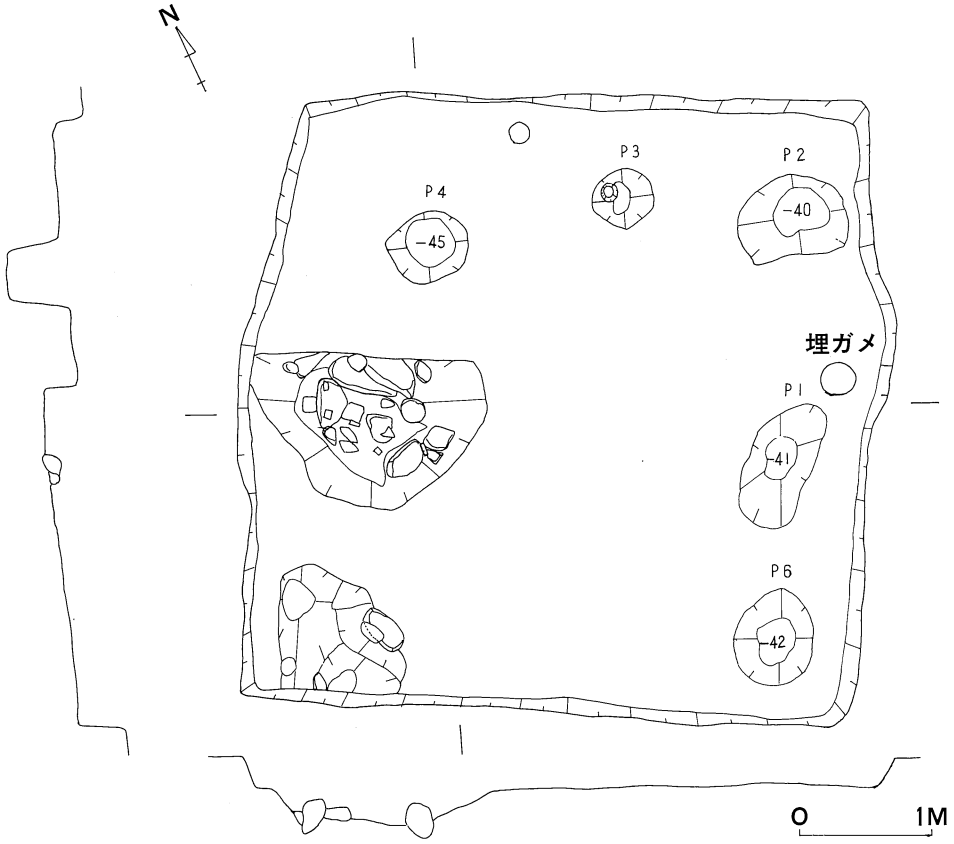
本址位置	調査地区西側，第５号住居址北				
プラン	円形	規模	南北－4.6 m 東西－4.5 m	主軸方向	東－西
壁高	南25cm　北40cm 東25cm　西25cm		壁の状態	やや傾斜がみられる。	
床	ローム層を堀り込んで造られている。 平担で硬い。				
周溝	認められない。				
柱穴	５箇所	主柱穴	P_1 ～P_4		
炉の位置	中央やや東	形式	石囲炉	規模	140cm×100cm
土坑壁外施設 その他					
遺物出土状況	住居址西壁付近に埋甕がみられる。遺物の出土多い。				



第９図　第６号住居址（１：60）

第７号住居址

本址位置	調査地区北側				
プラン	方形	規模	南北－４.７ｍ 東西－４.７ｍ	主軸方向	東－西
壁高	南35cm　北25cm 東25cm　西25cm		壁の状態	直に近い 開田により上部は破壊されている。	
床	ローム層を堀り込んで造られている。 平担で硬い。中央部は浅い凹となっている。				
周溝	認められない。				
柱穴	５箇所	主柱穴	Ｐ２，Ｐ４，Ｐ６		
炉の位置	中央西側	形式	石囲炉と思われる	規模	180 cm × 110 cm
土坑壁外施設 その他					
遺物出土状況	住居址東側壁付近に埋甕がみられる。遺物出土多い。				



第10図　第７号住居址（１：60）

第9，10，11，12，13号住居址

調査地区北側の3本のトレンチ溝により確認された。出土遺物よりみて縄文時代中期の住居址である。

平安時代の住居址

第8号住居址

本址位置	調査地区西側，縄文時代の集落より西へ約120 m				
プラン	方形	規模	南北－ m 東西－ m	主軸方向	
壁高	南 cm 北 cm 東 cm 西 cm		壁の状態	直に近い	
床	ローム層を堀り込んで造られている。 平担でやわらかい。中央付近に土坑が多い。				
周溝	認められない。				
柱穴	9箇所	主柱穴			
カマドの位置	西壁中央	形式	石組粘土カマド	規模	m× m
土坑壁外施設 その他					
遺物出土状況	土師器，灰釉陶器出土。遺物の出土は，カマド付近に多い。				

第Ⅳ章　遺　物

(1)土器

今回の調査で，多くの土器，石器が出土した。土器の多くは，開田当時に遺跡が破壊されたため，完形のものは少なく，小破片である。いずれも曽利系，あるいは加曽利系の土器であり，縄文時代中期末葉のものである。住居址別にみると下記のとおりとなる。第13図№4は，第2号住居址覆土より出土した器台であり，ほぼ完形のものである。黄褐色を呈し無文である。台部上面は，水平で良く調整されている。また，第6住居址からは台付土器の底部が出土し，第7住居址からは，台付土器と思われる土器が出土した。第3号・第5号住居址からは小型（ミニチュア）土器が出土している。

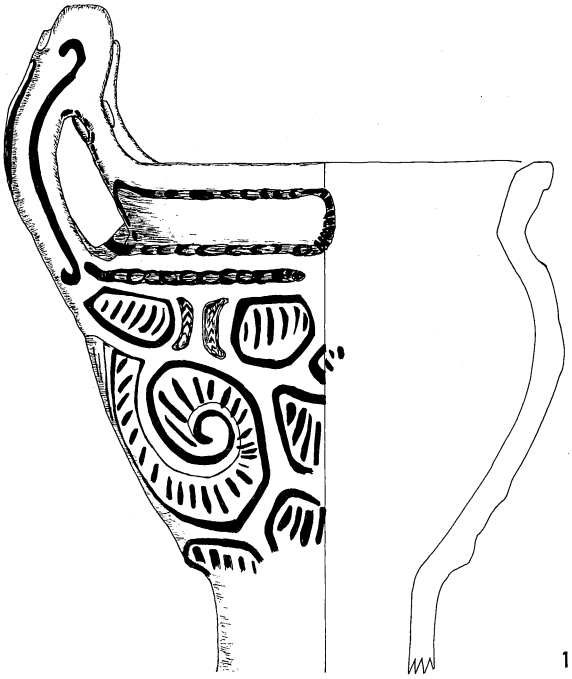
トレンチによる調査が行なわれた第9～13号住居址からも多くの土器が出土した。第12図№2は，今回の出土の土器の中でも，最も大型のものである。この他有孔鍔付土器の破片がみられた。

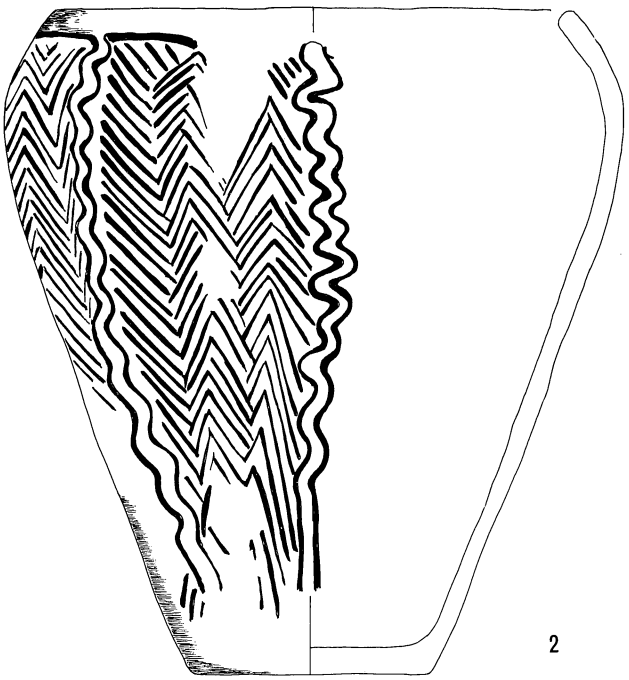
調査地区の西方からは，平安時代の住居址が1軒検出したが，他には，平安時代の遺構遺物はみられなかった。

第1住	縄文中期	曽利Ⅱ式に比定される。
第2住	〃	曽利Ⅱ式に比定される。
第3住	〃	加曽利Ⅱ～Ⅲ式に比定される。
第4住	〃	〃　〃
5住	〃	曽利Ⅱ～Ⅲ式，大形の甕は曽利Ⅰ式。
6住	〃	曽利Ⅱ式の台付土器底部が出土した。
7住	〃	曽利Ⅲ式に比定される。
8住	〃	平安時代の住居址，底部系切底内黒碗 灰釉陶器，10世紀と考えられる。

(2)石器

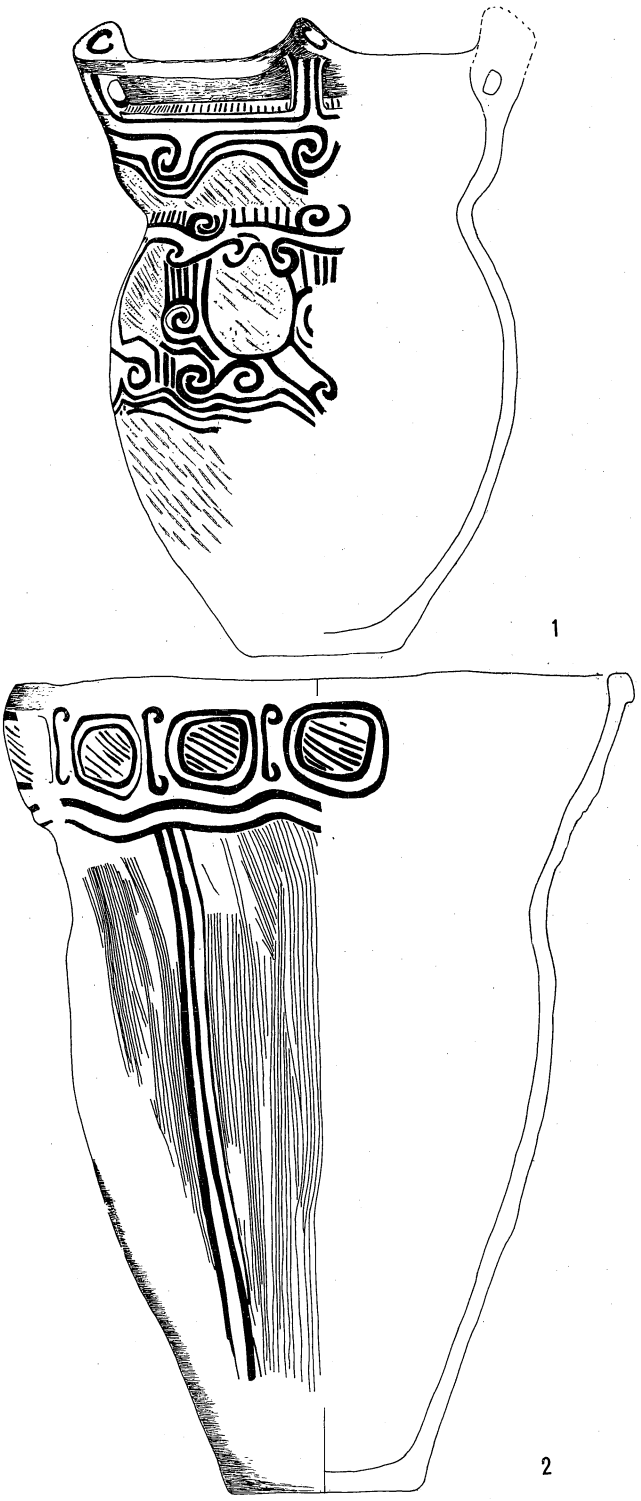
土器に比べ石器の出土は少なかった。打製石斧，横刃形石器が中心で，他に磨製石斧，石匙，黒曜石片等がみられた。完形の石器は少なく，破片が大部分である。





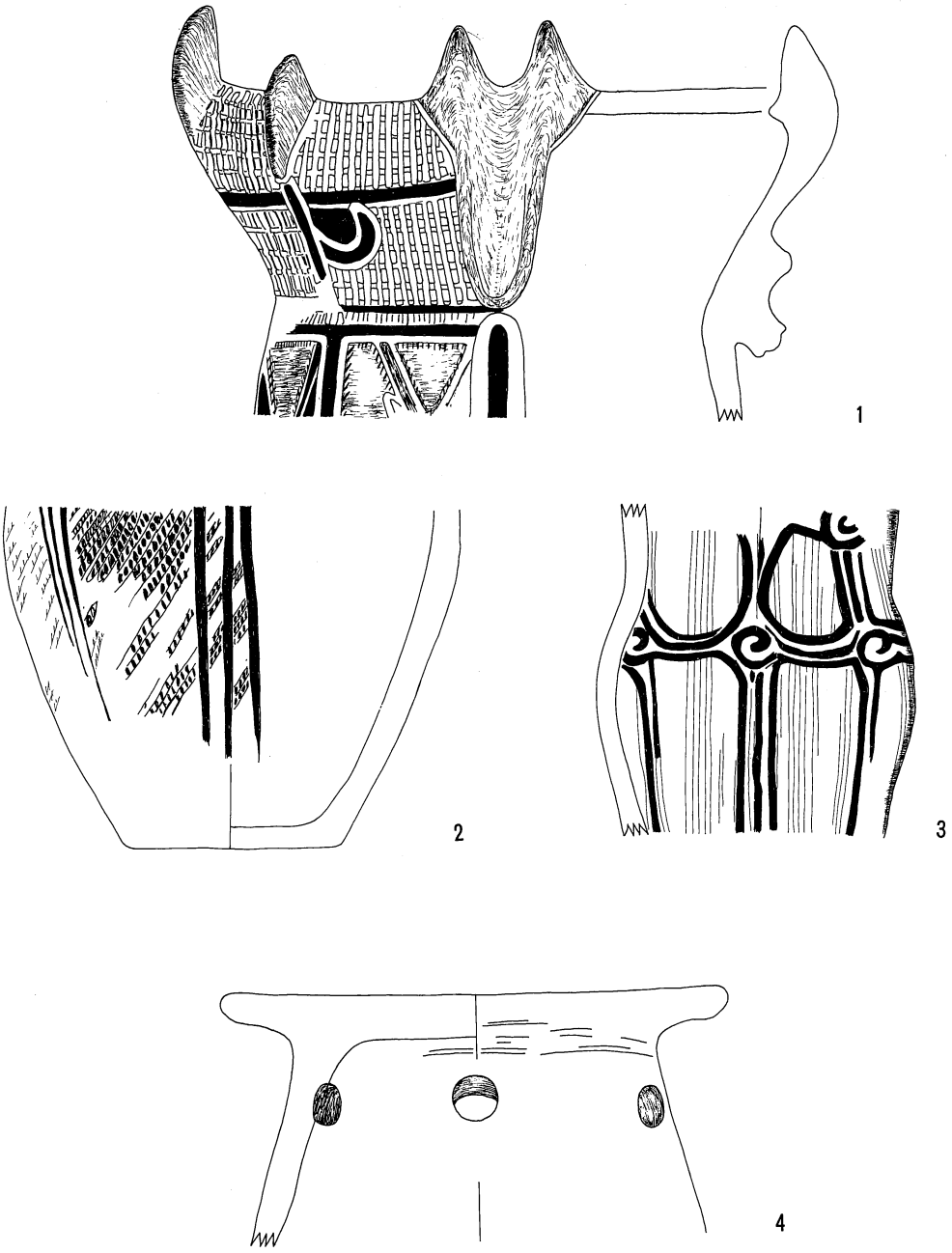
第11図　出土土器（1 ： 4）

1（第7住No.7） 2（第7住No.1）



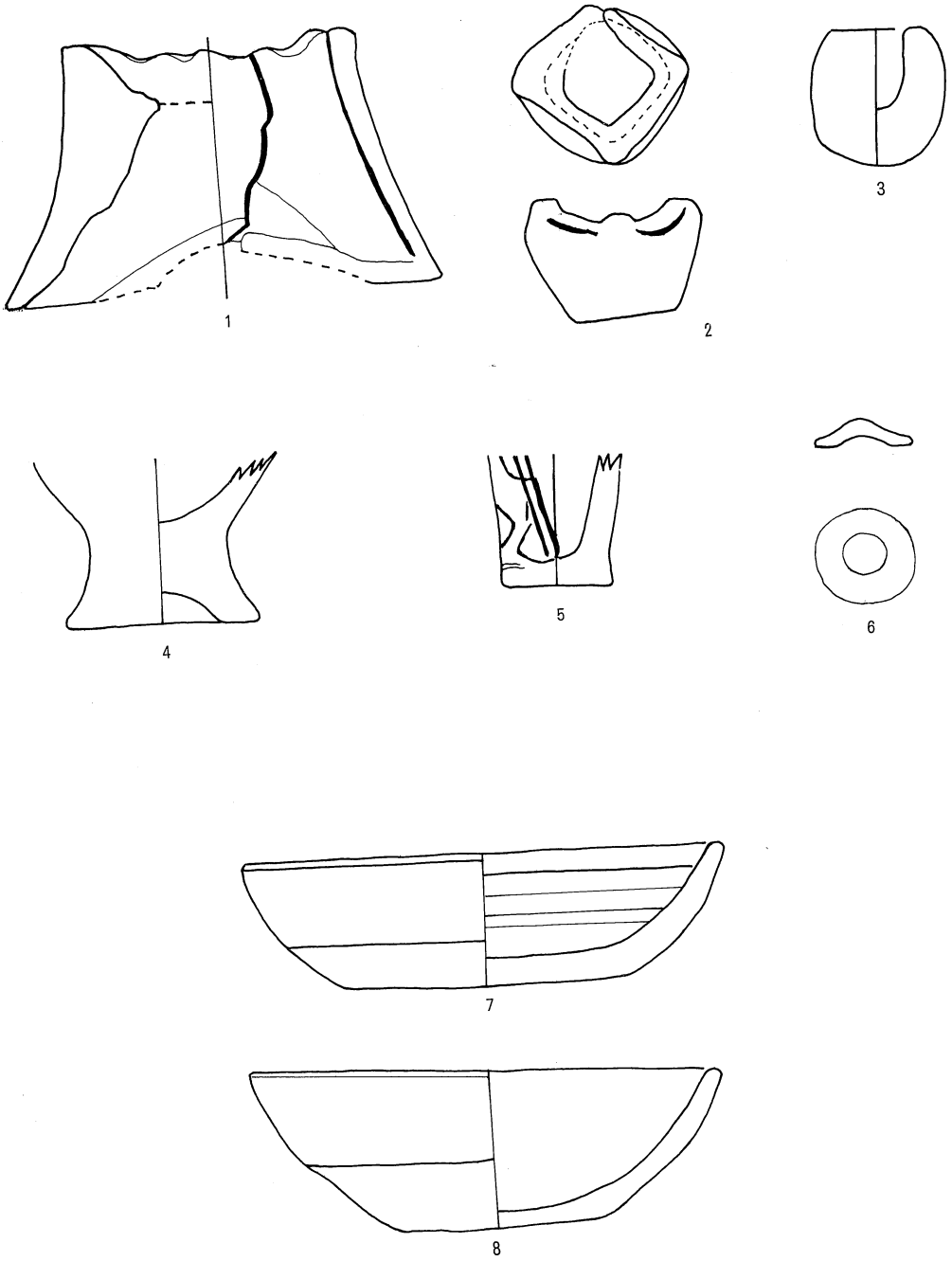
第12図　出土土器（1：4）

1（第11住No.1）・2（第9住）



第13図　出土土器（1 ： 3）

1（第５住）2・3（第13住）4（第２住）



第14図　出土土器（1：2）

1（第6住）2・3（第3住）4・5（第5住）7・8（第8住）

第Ⅴ章　まとめ

当該遺跡は，飯田線伊那本郷駅の南西に位置し，十王堂沢の上流，左岸段丘上にある。遺跡の南側には堤の窪と呼ばれる凹地があり，ここを中心に南側，東側にも縄文時代中期の集落が多くみられる。本遺跡は，このような遺跡群の中にある。

遺構は縄文時代中期住居址12軒，平安時代の住居址１軒が確認された。住居址は東西に長い丘陵であるため，南傾斜面に多く分布していると考えられ，更に東側の丸山地籍に及ぶものと思われる。出土遺物よりみて曽利系と加曽利Ｅ系の土器を出土する縄文中期末葉の住居址である。

本郷北羽場遺跡については，本郷中原遺跡の調査に先立ちグリット（2ｍ×2ｍ）調査を行なった。調査の結果，縄文時代中期の土器片及び中世の陶器片が出土したが，遺構は確認されなかった。

報告書の刊行にあたり，多くの方より献身的な御支援をいただいたことに対して心より感謝の意を表するものであります。

（団長　　友野良一）

（付　記）

本郷北羽場遺跡調査報告

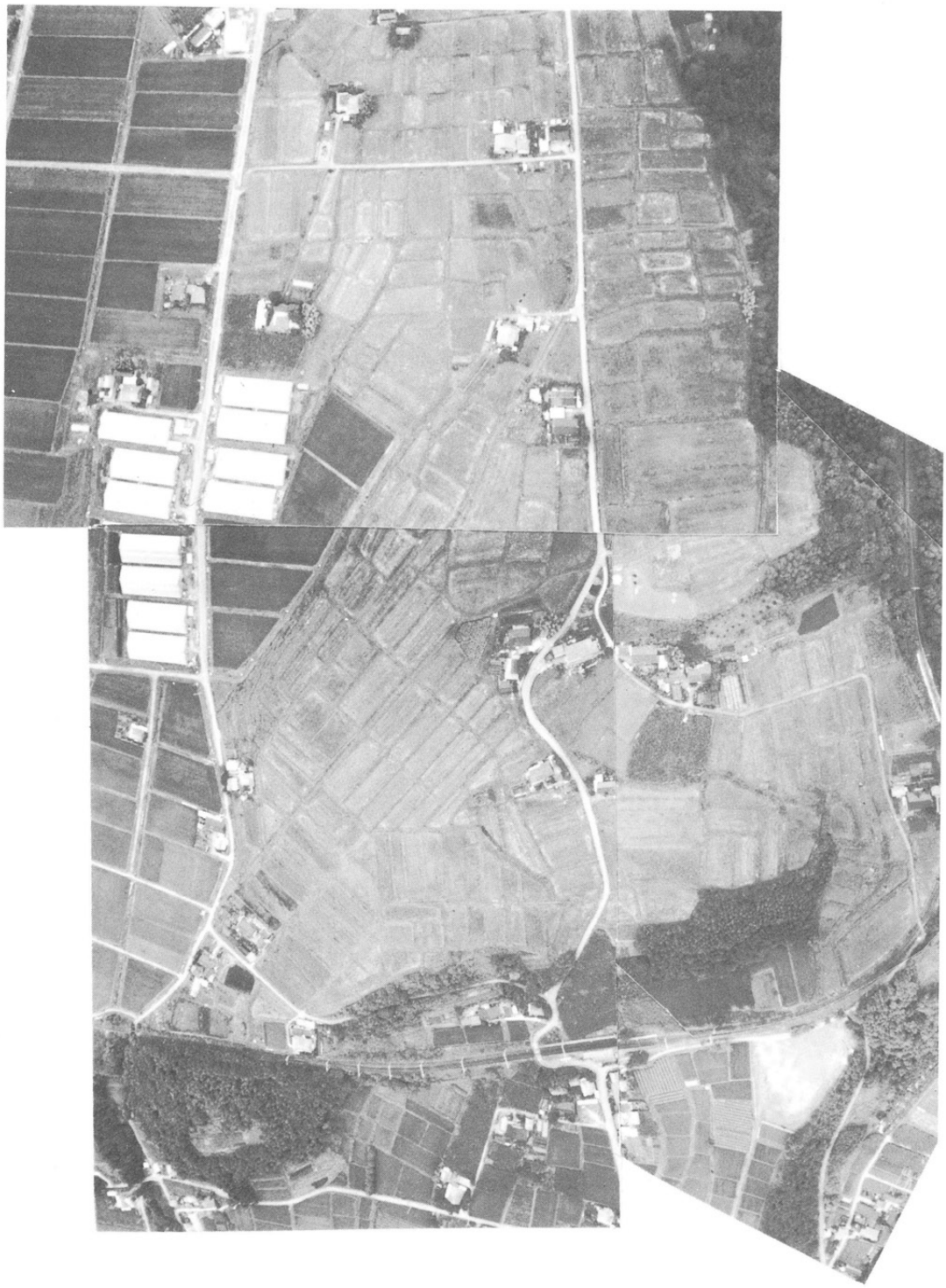
① 調査場所　　飯島町大字本郷２６４番地の１

② 調査方法　　グリット調査（２ｍ×２ｍ）40箇所

③ 調査内容　　（遺　構）　確認されない。

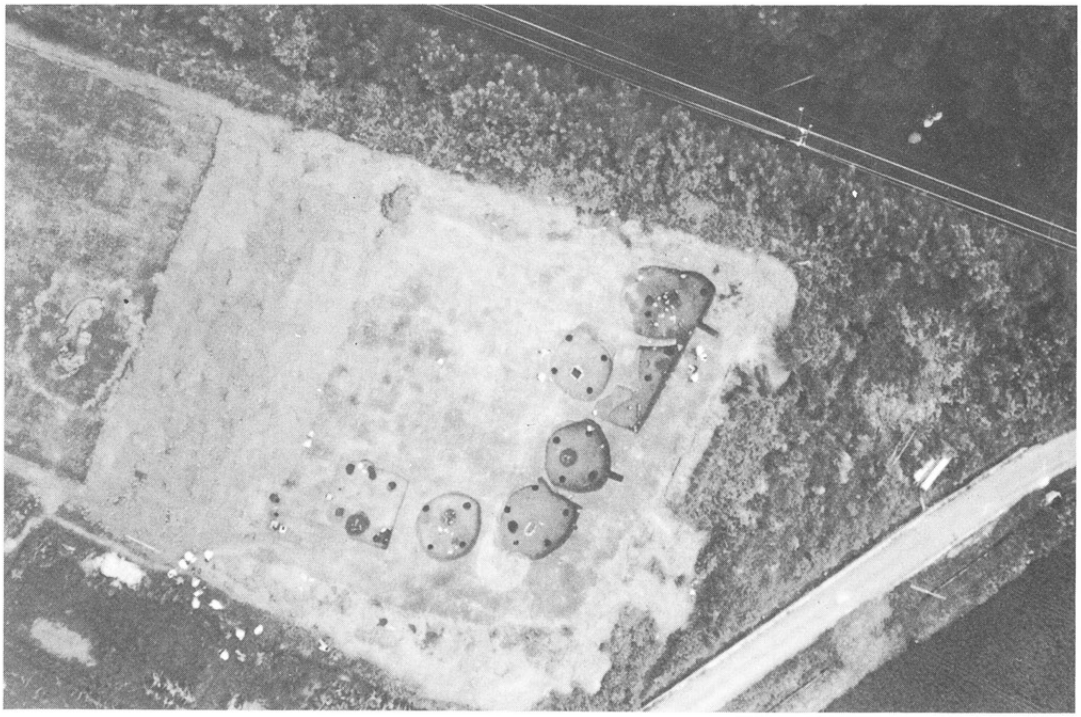
（遺　物）　縄文時代中期土器片20点，中世陶器片100点。

（まとめ）　縄文時代中期及び中世の遺物散布地である。

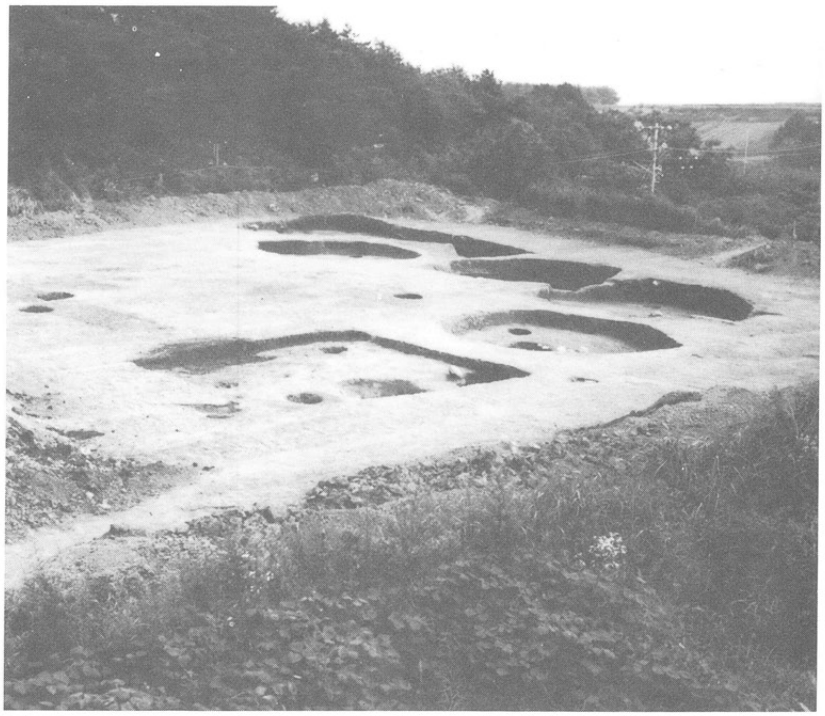


P 1　遺跡航空写真

P 2　遺跡航空写真



P 3　遺跡航空写真

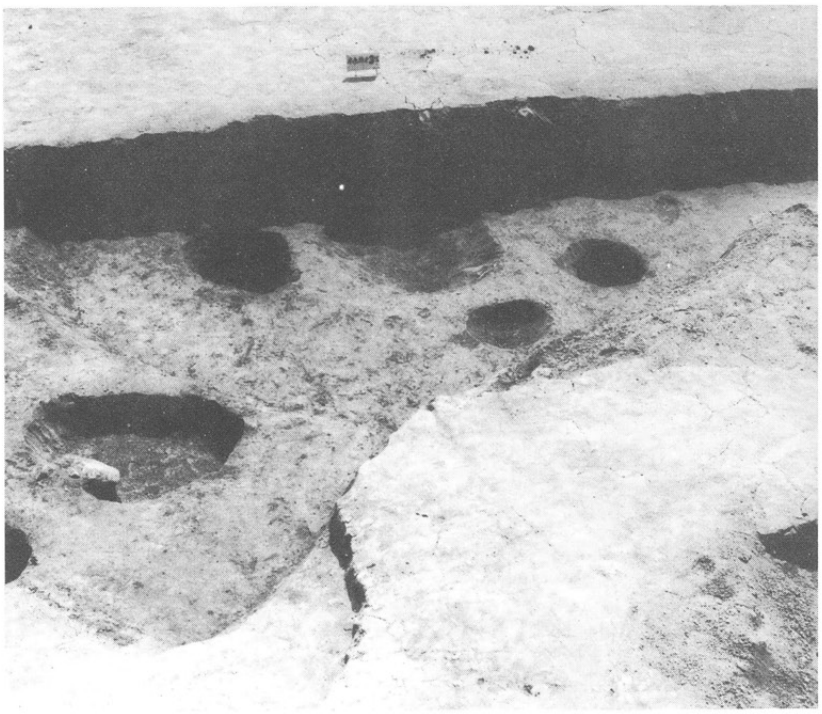


Ｐ４　遺跡全景

Ｐ５　トレンチ調査

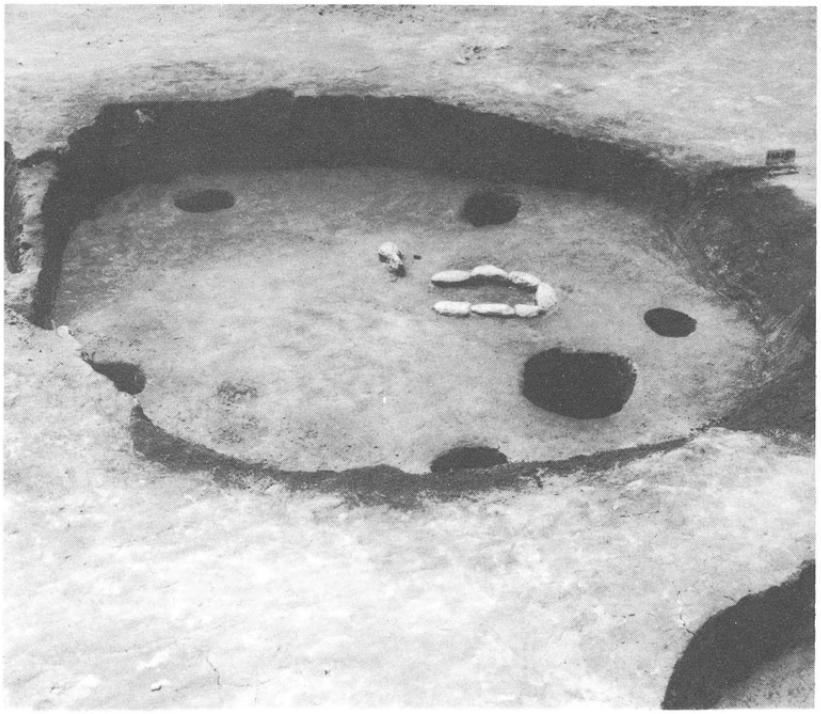
P 6　第1号住居址

P 7　第2号住居址



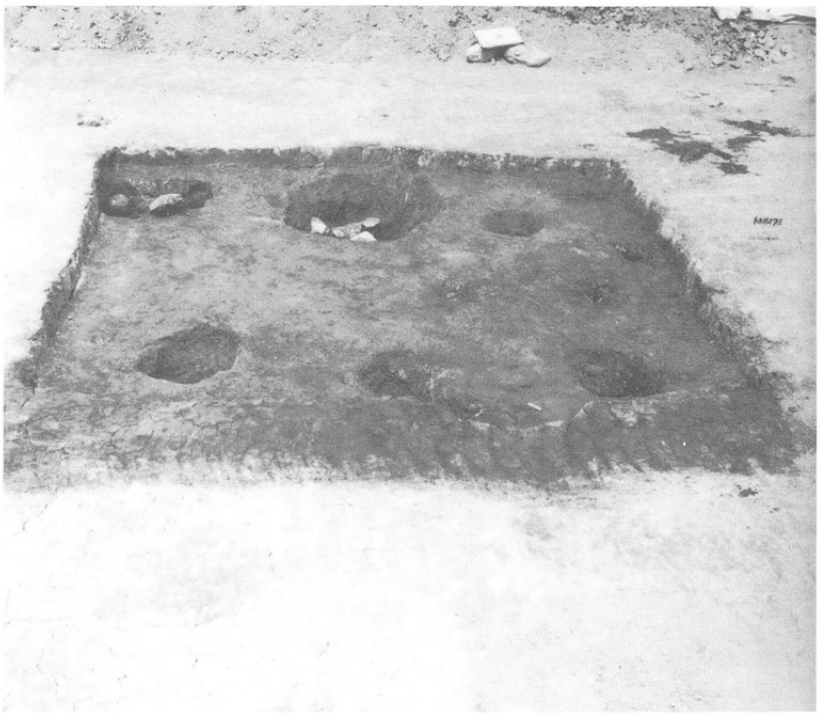
P 8　第3号住居址

P 9　第4号住居址



P 10　第 5 号住居址

P 11　第 6 号住居址

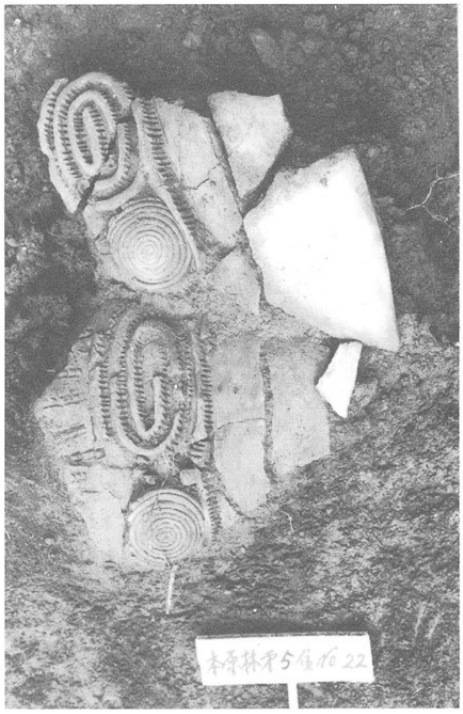


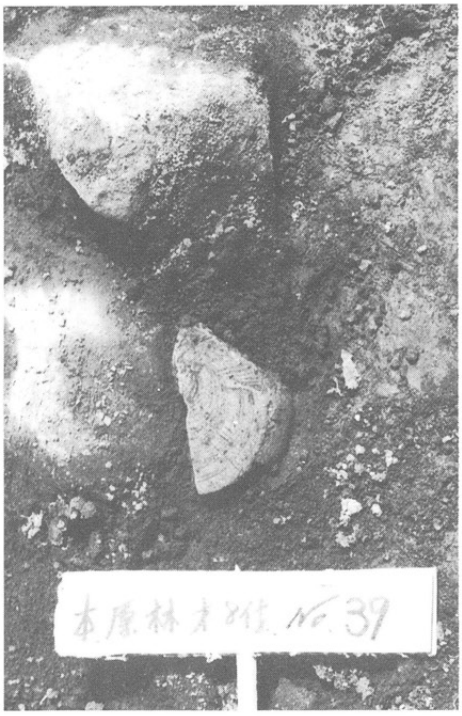
P 12　第 7 号住居址

P 13　第 8 号住居址

P 14　第 9 号住居址土器出土状況

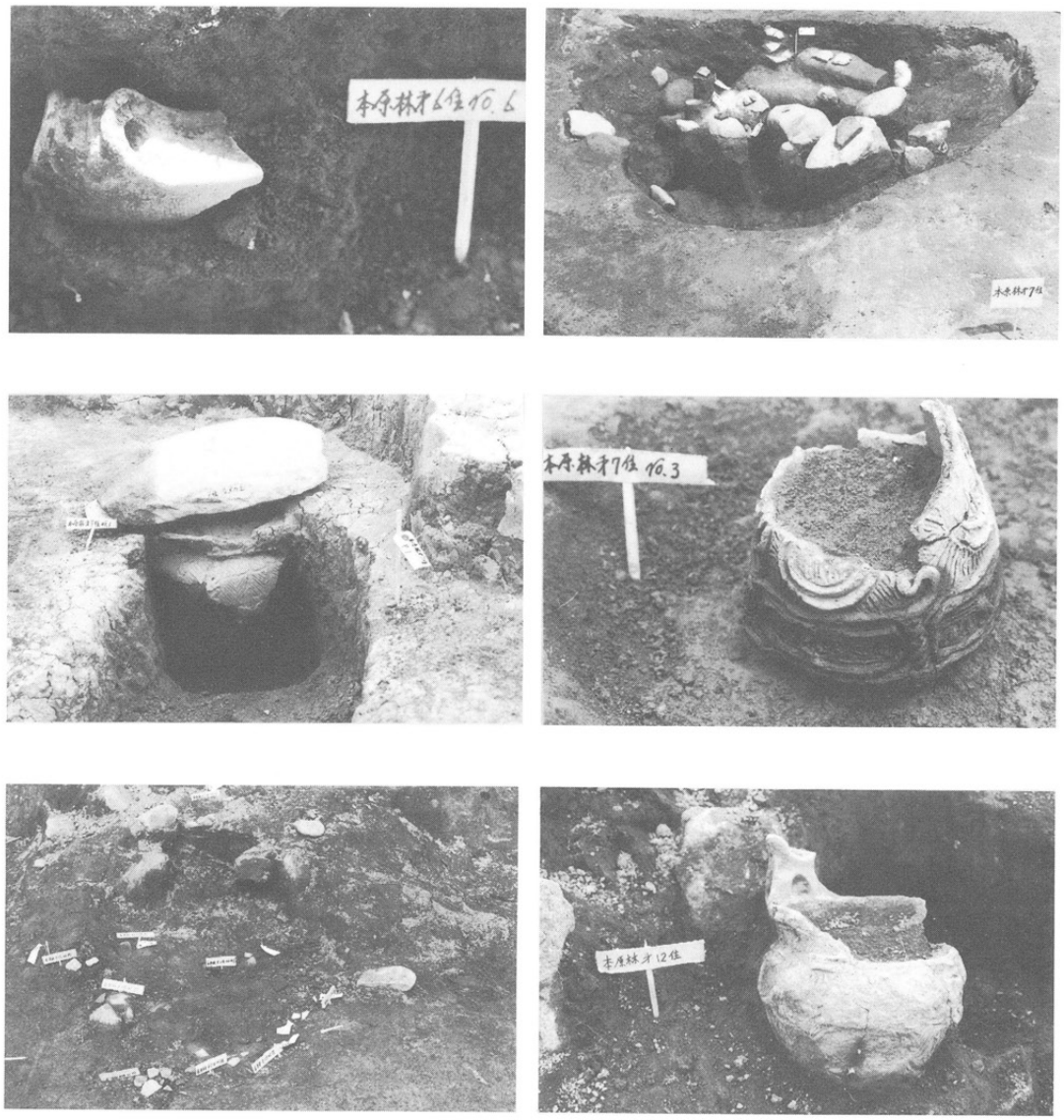
P 15　第11号住居址土器出土状況





P 16　土器出土状況

P 17　土器出土状況



P 18　土器出土状況

田切平沢遺跡

目　　次

目次，挿図目次，図版目次
第Ⅰ章　遺跡の概観 …… （2）
　第1節　位置 …… （2）
　第2節　地形・地質 …… （2）
第Ⅱ章　発掘調査の経過 …… （4）
　第1節　発掘調査に至るまで …… （4）
　第2節　調査日誌 …… （4）
第Ⅲ章　遺構・遺物 …… （5）
　　第1号住居址 …… （6）
第Ⅳ章　まとめ …… （10）

挿　図　目　次

第1図　位置図（1：100000）
第2図　地形図（1：2000）
第3図　遺構配置図（1：400）
第4図　第1号住居址平面図（1：60）
第5図　第1号住出土土器（1：4）
第6図　第1号住出土遺物（1：3）

図　版　目　次

P1　第1号住居址
P2　遺跡全景
P3　調査風景
P4　土器出土状況
P5　土器出土状況
P6　石器出土状況

第Ⅰ章　遺跡の概観

第1節　位　置

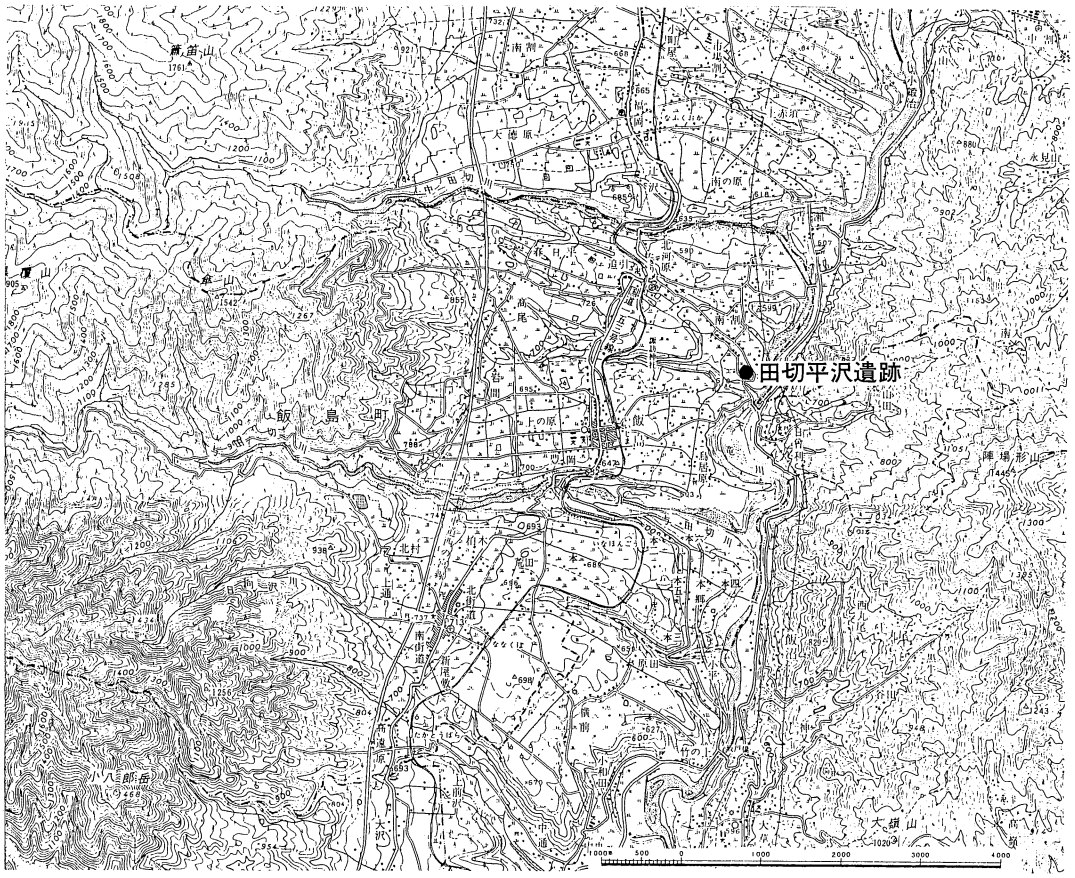
田切平沢遺跡は，長野県上伊那郡飯島町大字田切2312番地に所在する。

遺跡は，中央アルプス扇状地の扇端部，天竜川の河岸段丘上に位置する。遺跡に至るには，国鉄飯田線田切駅で下車し，東南へ約2kmほど歩いたところである。遺跡の中心で標高560mをはかる。

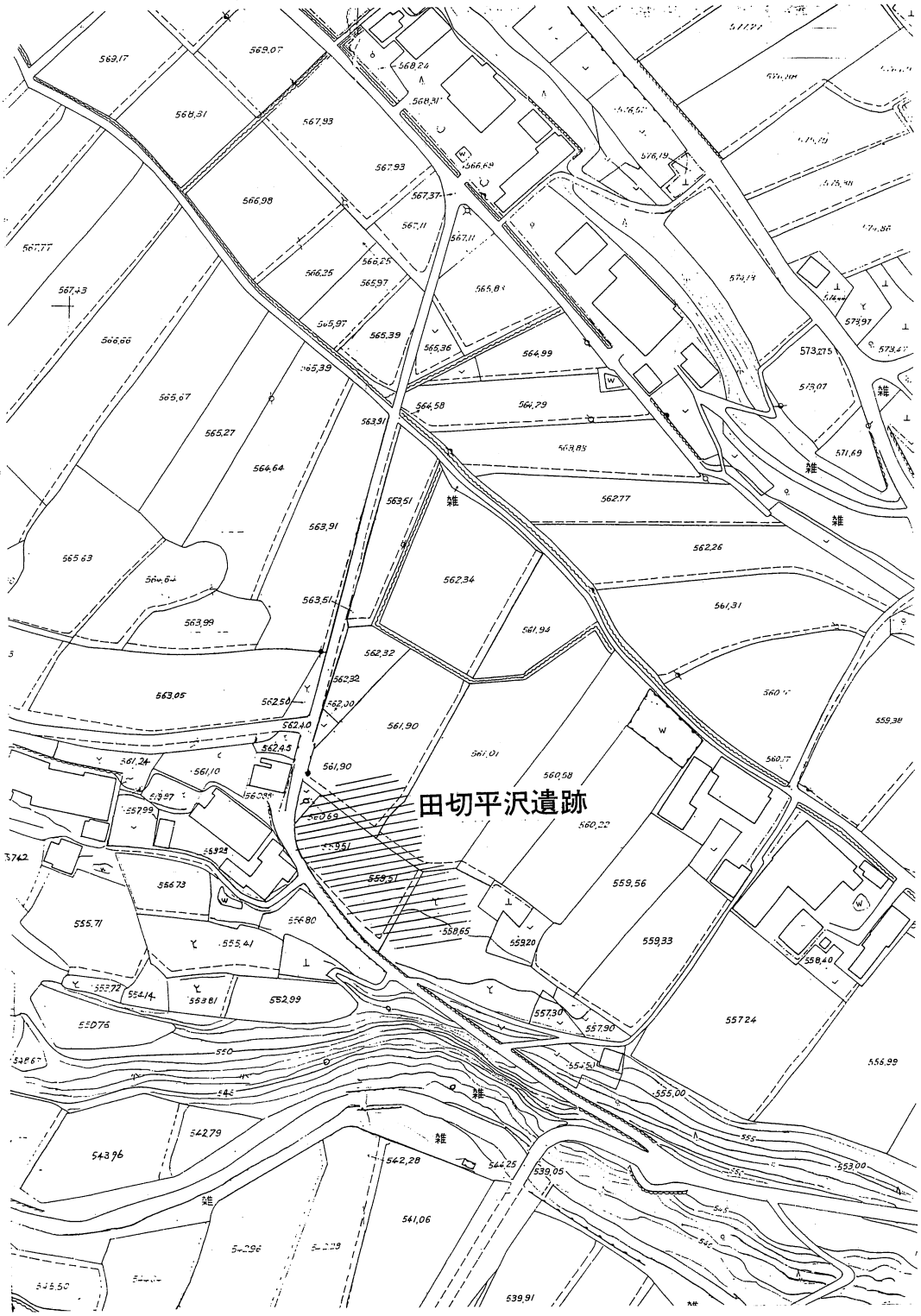
第2節　地形・地質

当遺跡は，天竜川・中田切川により形成された河岸段丘上にあり，南側は郷沢川に向って傾斜している。

調査地区の土層については，水田，桑園により撹乱されており，礫層の基盤の上にローム層，砂礫層，耕作土層が堆積していたものと思われる。



第1図　位置図（1：100,000）



第２図　地形図（１：２０００）

第Ⅱ章　発掘調査の経過

第1節　発掘調査に至るまで

県営ほ場整備事業田切地区第33工区にある田切平沢遺跡の埋蔵文化財緊急発掘調査を飯島町では，飯島町遺跡調査会に委託し実施した。

〔飯島町遺跡調査会〕

会　長	熊崎安二	（教育長）
理　事	片桐　修	（飯島町文化財調査委員）
	宮下静男	（〃）
	北原健三	（〃）
	桃沢匡行	（〃）
	松崎研定	（〃）
	中島淑雄	（〃）
	片桐佳彦	（〃）
	小林嘉男	（〃）
監　事	池上　勇	（飯島町監査委員）
	中野武司	（〃）
幹　事	吉沢内次	（飯島町教育委員会教育次長）
	米沢長実	（〃　係長）
	伊藤　修	（〃　主事）
	宮下淑江	（〃　主事）

〔発掘調査団〕

団　長	友野良一	（日本考古学協会員）
調査員	伊藤　修	（飯島町教育委員会主事）
〃	和田武夫	（長野県考古学会員）

第2節　調査日誌

田切平沢遺跡の調査における主だった項目を拾ってみた。

○調査は，昭和55年10月27日より着手し，昭和56年3月20日に完了した。

○調査は，調査地区全体に2m四方のグリットを設定し行なった。

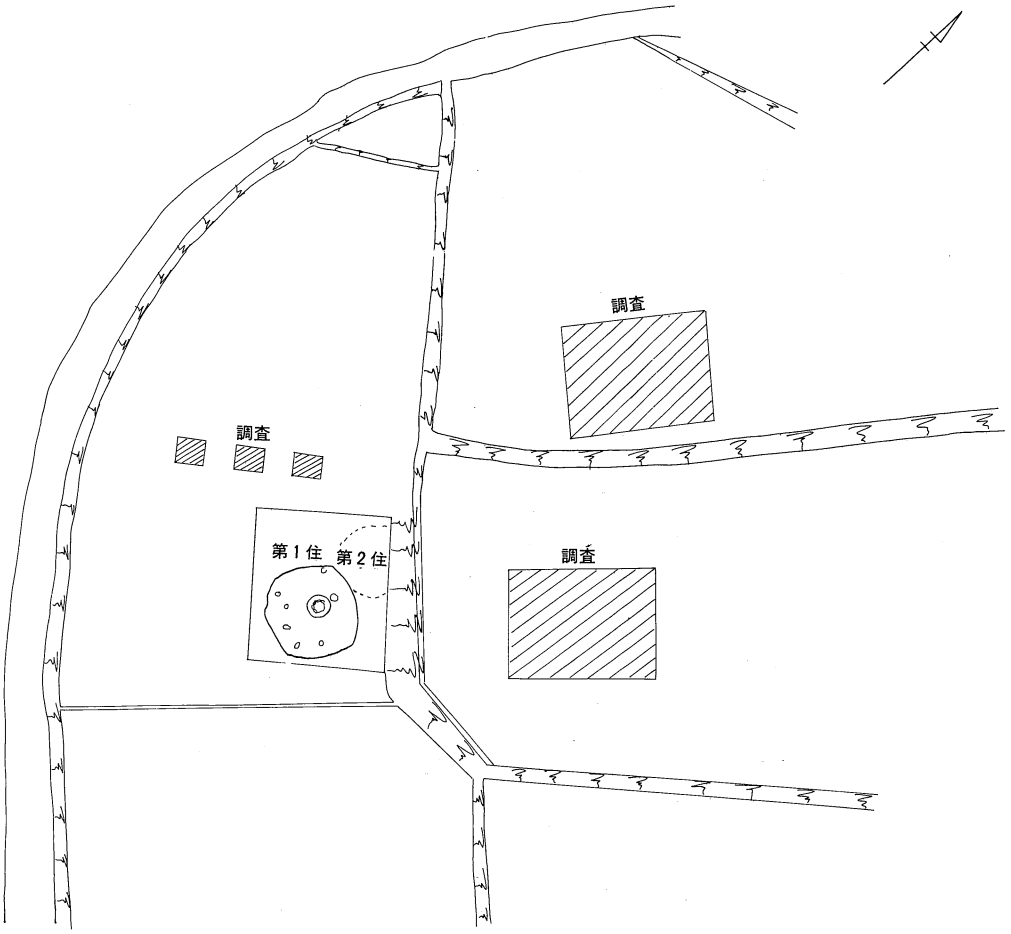
○遺物について，主要なものは平面図に出土点，出土高等を記録した。

○遺構については，平面図の他にできる限り遺構断面の土層も記録を行なった。

第Ⅲ章　遺構・遺物

遺跡は開田により相当破壊されたものと思われる。

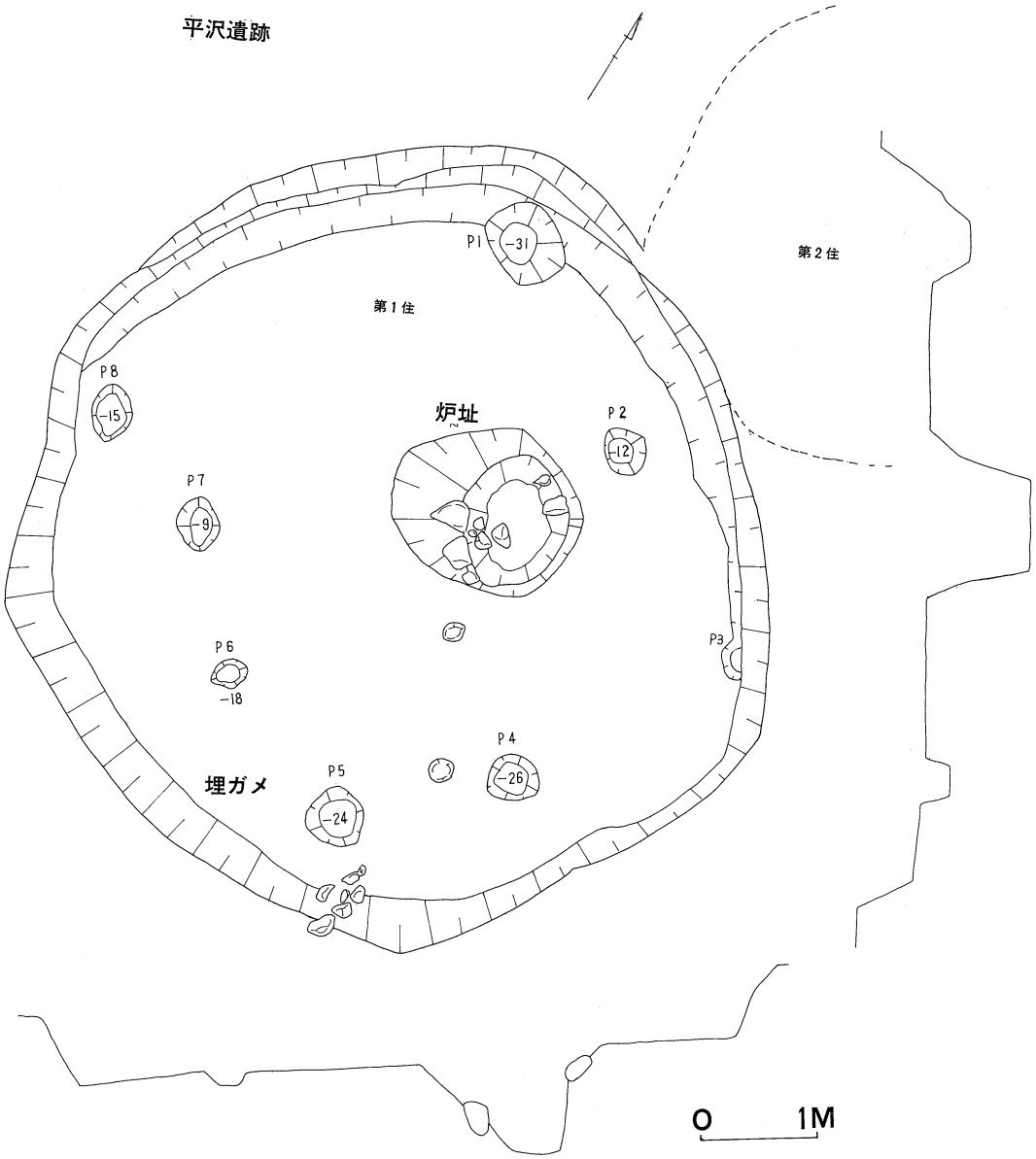
今回の調査では住居址が１箇所検出された。また第１号住居址の北側に隣接して第２号住居址が検出されたが破壊されており遺構の確認のみにとどめた。



第３図　遺構配置図（１：400）

第１号住居址

調査地区の中央部に位置する。直径約６ｍ50㎝の円形を呈する住居址である。住居址は砂礫層を深く掘り込んで造られており，壁はゆるやかな傾斜がみられる。住居址北側半分には周溝が巡らされている。柱穴はP_1～P_8の８箇所が確認された。P_1，P_5，P_8は主柱穴と考えられる。炉址は住居址中央やや東側に位置し，大形の深いものである。底部には焼土がみられた。炉石は抜き取られ，僅かに残っている。住居址南東床面には埋甕がみられる。遺物の出土は，覆土，床面とも多い。いずれも縄文時代中期後半のものである。

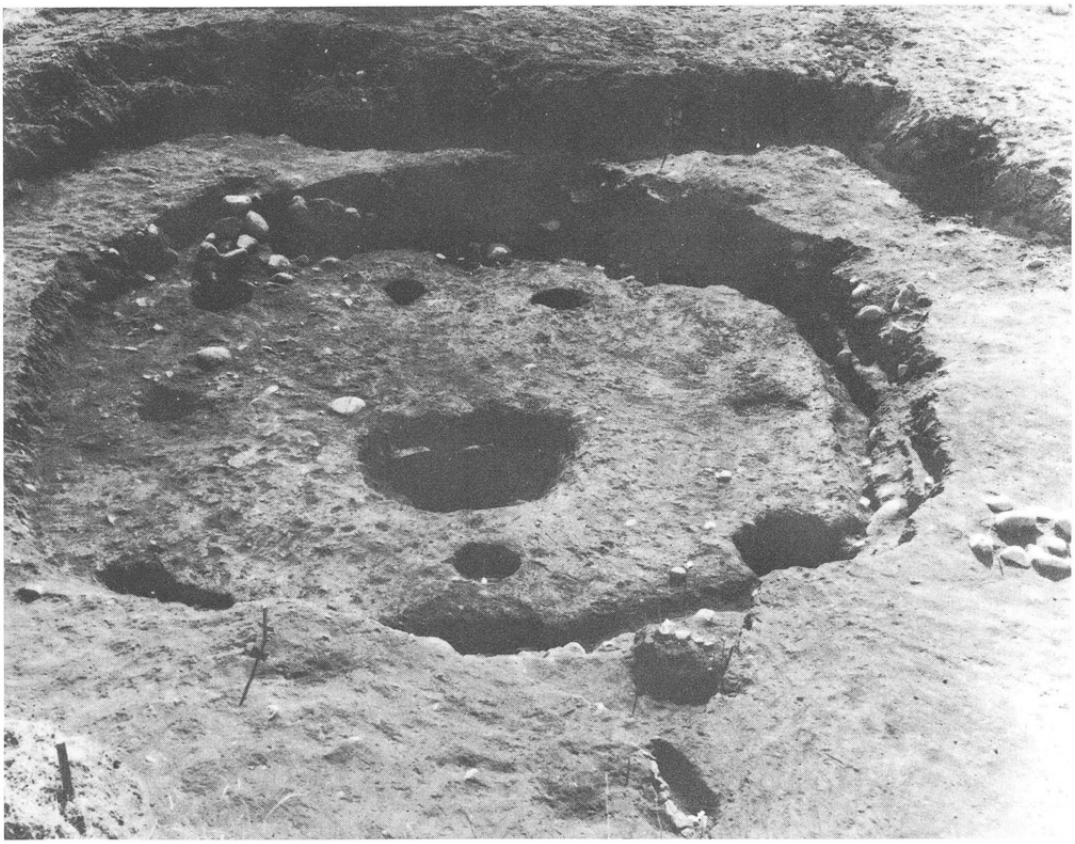


第４図　第１号住居址平面図（１：60）

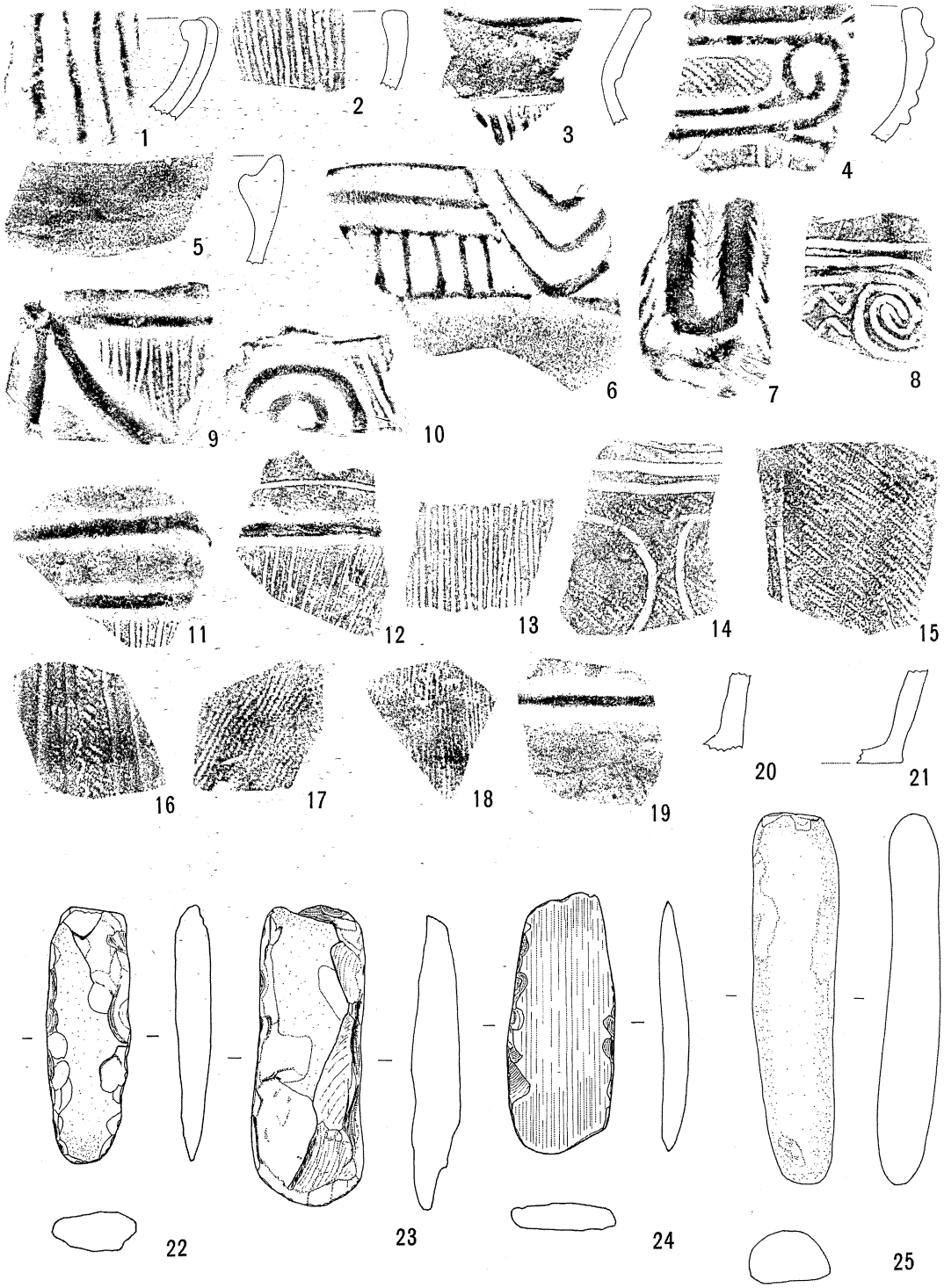
表　第１号住出土石器一覧表

名　　称	完　形	欠　損	合　計
打製石斧	17	10	27
磨製石斧	2	0	2
石　　匙	2	0	2
磨　　石	7	0	7
横刃形石器	8	13	21
黒曜石片		35	35

▶第5図　第1号住居址出土土器（1：4）



Ｐ１　第１号住居址

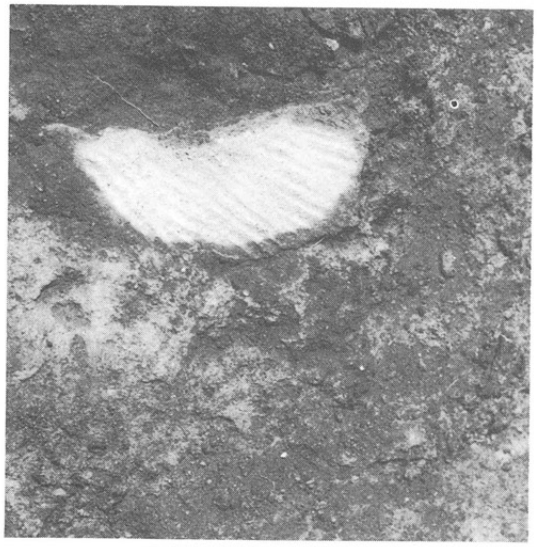


第６図　第１号住出土遺物（１：３）

P 2　遺跡全景

P 3　調査風景

P 4　土器出土状況



P 5　土器出土状況

P 6　石器出土状況

第Ⅳ章　まとめ

田切平沢遺跡は，飯島町大字田切2312の１番地に所在する遺跡である。

遺跡は，郷沢川の左岸段丘上南斜面に位置する。郷沢川をへだてて右岸段丘上には室町～戦国時代の城址である唐沢城がある。唐沢城からは，中世の遺物の他に縄文時代中期の土器片が発見されている。また唐沢城の西には石曽根堂前遺跡があり縄文時代中期，平安時代の集落が確認されている。当該遺跡は，これらの同時代の遺跡群のなかに位置する。

調査地区は，水田造成時に傾斜面を1.5ｍ程削り取っており遺構は相当破壊されたものと思われる。住居址は２軒確認されたが，１軒は造成時に破壊された。

住居址は，東西6.5ｍ，南北6.5ｍ，深さ40cmの竪穴住居址であり，炉石の抜き取られた石囲炉である。遺物は，住居址覆土より比較的多く出土した。

埋甕は，住居址南東の壁付近より出土した。口径27.5cm，高さ41cm，口縁部無文帯，頸部に４箇所５cm程の粘土による縄を垂下し，その間は横位に隆線が施され，箆状器具による刺突文と，隆線状の波状文が交互に施され，その下には８区画された楕円文がめぐらされている。胴部には蕨手状の大柄な懸垂文が下り，その間を綾杉文がうめられている。曽利Ⅱ式に比定される土器である。

報告書の刊行にあたり，多くの方より献身的な御支援をいただいたことに対して心より感謝の意を表するものであります。

（団長　　友野良一）

高尾第１，本郷原林，田切平沢

－緊急発掘調査報告－

昭和56年３月15日　印刷
昭和56年３月20日　発行

発行所　長野県上伊那郡飯島町

印刷所　藤原印刷株式会社
松本市新橋７－21
TEL 0263(33) 5092(代)